

明治大学博物館

年

報

2020年度



明治大学博物館

年 報

2020年度



明治大学博物館

目次

I 展示活動	5
1. 特別展「氷期の狩人は黒曜石の山をめざすー明治大学の黒曜石考古学ー」	
2. その他の展覧会／コラム展示	
II 教育普及活動	9
1. 講座	
2. 博物館実習	
3. 在学生対象事業	
4. アウトリーチ活動	
5. 社会連携・大学間連携	
6. 情報発信	
7. 博物館ボランティア活動	
8. 明治大学博物館友の会	
III 研究活動	16
1. 調査・研究活動	
2. 研究業績	
3. 刊行物	
4. 大久保忠和考古学振興基金	
IV 収蔵資料	17
V 統計・一覧・資料	25
1. 入館データ	
2. 組織・構成	
3. 予算・決算	
4. 施設概要・見取り図	
5. 規程	
6. 2020年度博物館長期・中期計画	
7. 2020年度単年度計画重点項目	
8. 明治大学博物館のあゆみ	
VI 2020年度協定事業シンポジウム「今、博物館は何をするべきか」の実施	44
VII デジタルコンテンツ『江戸の物価と世直し一揆』について	47
VIII 刑事部門2020年度購入・寄贈資料について	51
IX 館蔵の金銀緑松石象嵌青銅帯鉤について	55
X 精陶社関係資料について	58

表紙写真

新収蔵・収蔵資料展2020-2021 出展資料より

巻頭言

博物館長 千葉 修身

COVID-19（新型コロナウイルス感染症）の国内初の患者が2020年1月16日に確認されて以降、この感染症は、エピデミックの域を超えてパンデミックの様相を顕著に示し、わが国もまた、その影響を免れることはできませんでした。

当館も2020年4月1日より10月11日までの約6ヶ月にわたり、臨時休館措置を余儀なくされました。漸く10月12日より本学学生・教職員を対象とした当館の施設利用制限は解除され、同年11月11日には一般を対象とした入館制限の解除（常設・特別展示室の利用のみ）にも踏み出しました。その後も、数回にわたり緊急事態宣言が発出されましたが、その中であっても、本学の活動制限指針に従いつつ、博物館の社会的使命を中断させることなく、細心の感染防止対策を十分に講じながら、その運営を維持してきました。その意味で、ここにお届けする「2020年度明治大学博物館年報」は、コロナ禍における当館の社会的使命遂行に向けた苦闘の記録であり、歴史的報告書ともいえるものです。

こたびの感染症の影響は「年度別入館・利用者数」の推移に顕著に見て取ることができます。既に90年以上の歴史を持つ当館にあって、その数は概ね、右肩上がりの傾向を示し、2019年度は約11万5千人の大台に達しておりました。2020年度は、それが5千名近い水準にまで落ち込みますが、逆を言えば、来館希望者は、まだ11万人はおられるということになります。この点を逸早く察し、7月には「明治大学博物館Onlineミュージアム」が、8月には「Mm × おうちミュージアム」が開設されました。当館の空間が醸し出す独特の雰囲気までは満喫できないかもしれませんが、各部門各展示物の内容を詳しく知るといふ点では格好の（もう一つの）「博物館」の完成を見ることができました。

こうした絶え間ない発信を続けることで、10月には、その開催が危ぶまれていた特別展も開催することができました。「氷期の狩人は黒曜石の山をめざすー明治大学の黒曜石考古学ー」は、2020年度に計画された展示企画の中で唯一開催に漕ぎ着けることのできた特別展であることから、実に感慨深いものがあります。11月から一般を対象とした入館制限が解除されこともあって、多くの来館者をお迎えすることができました。この特別展は、明治大学黒曜石研究センターと長和町教育委員会のご協力の下、当館の主催で12月15日までを会期としていました。ご好評を得て、同展は2021年1月27日まで延長することができ、2020年11月30日からはその“バーチャル”化も展開されました。

当館の苦闘は、こうした知の発信・公開だけに限りません。その大学施設の一部でもあることから、コロナ禍の制約下でも、学生・生徒に対する地道な教育活動も展開いたしました。その一

I 展示活動

1 特別展「氷期の狩人は黒曜石の山をめざすー明治大学の黒曜石考古学ー」

(1) 実施形態

主 催	明治大学博物館
企 画	明治大学博物館 明治大学黒曜石研究センター 長和町教育委員会
会 期	10月15日(火)～1月27日(水) 104日間 (日曜・祝日, 冬季休業期間は閉室) ※当初会期10月15日～12月15日を1月27日まで延長 ※新型コロナウイルス感染症(COVID-19)対策として開室時間を平日:10:30～16:30, 土曜10:30～12:30に変更
会 場	アカデミーコモンB1博物館特別展示室 入場無料 入場者数805名(同期間常設展1,240名)
担 当 者	島田和高(博物館学芸員)

(2) 概要

1950年の文学部考古学専攻の設置と1952年の明治大学考古学陳列館の開館にはじまる明治大学の考古学は、日本列島の旧石器時代、縄文時代、弥生時代そして古墳時代を中心に多数の遺跡発掘調査を行い、戦後の日本考古学を牽引してきた。それらの研究テーマは多岐にわたるが、系統的に現在まで引き継がれてきている。このたび博物館は、1980年代半ばより長和町(長野県)と明治大学が共同で取り組んできた中部高地黒曜石原産地における旧石器・縄文時代の黒曜石研究の35年余りに及ぶ研究の歩みを振り返り、これを受け継ぐ形で2010年より明治大学黒曜石研究センターが中核となって展開した考古学、古環境学、分析化学による学際共同研究の最新成果を公開することを目的とした特別展を企画した。「明大黒曜石考古学」とも総括しうる、地域連携を織り込んだ研究の特色と黒曜石を題材とした過去のヒトと資源と環境の相互作用を究明する科学の面白さを展示をとおして伝えられたとすれば幸いである。

本特別展は博物館が主催し、明治大学黒曜石研究センターと長和町教育委員会の協力のもと2020年10月15日～2021年1月27日にかけて開催された。しかしながら、新型コロナウイルス(COVID-19)感染拡大の影響から展示構成の大幅な計画変更を余儀なくされ、予定していた関東・中部地方全域を対象とした旧石器時代の黒曜石利用の時系列での変化を再現する展示は、資料調査等への制約から省略せざるをえず、全体にパネル解説を中心とした展示内容へと修正した。展示項目ごとの概要は後述のとおりである。

大学方針による博物館本体の臨時休館措置は、感染対策を講じた上で開幕直前となった11月11日より解除され、開館時間や開館日は制限したものの、一般市民の来館も可能となった。しかしながら、結果として常設展示も含めて特別展への来館者数は例年の1/10以下の実績となった。特別展の準備期間中から、仮に開館を再開しても来館者数には強い制約がかかると予想されたため、バーチャル展示室(ウェブコンテンツ)によるオンラインでの特別展の公開を企画し、10月末に明治大学博物館Online ミュージアムで公開した。これは展覧会のアーカイブとして常時閲覧可能である(6.情報発信を参照)。また12月には、このコンテンツを用いた展示解説を明治大学リバティアカデミーの試験的なオンライン講座の一環として実施し、125名の視聴があった。

最後に、COVID-19による困難な状況下にも関わらず、展示の準備と開幕にあたってご尽力とご協力を頂いた関係機関および関係各位に感謝の意を表する次第である。

つが博物館実習(館務実習に限定)の実施です。当初は様々な実施上の問題点も浮上していました。それでも、参加者数は、商品部門では11名、刑事部門では10名、考古部門では9名に上りました。また、調布キャンパスの明治高等学校・中学校校舎建設にともなう2004年度から2007年度の明治大学校地内遺跡調査団による埋蔵文化財発掘調査で発見された下原・富士見町遺跡からの出土品を保管する当館は、アウトリーチ活動として、在校生の歴史・地理への興味を喚起し理解を深める目的で、同校舎1階のホワイエに設置した展示ケースに下原・富士見町遺跡出土遺物の展示を制作し11月26日から公開いたしました。

さらには、生涯学習の一環として、明治大学博物館友の会においては、Zoomを利用して3回の講演会が実施されております。特に、2021年2月4日には第1回として橋本裕行先生(櫃原考古学研究所特別研究員・明治大学文学部兼任講師)により演題「中国古代国家の形成過程」が、2021年2月20日には第2回として品田悦一先生(東京大学大学院教授・明治大学文学部兼任講師)により演題「万葉集に書き込まれた長屋王事件の痕跡」が講じられ、いずれも多数のご参加を得て大盛況とのことでした。

以上に述べました事柄それ自体は、すべて本年報に詳細に記されております。ここでは、巻頭にあたり、そうした事実を「いま、博物館は何をなすべきか」という課題の下に位置づけてみた次第です。

我々博物館スタッフは、2020年度以降、「不要不急の存在」の呪縛から「博物館」を解き放つべく、眼前の諸課題の解決に積極果敢に挑戦し続けて参りました。確かに、文化政策に経営・財政事情が与える影響は無視できません。しかし、過去を振り返って現在を省み、そして未来に思いを馳せる、「自己再生」の場、まさに「心のワクチン」を提供し、自己を取り戻す場として、いまこそ博物館は求められているといえます。当館の収蔵資料は、人類の英知の蓄積と言える稀有の資源であり、社会への貢献と人材の育成、学びを基軸とした新たなコミュニティの形成において、その果たす役割は、不要不急の次元では捉え切れない、必要不可欠の次元にあると確信するものです。

(ちばおさみ 明治大学商学部教授 2020年4月1日館長着任)

(3) 展示構成

①「なぜ黒曜石を研究するのかー世界の黒曜石研究ー」

黒曜石は火山の噴火で噴出したマグマが冷え固まった火山ガラスである。原産地は世界各地の火山帯地域に分布し、打ち欠きやすく、簡単に鋭利な刃先が得られることから、各地の金属器使用以前の先史時代人が石器の原材料として利用していた。黒曜石遺物は原産地から最大で数千キロメートルの広域にわたって分布する性質があるため、世界各地の人類学・考古学者が先史時代人の広域移動や交易などの実態を解明するために黒曜石研究を進めている。日本列島には、北海道、中部・関東、九州北部に大規模な黒曜石原産地があり、旧石器・縄文時代人の広域の移動や交換・交易などのテーマが原産地と遺跡の研究により深く掘り下げられている。

②「明治大学の黒曜石考古学クロニクル」

明治大学は、1984年より長野県小県郡長和町と共同で、中部高地黒曜石原産地で鷹山遺跡群の発掘調査を進め、旧石器時代の大規模石器製作工房や縄文時代の黒曜石地下採掘鉱山の実態解明に成果を上げた。2000年には、現地に明治大学黒曜石研究センターを設置、原産地研究を進めるとともに、学内の社会連携機構と連携して長和町への学内研究リソースの還元などを含む地域連携事業を展開した。2010年以降、私学助成金などを活用し考古学、古環境学、黒曜石遺物の原産地同定を行う分析化学の学際共同研究を広原湿原と広原遺跡群を中心に実施。先史黒曜石研究の国際交流と国際発信にも重点を置き、ヒトー資源環境系の人類史の観点から研究の幅を広げつつ現在に至る。

③「最終氷期におけるヒトと黒曜石のダイナミクス」

2010年から黒曜石研究センターが展開した文科省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「ヒトー資源環境系の歴史の変遷に基づく先史時代人類誌の構築」では、広原湿原の古環境調査と広原遺跡群の発掘調査を中心に黒曜石の利用を媒介としたヒトと環境変動との相互関係を解明する共同研究プロジェクトを実施した。中部高地原産地に位置する広原湿原で得られた過去3万年間の中部高地古環境変動と8.5万件の黒曜石遺物原産地分析結果などをもとに解明した、氷期である旧石器時代における中部高地原産地開発の変遷にみられるダイナミクスを展示パネルを中心に解説した。また、広原遺跡群の出土品を展示し、遺跡の解析から解明した原産地での黒曜石獲得をめぐる人類行動を紹介した。

④「完新世初頭の気候温暖化と鉱山活動」

1991年に星糞峠の発掘調査で発見された縄文時代の黒曜石採掘鉱山は、その後2001年に国史跡に指定され、2007年～2019年にかけて長和町教育委員会により史跡整備に伴う発掘調査が実施された。地表から3～4メートルの深さにある黒曜石を包含する星糞火砕流堆積物をめざし、山の斜面を繰り返し切り崩した鉱山活動はどのように始まったのか。広原湿原の古環境記録に示されたように、晩氷期以降のグローバルな気候温暖化による中部高地原産地の森林化が、旧石器時代的な地表や河床での黒曜石採取から、地下に埋蔵された黒曜石を採掘する縄文時代的な組織的活動への変化を促した可能性が高い、という仮説を紹介した。

(4) 展示資料の概要

出展総数：合計278点。黒曜石製ほか考古遺物・民族資料262点+α、黒曜石考古学成果等関連書籍14点、地域連携協定書2点。主要解説パネル20枚。

(5) 関連イベント

①開催記念講演会

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）拡大防止により開講せず。

②ギャラリートーク

ア 展示内覧会

学内役員・役職者を対象に対面で展示解説を行なった。

第1回開催 11月18日（水）12:45～、15:00～（黒曜石研究センター関係者を含む）

第2回開催 11月25日（水）14:00～

イ 明治大学リバティアカデミーオープン講座（オンライン開催）

「明治大学博物館Onlineミュージアム」のバーチャル特別展コンテンツを活用し、オンライン展示解説を行なった。

タイトル：「明治大学Onlineミュージアムに行こう！②」

講師：島田和高 明治博物館学芸員

日時：12月12日（土）14:00～15:00

視聴者数：最大125名

(6) 頒布物

①展示図録

編 著：島田和高

タイトル：2020年度明治大学博物館特別展『氷期の狩人は黒曜石の山をめざすー明治大学の黒曜石考古学』ガイドブック

発行：2020年10月15日 明治大学博物館 104頁 1,000部 頒価¥1,000

②ミュージアムグッズの制作

会期中の来館者制限のため制作せず。

(7) バーチャル特別展（ウェブコンテンツ）の制作

天球カメラとスチルカメラによる画像をもとに自由探索型のバーチャル展示室を制作した。明治大学博物館Onlineミュージアム（<http://ict-museum-meiji.tokyo/>）において、2020年11月1日より公開した。

2. その他の展覧会／コラム展示

(1) 主催・共催展覧会

①新収蔵・収蔵資料展2020

会期：6月6日～6月28日

【COVID-19により中止】

入場者数：一名

主催：明治大学博物館

2019年度に博物館が新たに収集・受贈した資料および関連する収蔵資料を紹介します。刑事部門では『七難七福図巻』（円山応挙原画）の中世における刑罰の様子を描いた写本や、大学周辺の歴史に関する史料として、江戸の切絵図としては初期のものとなる宝暦6年（1756）の「駿河台小川町図」など。商品部門では山陰地方の焼き物のマーケティング研究の成果収集物である

布志名焼雲善窯の抹茶碗。考古部門の細形銅剣は朝鮮半島製の可能性が高く、日本列島における細形銅剣の成立を考える上で重要な資料です。（展示計画）

②因・伯・雲のやきもの

会期：7月4日～8月2日

【COVID-19により延期】

入場者数：一名

主催：明治大学博物館

2016～2018の3ヶ年度にかけて実施した山陰地方の陶業についての調査成果報告展。かつて1950年代末から60年代にかけて収集した鳥取県及び島根県出雲地方の陶器製品を再評価し、また近年人気の出てきた民藝のテーブルウェアに着目します。大名茶人松平不昧で知られる松江藩御用の系譜を

引く窯元から、民藝運動の影響によって独特の個性を確立した窯元まで。まとまった規模の産地こそ未形成ながら、実にバラエティに富んだ山陰地方の陶器製品の数々についてその動向を紹介します。(展示計画)

③絵図が語る内藤藩の歴史

会期：8月18日～9月17日

【COVID-19により延期】

入場者数：一名

主催：明治大学博物館

江戸時代に岩城平（現・福島県いわき市）、延岡（現・宮崎県延岡市）などを領地とした7万石の譜代大名内藤家。明治大学博物館は、この内藤家が伝えた江戸時代の記録—古文書—を収蔵しています。本展では、貴重な古文書の中から絵図を取り上げます。城絵図や広域の領地を描いた絵図、海岸線の絵図、領地の変更に伴って描かれた絵図、土地争いの際に描かれた絵図など、さまざまな絵図に文字記録を組み合わせて、内藤藩の歴史を描きます。(展示計画)

(2) 学内団体・外部団体による展覧会

①植村直己の原点を知る

明治大学山岳部入部から60年ここから冒険が始まった

会期：4月28日～5月26日

【COVID-19により中止】

入場者数：一名

主催：公益財団法人植村記念財団

明治大学体育会山岳部

冒険家・植村直己が明治大学山岳部に入部して60年になることから、山岳部を冒険の原点ととらえ、その後の冒険にどう影響していくかに注目します。植村さんの冒険スタイルは単独行でしたが、それを支えたたくさんの仲間がいました。そのなかで山岳部の仲間たちは、常に彼の冒険を理解し支えてくれた特別な存在だったことにも触れていきたいと思えます。(展示計画)

(3) コレクション展

①商品部門

ア 館蔵品から見る 貝と人

会期：10月12日～12月25日 75日間

長きに渡り様々なモノづくりの「素材」として利用されてきた貝について、特性やそこからの用途を展示した。

イ 急須のカタチ

会期：2021年1月8日～3月6日 45日間

急須の形状の違いを中心に、急須流行のきっかけとなった淹茶の略歴と各急須の用途を紹介した。

ウ がんばんべえ大堀相馬焼

会期：2021年3月8日～29日 18日間

東日本大震災10年にあたり、震災によって離散を余儀なくされた大堀相馬焼を紹介。応援を呼びかけた。

エ 山陰の工芸品

会期：2021年3月30日～6月5日 55日間

近代化の荒波をくぐり抜け受け継がれた小規模ながら味わいのある手仕事の数々を紹介した。

②刑事部門

2020年度は実施せず。

③考古部門

ア 明大コレクション45：

前場幸治コレクション⑦国分寺の文字瓦

会期：10月12日～11月11日 85日間

型押・へら書きなどの方法で文字が記された「文字瓦」から、関東地方の国分寺の造営体制の実像について紹介した。森本尚子氏制作。

イ 明大コレクショ46：

前場幸治コレクション⑧近世以降の鬼瓦

会期：11月14日～2月12日 65日間

主に一般住居の屋根に見られる鬼瓦を展示し、使用されたモチーフと併せて鬼瓦に込められた人々の願いについて紹介した。

ウ 明大コレクション：中国鏡

会期：2月22日～5月21日 90日間

戦国代から隋唐代までの中国鏡40面を展示。鏡の形状や文様の変遷を紹介した。

(4) 図書館ギャラリー展示

①中央図書館ギャラリー

2020年度は実施せず。

②生田図書館ギャラリーZERO

2020年度は実施せず。

(5) 常設展示一部入れ替え

①商品部門

II 教育普及活動

1. 講座

(1) リバティアカデミー博物館入門講座【中止】

①東京の古墳を考える～多摩川下流域を中心に～

日時	4月23日, 5月7日, 5月21日, 6月4日 13:00～14:30〈全4回〉		
定員	定員20名		
会場	博物館教室		
講師	忽那敬三(考古部門学芸員)		
受講料	¥5,500	受講登録者数	30名
《趣旨》東京都下の古墳の変遷や分布を概観し、多摩川左岸下流域の古墳を実際に訪れて東京の古墳の特徴、大きさや構造について学ぶ。			
①古墳とは何か・東京の古墳の特徴 ②東京の前期・中期古墳 ③【フィールドワーク】多摩川下流域の古墳群を歩く ④東京の後期・終末期古墳			

(2) リバティアカデミー博物館公開講座

①明治大学博物館考古学ゼミナール【延期】

ア 第66回 先史・古代の海洋民を考える

日時	5月22, 29日, 6月5, 12日 18:00～20:00〈全4回〉		
定員	定員100名		
講師	①池谷信之(明治大学黒耀石研究センター) ②杉山浩平(東京大学) ③西川修一(神奈川県立旭高等学校) ④富加見泰彦(岡山理科大学・大阪経済大学非常勤講師)		
受講料	¥5,500	受講登録者数	一名
《趣旨》最新研究によって明らかになってきた旧石器時代から古墳時代までの日本列島における海洋民の実像について紹介する。			
①旧石器・縄文時代の人と海(池谷) ②弥生時代の海人集団とは(杉山) ③海浜型墳墓と首長を支えた集団(西川) ④紀伊の海人集団と古代豪族・紀氏(富加見)			

本学の創立者出身地自治体の工芸品を充実させるため、鳥取県の陶器製品(因久山焼・牛ノ戸焼・因州中井窯)弓浜織倉吉緋, 因州和紙, 山形県天童市の天童将棋駒(書き駒), 福井県鯖江市の越前漆器(漆芸見本の椀)を展示に加えた。

(3) 商学研究科と共催の公開特別講義

新型コロナウイルス感染拡大にともない大学が定める活動制限指針により、開催の前提となる調査活動が実現せず、招聘講師の交渉もできなかったため中止とした。

2. 博物館実習

(1) 館務実習

①商品部門

参加者数 明治大学11名

《実習内容》

館内施設・設備見学, ワークシート作成実習, 収蔵資料整理

②刑事部門

参加者数 明治大学10名

《実習内容》

館内施設・設備見学, 収蔵資料整理, 展示解説の発表

③考古部門

参加者数 明治大学9名

《実習内容》

収蔵資料整理, 保存処理, 坂本万七写真研究所コレクション整理, 展示パネル等製作

(2) 見学実習受入れ

2020年度は実施せず。

3. 在学生対象事業

(1) 「大学博物館の現場を実見する」

全学共通総合講座(秋学期開講月曜2限)

《授業の概要・到達目標・目的》

本学の博物館は90年以上の歴史を持つ。収蔵資料の充実や利用者サービスで大学博物館トップクラスの評価を得ており、その存在が明治大学の教育・研究活動を特色付けている。この授業では、学術資源の豊富な収蔵を特徴とする大学博物館を事例として、資料収集の経緯と手順、学術資源として幅広く研究に活用されるための手当て、さらに研究成果を社会に還元する装置としての展覧会開催に言及し、大学及び大学博物館と一般市民による生涯学習活動との関わりなど、収集・研究・教育という博物館活動の一連の流れを理解する。

回	テーマ	担当者
1	イントロダクション／博物館の役割と機能	駒見和夫*
2	我が国における大学博物館の現状と明治大学博物館の歴史	外山 徹
3	博物館資料の形成1（刑事関係文獻・歴史資料）	日比佳代子
4	博物館資料の形成2（商品関係資料）	外山 徹
5	博物館資料の形成3（旧石器・縄文資料）	島田和高
6	博物館資料の形成4（弥生・古墳資料）	忽那敬三
7	展覧会の開催まで（2020年度特別展）	島田和高
8	博物館の施設・設備	外山 徹
9	博物館資料の保管と整理1（考古資料）	忽那敬三
10	博物館資料の保管と整理2（古文書資料）	日比佳代子
11	考古資料の発掘と調査・研究	島田和高
12	古文書資料の調査・研究と資料公開	日比佳代子
13	生涯学習活動と友の会活動	忽那敬三
14	総括 ふりかえりと意見交換	駒見和夫

*文学部教授（学芸員養成課程）・博物館運営委員・本講座コーディネーター

受講登録者数29名

※オンライン会議システムによるリモート講義を実施した。

(2) 「文化資料学」（国際日本学部）

春学期開講 金曜3限

《授業の概要・到達目標・目的》

現代日本文化の基層を形成するものとして、日本の歴史や過去の生活文化に対する理解は欠かせません。今日、我々は学校教科書をはじめ多様なメディアを通してそれらを学ぶことができるようになりましたが、そこに示されている事柄は、一体、何からどのようなプロセスを経て明らかにされてきたのでしょうか。それらは様々な文化資料（文化財）に対する調査・研究の積み重ねから導き出されているのです。

この授業では、文化資料（文化財）として地域の中に最も広範に遺されている考古・歴史・民俗資料について取り上げます。これらの資料は地域博物館の収蔵体系の中心をなすものでもあります。学術研究や教育普及への利用に供するため資料がどのように整理・保存・活用されているのかを講義形式で学び、博物館が収蔵する実物資料の取り扱いや街中で目にすることのできる文化財指定物件のツアーを通して資料活用状況を理解します。

回	テーマ	担当者
1	イントロダクションー歴史を復元する方法とは？	外山
2	考古遺物と文化1（旧石器・縄文時代）	島田
3	考古遺物と文化2（弥生・古墳時代）	忽那
4	遺跡の保存と活用1（旧石器・縄文時代）	島田
5	遺跡の保存と活用2（弥生・古墳時代）	忽那
6	考古資料の展示と保管	島田
7	発掘された土器の洗浄と接合ー考古資料の整理方法	忽那
8	古文書とは何か？ー歴史叙述はどこから生まれるのか	日比
9	民俗資料とは何か？ー庶民の生活史を明らかにする	外山
10	古文書の整理と保存	日比
11	金石文ー地域に遺された歴史の痕跡	外山
12	古文書から江戸時代を知る	日比
13	有形民俗資料（民具）から祖先の暮らしを知る	外山
14	ふりかえり（ディスカッションと授業内小テスト）	日比

※新型コロナウイルス感染拡大にともない大学が定める活動制限指針により対面授業の実施が制限され、収蔵資料の実物実見という授業の趣旨を実現できないため開講せず。

4. アウトリーチ活動

(1) 下原・富士見町遺跡出土品の出張展示

調布キャンパスの明治高等学校・中学校校舎建設にともなう2004～2007年度の明治大学校地内遺跡調査団による埋蔵文化財発掘調査で発見された下原・富士見町遺跡からは、後期旧石器時代を中心に、縄文時代、近世～近・現代の遺構と遺物が出土した。明高中と出土品を保管する博物館は、在校生の歴史・地理への興味を喚起し理解を深める目的で、校舎1階のホワイエに設置した展示ケースに下原・富士見町遺跡出土遺物の展示を制作し11月26日から公開した。遺跡から出土した約3万～2万年前の後期旧石器時代の石器や復元された縄文土器、打製石斧を展示。社会科授業などを通して教材として活用される予定。

5. 社会連携・大学間連携

(1) 地域連携

①福島県いわき市

いわき市教育委員会による内藤家文書磐城平城関係史料調査の受入れと資料写真データの提供,大型絵図撮影協力。

②大英博物館所蔵ウィリアム・ガウランド写真資料（寄託資料）関連資料の活用事業

館蔵資料の利用1件について許諾した。また、福岡県みやこ町による関連資料の画像提供・許諾依頼について大英博物館および日英共同研究グループGowland Projectとの仲介を行った。

(2) 大学間連携：南山大学人類学博物館との交流事業

①オンライン交換展示の実施

通常は資料の交換展示を行っているが、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）により両館とも展示室の公開を中止していたため、オンライン展示に変更した。

ア 祈りの人形・土偶

会期：9月26日～12月23日

南山大学人類学博物館ホームページ上で公開した。

イ ユーミエン族の文献と神画

会期：9月26日～12月23日

明治大学博物館ホームページ上で公開。

②社会人向けギャラリートーク

2020年度は実施せず。

③在学生向け特別講義

ア 南山大 5月29日 5限【中止】

テーマ：大学博物館の使命と機能

講師：外山徹（商品部門学芸員）

受講生：0名

※黒沢浩教授「博物館概論」として実施予定だったがリモート講義の準備が整わず中止。

イ 明治大 11月27日 4限

テーマ 南山大学人類学博物館の試み

講師：黒沢 浩（南山大学人文学部教授）

受講生：38名

※学芸員養成課程「博物館実習」としてオンライン会議システムによるリモート講義を実施。

④学術シンポジウム

テーマ：今、博物館は何をするべきかーコロナ以後の持続可能性を考えるー

日時：12月7日（月）13:30～17:30

開催形態：Zoomウェビナーによるオンライン開催

参加者：76名

《開催趣旨》

新型コロナウイルス感染症の拡大によって、われわれの世界は危機的状況にある。コロナ以後を見据えての「新しい日常」という言葉も登場しているが、何がどう新しくなるのかは必ずしも明瞭ではない。そのような状況下で、博物館はコロナ以後の世界にどのように対応していくべきなのだろうか。モノに触れたり、人と集ったりすることは人間にとって当たり前のことであり、そうした日常の行動を通じて人間は文化や社会を形作ってきた。それを否定する「新しい日常」とは、人間らしさの喪失であるともいえる。コロナ禍の中で、われわれの従来の博物館に対するまなざしを変えなければいけないことは確かであり、博物館自体が、様々な視点からその存在意義を問い直される状況に置かれている。本

シンポジウムでは、そのような大きな価値観の変更が迫られる中で、博物館がどのように社会とかかわっていくべきかを考えたい。

■挨拶：奥田隆明（南山大学人類学博物館館長）

■趣旨説明：黒澤浩（南山大学人文学部）

■報告：

井上由佳（明治大学文学部）

「博物館が人と社会と向き合うために：英国の状況と日本の人材育成」

緒方 泉（九州産業大学地域共創学部）

「博物館」でリラックス効果がある？—心理・生理測定法の開発—

広瀬浩二郎（国立民族学博物館グローバル現象研究部）

「非接触」社会から「触発」は生まれない—2025大阪万博をユニバーサル化するための提言

■討論

パネリスト：井上由佳・緒方泉・広瀬浩二郎

進行・コーディネーター：黒沢浩

■総括：外山徹（明治大学博物館）

6. 情報発信

(1) オンライン発信

①ホームページの公開

【メニュー】ごあいさつ、明治大学博物館の理念・目標／常設展示—大学史展示室、商品部門、刑事部門、考古部門／企画展・特別展—2019年・2020年展覧会案内、過去の展覧会／来館案内—開館時間・休館日・アクセス等、館内の取材・撮影について、博物館蔵資料の利用／団体見学について／図書・古文書の利用—博物館図書室、古文書閲覧のご案内／ミュージアムショップM2—特別展図録、刊行物、郵送販売のご案内／教育プログラム／博物館の重点事業(特定課題の取り組み)／学芸スタッフ紹介／明治大学博物館友の会—入会のご案内、行事予定、展示解説ボランティアについて、図書室受付ボランティアの募集について、分科会のご案内／広報誌「ミュージアム・アイズ」／博物館年報／明治大学博物館アーカイブ／ニュース一覧／イベント一覧／明

治大学博物館公式Facebook／明治大学博物館公式Twitter／明治大学博物館 公式Instagram

※常設展示紹介を動画コンテンツに更新した

②「明治大学博物館Online ミュージアム」

常設展、特別展、企画展ならびに商品・刑事・考古部門の多彩な収蔵資料を多角的な視点から情報発信する目的で、ウェブサイト「明治大学Onlineミュージアム」を制作し、2020年7月14日に公開した。コンテンツの概要は以下の通り。一部制作中のコンテンツもあるが、コロナ禍による臨時休館中に公開することで、来館できない方々への適時的なサービスとして機能することになった。10月15日から開幕した博物館特別展についても、バーチャル展示室を制作し、11月30日に同サイトで公開。バーチャル展示室は、アクセス者個人が主体的に閲覧することを想定して制作したが、コロナ禍でのオンラインによる情報発信が施行される中、リバティアカデミーのオープン講座として、オンライン会議アプリを利用してバーチャル展示室を共有し、不特定多数へ展示解説を行うという制作時には想定していなかった活用法による成果も得られた。

【主要コンテンツ】

ア 「展示室をあるく」

展示室の天球画像とスチル画像を組み合わせた自由探索型のバーチャル展示室

イ 「詳しく知る」

収蔵資料データベース、準備中

ウ 「じっくり見る」

360°画像や高精細画像を用いた資料観察用のインタラクティブコンテンツ

エ 「展示会アーカイブ」

特別展・企画展ほかの動画コンテンツを配信

③「おうちミュージアム」

北海道博物館が呼びかけている「おうちミュージアム」の取り組みに参画した。賛同する全国の200館を超える博物館・美術館が「おうちミュージアム」という共通の冠名称を共有して、コロナ禍による臨時休館措置の代替事業として、あるいは自宅学習を余儀なくされ

ている児童・生徒向けのサービスとして、館内の情報を発信、また自宅で学べるコンテンツなどを紹介した。

【コンテンツ一覧】

ア 小学5～6年生向け「伝統工芸をまなぶ（PDF）」

イ 収蔵資料紹介

漆器①②③（商品・動画）／武家諸法度（刑事・PDF）／生類憐みの令（刑事・PDF）／公事方御定書（刑事・PDF）／図解五拾五ヶ條（刑事・動画）／捕者道具他（刑事・動画）／亀ヶ岡遺跡出土 遮光器土偶（考古・動画）／舟塚古墳出土馬形埴輪（考古・動画）／茂呂遺跡出土ナイフ形石器（考古・動画）

ウ 土器をくっつけて復元してみよう

神奈川県二ツ池遺跡出土：壺形土器・パズル

エ 武道修行鍛錬競ぬりえ

オ めいじろうぬりえ

「やよいどきをぬってみよう！」

「アマビエめいじろうをぬってみよう！」

(2) 印刷物

①外国語版（英語・中国語・韓国語）常設展示ガイドブックの刊行

東京オリンピック・パラリンピックの開催による外国人見学者の増加を見込み、英語・中国語・韓国語による常設展示のガイドブックを刊行した。なお、当初の予定では7月中旬を刊行時期としていたが、オリンピック・パラリンピックの延期にともない時期を延期して刊行した。

A4判 48頁 4色カラー

2021年3月31日発行 印刷部数1,000部

②広報誌『ミュージアム・アイズ』

A4判 16頁

ア 75号 特集：明治大学の黒曜石考古学ク口ニクル—2020年度明治大学博物館特別展より—

5,000部、10月15日発行

※コロナ禍による来館者への直接配布数の

減少にともない、前年度刊行の74号とともに、例年よりも外部交流館に対する配布依頼数を増やした。

イ 76号 特集：再始動する、明治大学博物館 2,000部（来館者減による）

2021年3月25日発行

※76号より体裁を変更し12頁化

③『明治大学博物館年報2019年度』

A4判 42ページ 口絵2ページカラー

本文モノクロ

7月17日発行 印刷部数100部

ウェブ公開のため配布は学内関係者のみ

④その他

展覧会案内2020年（A4判三ツ折）20,000部

(3) 報道機関等による取材

①新聞掲載

刑事部門紹介：「東京新聞」朝刊，東京中日新聞社

特別展紹介：「朝日新聞」夕刊，朝日新聞社

博物館紹介：「神戸新聞」朝刊，神戸新聞社

②テレビ放映

明治大学博物館刑事部門紹介：「週末ハッピーライフ！お江戸に恋して」，TOKYO MX

おうちミュージアム紹介：「ひるまえナマラ！北海道」，NHK札幌放送局

博物館紹介：「探検！博物館ワンダーランド」，NHK BS4K/BSP

③雑誌掲載

博物館紹介：『POPEYE』，マガジンハウス

刑事部門紹介：『BRUTUS』，マガジンハウス

博物館紹介：『蛭雪時代』8月臨時増刊全国大学内容案内号，旺文社

博物館案内：『東京から行く！週末ぶらり歴史散歩』，JTBパブリッシャーズ

博物館紹介：月刊『散歩の達人』2月号，交通新聞社

博物館紹介：『366日の東京ミュージアムめぐり（仮題）』，三オックス

博物館紹介：『NHK趣味どきっ！海・山・町を再発見！おとなの歩き旅』，NHK出版

博物館紹介：『旅の手帖』5月号，交通新聞社

④官公庁刊行物掲載

博物館案内：『ちよだ生涯学習ガイド』，九段生涯学習館

⑤ウェブサイト掲載

博物館案内：「Walkerプラス」

博物館案内：「千代田ミュージアム&シアターマップ」，千代田区文化振興課

博物館案内：「るるぶ観光データベース」JTBパブリッシャーズ

博物館案内：「東京バリアフリーガイドブック」，東京都産業労働局

博物館案内：「千代田区生活ガイド2020（外国語版便利帳）」，千代田区広報広聴課

博物館案内：「NAVITIME（地図サイト）」，ナビタイムジャパン

博物館紹介：フリーペーパー「お茶のおと」Vol.9ウェブ版，ちよだ音楽連合会

収蔵資料紹介：「インターネットミュージアム」，丹青社

(4) ミュージアムショップ

①グッズ販売

見本を展示，受付窓口で刊行物等有償頒布《2020年度新規開発商品》

岡っ引きめいじろうキーホルダー 100個

②他館の情報

大学博物館および関連する博物館・美術館のリーフレット・チラシを配布

③来館者の声

来館者による展示見学に関するアンケート用紙を掲示

④友の会ブース

博物館友の会の活動報告 お知らせの掲示

⑤博物館からのお知らせ

博物館のイベント情報 報道機関の博物館・美術館関係の記事切り抜きの掲示

7. 博物館ボランティア活動

(1) 常設展解説ボランティア

①参加者

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）拡大防止のため2020年度は実施せず。

②研修日程及び内容

ア 展示解説員研修

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）拡大防止のため実施せず。

イ フォローアップ研修（オンライン会議）

日程	研修種別	研修内容
12月15日	商品部門	工芸デザインの革新：昭和編—山陰新作民藝の系譜
12月22日	刑事部門	明治大学博物館Onlineミュージアムで，刑事部門の展示をおさらいしよう！
1月15日	考古部門1	質問回答，オンラインコンテンツによる常設・特別展解説（島田）
1月22日	考古部門2	質問回答，舟塚山古墳に関するレクチャー（忽那）

(2) 図書室ボランティア

①友の会会員

- ・受付，入退出対応 一名
- ・書架整理 一名

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）拡大防止のため実施せず。

8. 明治大学博物館友の会

(1) 概要

①会員数

532名 ※2021年2月28日現在

②総会

5月16日

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）拡大防止のため延期

10月17日

中止とし，書面による総会とした。

8月7日（書面報告期日）

2019年度事業報告／2019年度会計監査報告／2020年度事業計画／2020年度予算案／役員改選

(2) 活動記録

①講演会

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）拡大防止のため当初計画（ア～ク）の講演会は延期，中止または計画取り止めとなった。

ア 第18回古代史講演会

6月【中止】

滋賀県文化財保護協会 瀬口真司

イ 講演会「日本考古学2020」

9月【計画取り止め】

ウ 総会特別講演会「古墳文化における中央と周辺」（仮題）

5月16日【延期】

10月17日【中止】

茨城大学教授 田中裕

エ テーマ別講演会「万葉集」

11月【中止】

東京大学大学院教授・明治大学文学部兼任講師 品田悦一

オ 近世史講演会

12月【計画取り止め】

カ 第19回古代史講演会

2021年1月【計画取り止め】

キ 講演と実演「江戸からくり人形の世界」

4月9日【延期】

2021年2月4日【中止】

江戸からくり工房主宰 榎本誠治

ク 会員発表会

2021年3月【中止】

ケ 第1回Zoom利用による特別講演会「中国古代国家の形成過程」

2021年2月6日

榎原考古学研究所特別研究員・明治大学文学部兼任講師 橋本裕行

コ 第2回Zoomによる特別講演会「万葉集に書き込まれた長屋王事件の痕跡」

2021年2月20日

東京大学大学院教授・明治大学文学部兼任講師 品田悦一

サ 第3回Zoomによる特別講演会「会計は，お化けだ！」

2021年3月27日（予定）

明治大学博物館館長・明治大学商学部教授 千葉修身

②見学会

ア 会員企画による地元見学会「文の京を歩く」

5月30日【中止】

イ 房総宿泊旅行<1泊>

11月【計画取り止め】

ウ 江戸時代を探訪するPart9

2021年2月【中止】

③広報活動

ア 会報発行

年3回。（春・夏・秋・冬）のところ，新型コロナウイルス感染症（COVID-19）拡大から春夏は合併号とした。

イ 行事案内

友の会ホームページでの情報提供

ウ 友の会掲示板の活用，行事チラシの作成

④博物館への協力

担当	活動日	活動者数
博物館図書室管理	開室日	0名
博物館図書室書架整理	月1～2日	0名
展示解説	火・木・金	0名

※新型コロナウイルス感染症（COVID-19）拡大防止により活動を休止した。

⑤学習サークル（活動原則として月1回）

分科会名	会員数	担当者・講師
古文書を読む会	25名	外山学芸員 森朋久氏※1
平成内藤家文書研究会	15名	伊能秀明氏※2
工芸の会	15名	外山学芸員
旧石器・縄文文化研究会	25名	島田学芸員
弥生文化研究会	24名	忽那学芸員
古文書の基礎を学ぶ会	38名	日比学芸員
東アジアの中の古代日本研究会	28名	
前方後円墳研究会	30名	忽那学芸員
「倭国から大和」を学ぶ会	27名	
古代東北アジアと日本研究会	23名	
飛鳥・藤原を学ぶ会	27名	

※1 明治大学農学部兼任講師

※2 元明治大学刑事博物館学芸員

III 研究活動

1. 調査・研究活動

(1) 商品部門

- ①伝統的工芸品のマーケティング研究（信楽焼）
※新型コロナウイルス感染拡大にともない大学が定める活動制限指針により現地調査の実施を休止した。
- ②創業者出身地自治体の伝統的工芸品調査（越前漆器）
※新型コロナウイルス感染拡大にともない大学が定める活動制限指針により現地調査の実施を休止した。

(2) 刑事部門

- ①科研費若手研究（B）26770230「転封大名の新領における「藩」構築過程の研究」（研究期間：2014～2020年度，研究代表者：日比佳代子 博物館事務室）
内藤家文書大坂屋敷関係史料，同用人関係史料，同日付関係史料，同書方関係史料の調査を行い，大坂屋敷の組織，延岡時代の内藤藩の藩内書状送付体制と送付情報の記録化について分析した。

(3) 考古部門

- ①科研費基盤研究（B）19H01345「最終氷期における中部高地の景観変遷と黒曜石資源開発をめぐる人間－環境相互作用」（研究期間：2019～2022年度，研究代表者：島田和高 博物館事務室）
2019年度に実施した長野県矢出川湿原から得られた複数のボーリングコアの年代測定の結果，いずれも完新世以降の年代に属していたことから，2020年度には矢出川湿原以外の候補地を選定し，中部高地における更新世堆積物の花粉分析を目的とした補足ボーリング調査を計画した。しかしながら，COVID-19の感染拡大により計画を実施できず，当該計画と経費は2021年度に繰越した。
一方，研究代表者はBruker製携帯型XRFを用

いた中部高地原産地の化学組成判別図を作成した。WD-XRF他の分析による推奨定量値を持つ，明治大学黒曜石研究センター保管の中部高地原産地既知濃度原石試料99点（隅田・及川2019）を同p-XRFのObsidian工場検量線で測定した結果，推奨定量値との間に強い相関が得られたことから元素濃度に基づく望月・池谷方式（Rb分率，Sr分率）と隅田方式（未発表）による判別図を作成し，悉皆的な中部高地所在石器群の分析を行う準備を整えた。また，研究分担者による帯磁率測定に基づく安山岩製遺物の原産地分析法の確立にも一定の成果を得た。

- ②伝玉里舟塚古墳資料報告書作成作業
本学の学生の入構自粛措置のため，今年度は作業を休止した。
- ③三味塚古墳武具整理作業
武具類の保存修復作業を茨城県の予算により奈良県の元興寺文化財研究所で実施中。2022年度終了予定。

(4) 博物館等機関への出張調査

江戸東京博物館（展示視察，7月31日：忽那）／東京国立博物館（展示視察：11月19日：日比）／早稲田大学歴史館（COVID-19対策視察，10月19日：川口，市川，村松，武井）／HOSEIミュージアム（COVID-19対策視察，10月19日：川口，市川，村松，武井）／國學院大学博物館（COVID-19対策視察，10月12日：市川，村松，武井）／明治大学黒曜石研究センター（資料調査，借用・返却，10月9日・1月29日：島田）

2. 研究業績

(1) 論文・著書

忽那敬三（2020）「虎塚古墳石室壁画の点検作業」『ひたちなか埋文だより』第53号
Y. Suda, T. Adachi, K. Shimada, Y. Osanai (2021) Archaeological significance and chemical characterization of the obsidian

source in Kirigamine, central Japan: Methodology for provenance analysis of obsidian artifacts using XRF and LA-ICP-MS. Journal of Archaeological Science 129: https://doi.org/10.1016/j.jas.2021.105377

島田和高（2020）『「氷期の狩人は黒曜石の山をめざす－明治大学の黒曜石考古学－」ガイドブック』明治大学博物館：104p.
外山 徹（2020）『高尾山歴史の散歩道』ふくく出版：250p.

(2) 学会等発表

島田和高「中部高地黒曜石基準試料を用いたp-XRFによる原産地分析 Obsidian sourcing by p-XRF using standard samples from the Central Highlands」明治大学黒曜石研究センター研究集会（オンライン会議），2020年12月20日，口頭

(3) 講演等

忽那敬三「「はにわ」の世界を探る－茨城県・舟塚古墳の埴輪群を例に－」千代田区内ミュージアム連携企画，千代田区日比谷図書文化館日比谷カレッジ，対面，2020年9月4日

3. 刊行物

- (1) 2020年度明治大学博物館特別展『氷期の狩人は黒曜石の山をめざす－明治大学の黒曜石考古学－』ガイドブック

編著：島田和高

発行：明治大学博物館 1,000部

第1部 氷期の狩人は黒曜石の山をめざす－明治大学の黒曜石考古学－

第2部 広原湿原古環境調査と広原遺跡群発掘調査の記録「ヒト－資源環境系の人類誌」

第3部 広原遺跡群第I 遺跡および第II 遺跡の出土遺物－第1次調査～第3次調査－

4. 大久保忠和考古学振興基金

(1) 基金終了手続き

2020年度第1回明治大学大久保忠和考古学振興基金運営委員会の実施（2021年2月15日）：運営委員を委嘱し，基金の終了とそれに伴う規程の廃止について承認を得た。その後，2020年度第3回博物館運営委員会を実施（2021年2月20日）し，基金の終了とそれに伴う規程の廃止について承認を得た。

IV 収蔵資料

1. 資料収集

(1) 資料数（部門別）

	刑事	考古	商品	合計	
受入	購入	8	0	1	9
	受贈	8	1	109	118
合計	16	1	110	127	
前年度総数	215,195	218,648	5,023	438,866	
今年度総数	215,211	218,649	5,133	438,993	
時田昌瑞ことわざコレクション				1,450	
前場幸治瓦コレクション				10,725	
総合計				451,168	

※実測図・書籍・写真は含めない

《参考》年度別収蔵数（部門別）

	刑事		考古		商品	
	購入	受贈	購入	受贈	購入	受贈
2015	8	1	2	0	20	13
2016	14	0	2	0	6	84
2017	1	4	1	0	23	20
2018	4	124※1	1	0	7	84
2019	11	0	1	0	24	1

※1：ほかに未整理文書8箱分あり

(2) 購入資料一覧

種別・分類	資料名
絵画資料	江戸名所四十八景 葵坂 江戸名所道戯盡 虎の御門水の景 源頼信 平忠常 大椎城水攻之図 児雷也豪傑譚語 江戸名所百人美女 山王御宮 双筆五十三次 土山
古文書 古典籍 古地図等	外桜田永田町絵図 諸国御仕置墨鑑 1929年柿右衛門後援会々則（商品部門資料）
考古遺物	なし
商品資料	なし

(3) 受贈資料

部門	資料名
刑事	清心流御免状関係記録8点 (清心流御免状1点, 清心流御免状口傳録1点, 目録 他一紙もの5点, 箱1点)
商品	銀座精陶社関係陶磁資料一括 (近代鍋島焼, 第12代 柿右衛門作品, 二代宮川香山作品, 京焼, 年木庵深 水喜三銘作品等107点) 江戸小紋柄見本 (尺幅) 江戸小紋柄見本 (五寸幅)
考古	クリス (東南アジアの儀礼用鉄剣)

(4) 寄託資料

①『刑罪大秘録』他3点

受託期間2017年4月1日～2022年3月31日
※5年ごとに更新

②故里見庫男氏所蔵文書 (3373点)

受託期間2019年4月1日～2022年3月31日 (福
島県いわき市域の村方文書。譜代大名内藤家
の旧領地域。地元の郷土史研究団体「いわき
地域史学会」及び大学院文学研究科日本史専
攻生等による調査・整理作業がおこなわれた
史料群。) ※3年ごとに更新

③大英博物館所蔵ガウランド写真資料複写 (458点)

受託期間2018年4月1日～2021年3月31日
※3年ごとに更新

④茨城県三味塚古墳出土土膏・短甲・小札

受託期間2020年4月1日～2023年3月31日※3
年ごとに更新

(5) 資料修復

①考古部門

ア 埼玉県原谷古墳群出土 大刀1点

(6)教材製作

2020年度は該当なし。

2. 資料整理

(1) 商品部門

- ①収蔵資料所在調査・再配架 (陶磁器)
- ②受贈資料の整理 (台帳カード作成及び梱包, 収蔵室への配架作業)
保存容器を作製し陶磁器関係資料を収納した。
- ③架蔵態勢の整備 (再梱包, 収納箱ラベルの更新等)

(2) 刑事部門

- ①マイクロフィルム等2次資料整理
- ②劣化傾向の古文書保存用封筒の交換
- ③古文書資料の史料目録との照合による欠本確認
- ④マイクロフィルム保存環境の調査, マイクロフィルムキャビネットの交換

(3) 考古部門

- ①砂川遺跡出土資料整理 (接合修復)
- ②坂本万七写真研究所寄贈写真資料の台帳整備
- ③収蔵資料の所在確認
- ④矢島恭介資料の整理 (点数・内容確認)

3. 資料記録

(1) 撮影

①刑事部門

「延岡御城附絵図 (臼杵郡全図)」 (内藤家文書3-23-11-35-3)

(2) デジタル化

①商品部門

産業技術史資料情報センターが運用する「産業技術史資料共通データベースHitNet」に 50件の資料情報の掲載を追加申請した (累計80件)。

②刑事部門

「延岡御城附絵図 (臼杵郡全図)」 (内藤家文書3-23-11-35-3)

③考古部門

旧石器～縄文時代遺跡発掘記録類のデジタルデータ化, および3Dスキャナによる石器遺物の三次元計測を実施 (重点項目: 「考古遺物の多視点的アーカイブ」事業)。

4. 資料利用

(1) 資料貸出・掲載・撮影件数

	刑事	考古	商品	合計
一次資料出品数	-	713点	-	713点
レプリカ等出品数	-	77点	-	77点
撮影	49点	84点	-	133点
掲載等	194点	333点	0点	527点
合計	74件 243点	107件 1207点	0件 0点	

《参考》年度別資料利用数推移

	出展数 (レプリカ内数)	撮影	掲載
2015	595 (6)	885	472
2016	733 (28)	797	547
2017	655 (6)	654	467
2018	748 (6)	1,254	1,279
2019	689 (2)	763	296
2020	790 (77)	133	527

(2) 収蔵資料閲覧

調査閲覧	刑事部門		考古部門
	古文書	マイクロ	
人数	68点	20リール	29件
	7名		

《参考》年度別資料閲覧数推移

	刑事			考古
	古文書(点)	マイクロ(本)	人数	件数
2015	3,913	269	254	35
2016	1,644	308	131	46
2017	1,106	596	105	45
2018	2,131	137	103	27
2019	1,782	118	123	33
2020	68	20	7	29

(3) 貸出先・展覧会・出展資料一覧

①刑事部門

本年度は該当なし。

②考古部門

ア 岩宿博物館

岩宿博物館常設展示室 (「岩宿時代のムラと社会」・「石器文化の地域性」のコーナーに展示) 貸出期間: 2020年7月1日～2021年6月30日 群馬県武井遺跡出土石器 他 計330点

イ 東京国立博物館

貸出期間: 2020年7月1日～2023年6月30日 重要文化財 神奈川県夏島貝塚出土深鉢形土器 計1点

ウ 千葉県立中央博物館

令和2年度企画展「ちばの縄文―貝塚からさぐる縄文人のくらし―」 会期: 2020年10月10日～12月13日 千葉県江原台遺跡出土深鉢土器 他 計7点

エ 茨城県立歴史館

令和2年度特別展 I 「Jomon Period―縄文の美と技, 成熟する社会―」 会期: 2020年10月10日～11月29日 重要文化財 神奈川県夏島貝塚出土深鉢土器 他 計6点

オ 神奈川県立歴史博物館

特別陳列「出土文字資料からみる古代の神奈川」 会期: 2021年2月6日～3月28日 千代廃寺「大伴五十戸」銘重圏文縁細弁十六葉蓮華文軒丸瓦 他 計2点

カ 岩手県立博物館

岩手県立博物館常設展示室 貸出期間: 2021年4月1日～2022年3月31日 岩手県雨滝遺跡出土資料 計29点

キ 港区郷土歴史館

港区立郷土歴史館常設展示 貸出期間: 2021年4月1日～2022年3月31日 東京都芝公園出土須和田式壺形土器 他 計109点

ク 国立歴史民俗博物館

国立歴史民俗博物館総合展示第1展示室 (先史・古代) (大テーマ I 「最終氷期に生きた人々」・大テーマ II 「多様な縄文列島」・大テーマ III 「水稲耕作のはじまり」において展示) 貸出期間: 2021年4月1日～2022年3月31日 長野県矢出川第1遺跡出土石器 他 計28点

ケ 市立市川考古博物館
 　市立市川考古博物館常設展示　貸出期間：2021年4月1日～2022年3月31日　佐賀県多久三年山遺跡出土尖頭器　他　計80点

(4) その他の資料利用

- ① 刑事部門
 　ア 明治大学文学部教授　落合弘樹
 　　授業での使用　図解五拾五ヶ條

(5) 資料掲載利用一覧

①刑事部門

内藤家文書　増補・追加5-(2)充真院（繁子）関係（I）-13　海陸返り咲こと葉の手拍子
他　神崎直美「日向国延岡藩内藤充真院の大樹寺参拝」（『城西大学経済経営紀要』第38巻）　城西大学

内藤家文書　3-23-11日向延岡関係絵図-35-6　有馬家中延岡城下屋敷並絵図　延岡城の現在の状況と有馬時代の状況を比較するCGを延岡市公式ホームページや市民フォーラム等で利用，「城山公園城跡景観等有識者会議」からの提言書に添付する資料として利用，延岡城の石垣マップを作成し，見学用パンフレットとして配布，ホームページ掲載，延岡城内に設置予定の石垣説明板に利用

下野国安蘇郡閑馬村絵図　「2021―駿台　大学入試完全対策シリーズ　共通テスト対策問題集　マーク式実戦問題編　日本史B」書店販売教材　駿台文庫

邪蘇宗門御改帳　延宝五年　『2021共通テスト直前対策問題集　日本史B』　河合出版

虎狼刺予防絵説　竹原万雄『近代日本の感染症対策と地域社会』　清文堂出版

下野国安蘇郡閑馬村絵図　「2020　2学期テキスト　共通テスト日本史」　代々木ゼミナール

『徳川幕府刑事図譜』　遠島出船の図　「林先生の初耳学」　毎日放送

『徳川幕府刑事図譜』　拷問の図（石抱責もしくはは算盤責）　エバレット・ブラウン／エレゾ・早川『先祖返りの国へ』　晶文社

時世のぼり風　「青バック　高校限定版」学校販売教材　駿台文庫

常設展示室　他　『東京から行く！週末ぶらり歴史さんぽ』　JTBパブリッシング

出羽国村山郡観音寺村絵図　他　荒武賢一郎・

野本禎司・藤方博之編『みちのく歴史講座　古文書が語る東北の江戸時代』　吉川弘文館

地方測量之図　『学研まんがNEW日本の歴史』付属DVD　学研プラス　NHKエデュケーショナル
『徳川幕府刑事図譜』　御様の図　『歴史道』Vol.11　朝日新聞出版

武家諸法度　『コンパクト版学習まんが　日本の歴史』9巻　集英社

鑑札　株仲間札　『歴史人』10月号　KKベストセラーズ

河内国河内郡上之島村文書　『新版八尾市史近世史料編2　―古文書が語る江戸時代の八尾―』　八尾市

今川仮名目録　第29条　「NHK高校講座　日本史　第16回　『下剋上の社会と戦国大名』」（再放送）　NHK

鑑札　株仲間札　「NHK高校講座　日本史　第23回　『幕藩体制の動揺と政治改革』」（再放送）　NHK

地方測量之図　「NHK高校講座　日本史　第25回　『新しい学問の形成と化政文化』」（再放送）　NHK

今川仮名目録　『歴史人』11月号　KKベストセラーズ

『徳川幕府刑事図譜』　磔刑の図　Hitomi Omata Rappo「Muerte en la cruz; La beatificación de los veintiséis mártires de Nagasaki(1627) y la iconografía de la crucifixión」(*A la luz de Roma: Santos y santidad en el barroco* vol.3) Barroco Ibero Americano

地方測量之図　五味文彦・鳥海靖編『新もういちど読む山川日本史』電子版　山川出版社

『徳川幕府刑事図譜』　切腹の図　『図解でスツと頭に入る江戸時代』　昭文社

禁中並公家諸法度　光成準治『列島の戦国史9 天下人の誕生と戦国の終焉』　吉川弘文館

『徳川幕府刑事図譜』　白洲の図　他　「歴史科学捜査班」（再放送）　BS11

邪蘇宗門御改帳　延宝五年　中山口村　『Keyワーク　歴史2』育鵬社版（紙媒体・PDF版・専用ARアプリ）　教育開発出版

『徳川幕府刑事図譜』　磔刑の図　Hitomi Omata Rappo「Muerte en la cruz; La beatificación de los veintiséis mártires de Nagasaki(1627) y la iconografía de la crucifixión」（インターネット掲載）Barroco Ibero Americano

地方測量之図　「歴史秘話ヒストリア　日本地図を手に入れろ！シーボルトの極秘ミッション」NHK大阪

内藤家文書　3-23-11日向延岡関係絵図-35-6　有馬家中延岡城下屋敷付絵図　城下町プロジェクト動画配信「続日本100名城　延岡城！その魅力を徹底解明！」　延岡青年会議所

武家諸法度　「今夜はナゾトレ」　フジテレビ
『徳川幕府刑事図譜』　捕縛の図（十手の使用法）　他　「週末ハッピーライフ！お江戸に恋して」　TOKYO MX

今川仮名目録　「戦国大名総選挙」　テレビ朝日
『徳川幕府刑事図譜』　捕縛の図（十手の使用法）　「あなたの駅前物語・八丁堀駅前」　テレビ朝日／BS朝日

『徳川幕府刑事図譜』　強盗配分の図　他　「につぼん！歴史鑑定」#97　『鬼平　長谷川平蔵の真実』（再放送）　BS-TBS

下野国安蘇郡閑馬村絵図　「2021　1学期テキスト　共通テスト日本史」　代々木ゼミナール

内藤家文書　1-23-364　御答書　他　新延岡史談会古文書勉強会のテキストとして使用

内藤家文書　3-23-11日向延岡関係絵図-35-6　有馬家中延岡城下屋敷付絵図　他　パンフレット「延岡城　藩主の変遷」

明治大学博物館Twitterスクリーンショット
他　太田小雪「新型コロナウイルス感染症と大学博物館」　早稲田大学會津八一記念博物館

『徳川幕府刑事図譜』　御様の図　「サンドウィッチマン&芦田愛菜の博士ちゃん」　テレビ朝日

内藤家文書　3-23-10-34-12　岩城平之絵図　他　『（仮）磐城平城文献等調査報告書』　いわき市

今川仮名目録　高等学校地理歴史科教科書『日本史探究』　東京書籍

高札　人倫等定（明治4年12月）　『高等学校地理歴史科　日本史探究①』　山川出版社

地方測量之図　『社会4年デイリーサピックス　440-08』　日本入試センター

禁中並公家諸法度　他　「指導者用デジタル教科書（教材）歴史」「映像データベース」「東書ニュービデオソフト」　東京書籍

『徳川幕府刑事図譜』　不義の娘親に引き渡されたる図　「浮世絵ミステリー　歌麿・国芳ヒットの謎～江戸メディアの闘い～」　NHK　BSプレミアム・NHK BS4K

『徳川幕府刑事図譜』　捕縛の図（十手の使用法）　他　「につぼん！歴史鑑定」#42『徳川綱吉は暴君だったのか？』（再放送）　BS-TBS

禁中並公家諸法度　他　『歴史道』Vol.14　朝日新聞出版

禁中並公家諸法度　『高等学校　日本史探究』（書籍及びデジタル教科書）　清水書院

『徳川幕府刑事図譜』　切腹の図　「春風亭昇太のこだわり歴史嘶」　BS11

『徳川幕府刑事図譜』　斬罪仕置の図　『エース』271号　日本リサーチセンター

『徳川幕府刑事図譜』　斬罪仕置の図　他　「につぼん！歴史鑑定」#13『大岡越前と遠山金四郎』（再放送）　BS-TBS

29-書冊・横丁-W国政・幕藩政-93　西春西郷浦山分廻見日記　「寛政十三年改享和元　西春西郷浦山分廻見日記」（全文を翻刻し，土佐藩研究の同好者に配布）

内藤家文書　1-4-554　文久二年「政拳公御家督一件」他　大賀郁夫「幕末期譜代延岡藩の風聞探索活動―文久二年「風聞書　乾坤」を中心に―」（『宮崎公立大学人文学部紀要』第28巻第1号）　宮崎公立大学

板倉家文書　「亀山市史」ウェブ版　亀山市

地方測量之図　『デジタル版社会科資料集「しゃかWeb」6年』　日本標準

地方測量之図　他　NHKデジタル教材「NHK for school」

水戸藩小石川御屋敷御庭之図　「新　美の巨人たち」　テレビ東京

名和コレクション　鎖鎌（石見守直次作）ネットミュージアム兵庫文学館　企画展示「宮本武蔵　力と美」

水戸藩小石川御屋敷御庭之図　『ランドスケープデザイン』　マルモ出版

内藤家文書　増補・追加5-(2)充真院（繁子）関係（I）-12　五十三次ねむりの合の手　他

　神崎直美『幕末大名夫人の寺社参詣一日向国延岡藩内藤充真院　統一』　岩田書院

出羽国村山郡観音寺村絵図（天明3年）　他　高等学校用検定教科書『精選日本史探究』（紙媒体およびデジタル教科書）　実教出版

②考古部門

青森県亀ヶ岡遺跡出土遮光器土偶　『2021共通テスト総合問題集　日本史B』　河合出版

京都府深草遺跡出土石包丁　河合塾マナビス（高校生対象）『共通テスト完全攻略日本史B』河合塾

群馬県岩宿遺跡出土石器　他　ウェブサイト「全国子ども考古学教室」　NPO法人むきぼんだ応援団

長野県大室古墳群225号墳出土鉄鏃実測図　他

平林大樹「 **県主塚古墳出土の出土遺物**」『信濃』令和2年5月号 信濃史学会

埼玉県砂川遺跡出土ナイフ形石器 他

『2020年度夏期講習（高3・高卒生対象）関関同立大日本史』 河合塾

埼玉県砂川遺跡出土ナイフ形石器 他

『2020年度夏期講習（高3・高卒生対象）日本史集中講義（古代～近世）』 河合塾

群馬県岩宿遺跡出土石斧 『COMIC×STUDY 第2巻 マンガでわかる中学社会（歴史上巻）』 学研プラス

栃木県篠山貝塚出土深鉢形土器 他 ウェブサイト「全国子ども考古学教室」 NPO法人むきばんだ応援団

埼玉県砂川遺跡出土ナイフ形石器 『日本史標準問題』 山川出版社

伝京都府物集女付近出土三角縁神獣鏡 他 岩本 崇『三角縁神獣鏡と古墳時代の社会』 六一書房

福岡県板付遺跡出土壺形土器 『2020年度 メインレッスン社会（デジタル教材）/8月号/中1共通』 ベネッセコーポレーション

福岡県板付遺跡出土壺形土器 『2020年度 夏の特別Challenge 中1/8月号』 ベネッセコーポレーション

千葉県江原台遺跡出土山形土偶 「かわいい縄文土偶10選」『和楽』2018年8・9月号特集（紙版・デジタル版） 小学館

千葉県江原台遺跡出土山形土偶 「和楽Web」記事「かわいい土偶ワールド原寸大図鑑」 小学館

神奈川県月見野遺跡出土尖頭器 『2020年度第2回共通テスト対応カトレーニングテスト 地理歴史A冊子（高卒生対象）』 河合塾

神奈川県月見野遺跡出土尖頭器 『2020年度第2回共通テスト対応カトレーニングテスト 地理歴史A冊子（高校生対象）』 河合塾

ガウランド撮影「奈良県四条塚山古墳（綏靖天皇陵）」 ドキュメンタリー番組「映像'20 戦後75年目に振り返る歴史と教科書」 毎日放送

千葉県江原台遺跡出土深鉢土器 他 令和2年度企画展「ちばの縄文―貝塚からさぐる縄文人のくらし―」展示パネル等 千葉県立中央博物館

神奈川県夏島貝塚出土深鉢土器 他 令和2年度特別展 I 「Jomon Period―縄文の美と技，成熟する社会―」展示パネル等 茨城県立歴史館

群馬県岩宿遺跡出土打製石器 『新ワーク歴史 I』（紙版・デジタル版） 好学出版

神奈川県二ツ池遺跡出土壺形土器 『8月ゼミ

小6社会』塾用プリント（増刷） ティエラコム

神奈川県月見野遺跡出土尖頭器 他 『2020年度高2プライムステージ地理歴史「日本史B」』 河合塾

群馬県岩宿遺跡出土石斧 他 會田康範『〈新版これならわかる！〉ナビゲーター日本史B』電子版 山川出版社

京都府深草遺跡出土石包丁 他 『2020年度第3回全統共通テスト模試問題 地理歴史「日本史B」』 河合塾

京都府深草遺跡出土石包丁 他 『2020年度第3回全統共通テスト模試問題 地理歴史「日本史B」』（HP掲載） 河合塾

京都府深草遺跡出土石包丁 他 （仮称）河合塾ONE 日本史『基本事項解説』（映像授業）河合塾

京都府深草遺跡出土石包丁 『青パック市販版』（学校販売教材） 駿台文庫

愛知県五貫森遺跡出土磨製石器 『NEW BASIC 歴史 I 東書版』（塾用教材） 学書

京都府深草遺跡出土石包丁 他 『View Point 歴史 I』（塾用教材） 学書

千葉県丸山遺跡出土石器実測図 橋本勝雄「市川市出土の旧石器・縄文時代初頭の石器の再評価」『市史研究いちかわ』第12号 市川市役所
岩宿遺跡A地点の発掘調査（1949年） テレビ番組「アナザーストーリーズ 運命の分岐点」NHKBSプレミアム

愛知県姫塚古墳出土遺物 他 企画展示「歴史を守れ！丸地古城の挑戦」展示パネル等 豊橋市文化財センター

京都府深草遺跡出土石包丁 他 『2021年度Challenge 社会/4月号/共通タイプ/古代 古代までの日本 (I)』 ベネッセコーポレーション

福岡県板付遺跡出土壺形土器 『2021年度 定期テスト暗記BOOK/5月号/442/歴史』 ベネッセコーポレーション

福岡県板付遺跡出土壺形土器 『2021年度 定期テスト楽暗記アプリ/5月/共通/歴史（デジタル教材）』 ベネッセコーポレーション

茨城県佐自塚古墳出土高坏 他 佐々木憲一，古谷紀之，大熊久貴『茨城県佐自塚古墳の研究』明治大学文学部考古学研究室

埼玉県砂川遺跡出土ナイフ形石器 小野 昭シリーズ「遺跡を学ぶ」別冊05『考古学ガイドブック』 新泉社

群馬県岩宿遺跡風景（鹿の川沼） 他 史跡岩宿遺跡保存計画書 みどり市教育委員会

群馬県岩宿遺跡出土打製石器 『2020年度 考

える力・プラス中学受験講座 6年生 中学入試合格テキスト/1月号/共通』 ベネッセコーポレーション

青森県亀ヶ岡遺跡出土遮光器土偶 河合塾マナビス（高校生対象）『共通テスト本番ファイナル日本史B』 河合塾

神奈川県上土棚遺跡発掘調査記録 神奈川県綾瀬市上土棚遺跡発掘報告書 綾瀬市高育委員会

岩手県雨滝遺跡出土石鏃 松野良俊『2020年冬期講習会テキスト 共通テスト日本史』 代々木ゼミナール

東京都伝芝公園出土壺形土器 他 『港区史（通史編原始・古代・中世）(図説編)』 港区
東京都伝芝公園出土壺形土器 他 ウェブサイト「デジタル版 港区のあゆみ」 港区

群馬県武井遺跡出土尖頭器 『中学WinPass社会 全』 文理

群馬県武井遺跡出土尖頭器 『デジタル中学WinPass社会 全』（紙面PDF版，指導者用PDF版，学習者用PDF版） 文理

愛知県五貫森遺跡出土磨製石器 『NEW BASIC 歴史 I 教出版』（塾用教材） 学書

神奈川県月見野遺跡群第Ⅱ遺跡発掘調査風景 『大和市立つきみ野中学校創立50周年記念誌』 大和市立つきみ野中学校創立50周年事業実行委員会
北海道置戸安住遺跡出土石器実測図 大塚宜明『北海道考古学』 北海道考古学会

茨城県舟塚古墳出土家形埴輪 令和2年度高崎市観音塚考古資料館第23回企画展「高崎市中原Ⅱ遺跡1号墳出土埴輪の世界」展示パネル等 観音塚考古資料館

群馬県岩宿遺跡の予備調査風景（A地点）

渡辺芳久（佐賀教委）『神崎市史』第2巻 神崎市
千葉県江原台遺跡出土山形土偶 他 松尾健司授業での配布プリントおよびパワーポイントデータ
長崎県立佐世保北高等学校

青森県亀ヶ岡遺跡出土遮光器土偶 『2020年度冬期講習（高3・高卒生対象）「日本史集中講義（古代～近世）」』 河合塾

群馬県武井遺跡出土尖頭器 他 『ニューコース参考書 中学歴史 改訂版』紙版および電子版学研プラス

群馬県岩宿遺跡出土石器 『Keyワーク歴史1（東京書籍版・日本文教出版版・教育出版版）』紙媒体および付録アプリ，電子版 教育開発出版

群馬県岩宿遺跡出土石器 『Keyワーク歴史1（東京書籍版・日本文教出版版・教育出版版）』電子版 教育開発出版

京都府深草遺跡出土石包丁 『2020年度 中

3 公立模試11～15回』（塾用問題集） 学書

群馬県岩宿遺跡出土打製石器 小宮健太郎『くもんの基礎固め 100％できた！中学社会 歴史上』 くもん出版

栃木県篠山貝塚出土縄文式深鉢形土器 『Ⅲ期ゼミテキスト&テスト 小6社会』（塾用問題集，テスト含む） 学書

青森県亀ヶ岡遺跡出土遮光器土偶 他 『Ⅲ期ゼミテキスト&テスト 中1社会』（塾用問題集，テスト含む） 学書

福岡県板付遺跡出土壺形土器 『2021年度 定期テスト予想問デジタル社会/5月/共通タイプ/歴史_歴史の流れ，古代までの日本1』 ベネッセコーポレーション

福岡県板付遺跡出土壺形土器 『2021年度デジタルチャレンジ/4月号/共通タイプ/歴史_古代1』ベネッセコーポレーション

神奈川県月見野遺跡出土尖頭器 他 『2020年度直前講習（高3・高卒生対象）「立命館大日本史突破テスト」』 河合塾

神奈川県月見野遺跡出土尖頭器 他 『2020年度全統共通テスト 高2模試問題 地理歴史「日本史B」』 河合塾

東京都利島大石山遺跡出土石皿・すり石 他 「河合塾 全統模試学習ナビゲーター」（塾ホームページ） 河合塾

群馬県岩宿遺跡出土石器 「新・総合計画」及び県ホームページに掲載するPDF 群馬県

群馬県武井遺跡出土尖頭器 『ルーズリーフ参考書 中1 改訂版』 学研プラス

静岡県休場遺跡石囲炉出土状況 『静岡のトリセツ』 昭文社

群馬県岩宿遺跡出土打製石器 他 『2021年度中学（中1生対象）歴史 I』 河合塾

群馬県岩宿遺跡出土打製石器 大学受験パスナビ「過去ライブラリー」 旺文社

千代廃寺「大伴五十戸」銘重圈文縁細弁十六葉蓮華文軒丸瓦 他 特別陳列「出土文字資料からみる古代の神奈川」展示パネル 神奈川県立歴史博物館

福岡県板付遺跡出土壺形土器 『2021年度 中2 5教科パーフェクト事典プラス/4月号/共通タイプ/なし』 ベネッセコーポレーション

福岡県板付遺跡出土壺形土器 『2021年度 中2 5教科パーフェクト事典/5月号/共通/なし』 ベネッセコーポレーション

福岡県板付遺跡出土壺形土器 『2021年度 入試によく出る基礎 社会/7月号/県別共通/レベル共通』 ベネッセコーポレーション

群馬県岩宿遺跡出土石器 『Keyワーク歴史1（共通版）』（紙媒体および付録アプリ） 教育開発出版

群馬県岩宿遺跡出土石器 『Keyワーク歴史1（共通版）』（電子版） 教育開発出版

群馬県岩宿遺跡出土打製石斧 『日本史探求②（仮）』（文科省検定教科書〔高等学校地理歴史科〕） 山川出版社

高知県不動ヶ岩屋遺跡出土石鏃 他 『たどってまとめる新歴史』 東京法令出版

群馬県岩宿遺跡出土打製石斧 過去問・類題検索システム（Webサイト） 駿台予備校

千葉県堀之内貝塚Bトレンチ貝層 他 市川市公式ウェブサイト掲載用映像コンテンツ 市川市

群馬県岩宿遺跡出土石器（レプリカ） 「諏訪の歴史」（DVD映像） エルシーブイ

京都府深草遺跡出土石包丁 他 全統模試分析システムKei-Navi 「2020年度第1回 全統記述模試問題 地理歴史・公民（日本史）」 河合塾

京都府深草遺跡出土石包丁 他 全統模試分析システムKei-Navi 「2020年度第1回 全統共通テスト模試問題 地理歴史『日本史B』」 河合塾

京都府深草遺跡出土石包丁 他 全統模試分析システムKei-Navi 「2020年度高2プライムステージ地理歴史『日本史B』」 河合塾

京都府深草遺跡出土石包丁 他 全統模試分析システムKei-Navi 「2020年度第3回 全統共通テスト模試問題 地理歴史『日本史B』」 河合塾

京都府深草遺跡出土石包丁 他 全統模試分析システムKei-Navi 「2020年度全統共通テスト高2模試問題 地理歴史『日本史B』」 河合塾

群馬県岩宿遺跡出土石器 他 「See-be」（株式会社さなる傘下の予備校・塾にて使用する記録媒体） NHKエデュケーションル

群馬県岩宿遺跡出土石器 『Keyテスト歴史1（教育出版版）』紙媒体・電子版 教育開発出版

群馬県岩宿遺跡出土石器 『Keyテスト歴史1（共通版）』紙媒体・電子版 教育開発出版

愛知県五貫森遺跡出土磨製石器 『2021年度「さなる式 歴史I」塾用問題集』 学書

埼玉県砂川遺跡出土ナイフ形石器 『高等学校日本史探求』 第一学習社

栃木県出流原遺跡出土人面付土器 他（仮称）市原歴史博物館（建設中） 常設展示パネル 市原市教育委員会

群馬県岩宿遺跡出土打製石斧 他 『2021年度前期（高3・高卒生対象）日本史写真資料集』 河合塾

群馬県岩宿遺跡出土打製石斧 他 『2021年度

I期（高2生対象） 高2日本史』 河合塾

岩手県雨滝遺跡出土石鏃凹形 他 『2021年度基礎シリーズ（高卒生対象）「日本史B（共通テスト対応）」』 河合塾

栃木県篠山貝塚出土縄文式深鉢形土器 『高等学校 日本史探求』 第一学習社

千葉県江原台遺跡出土山形土偶 テレビ番組「見たことのない文化財～重要文化財 遮光器土偶～」 日本放送協会

千葉県江原台遺跡出土山形土偶 竹倉史人『土偶を読む』 晶文社

静岡県登呂遺跡出土田下駄 「河合塾 基本解説映像日本史」 河合塾

群馬県岩宿遺跡出土石器 他 『科学でわかる日本史』 宝島社

神奈川県夏島貝塚貝層断面写真 他 令和2年度考古学講座「縄文時代の貝塚を歩く―野島貝塚と夏島貝塚―」当日配布資料 公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター

群馬県岩宿遺跡出土打製石器 『2020年度 考える力・プラス中学受験講座 5年生 中学入試合格テキスト/8月号/共通』 ベネッセコーポレーション

群馬県岩宿遺跡出土打製石器 『2021年版ウイニングサマー1年』（紙版・デジタル版） 好学出版

茨城県勅使塚古墳測量図 他 「考古学研究会第53回例会要旨集」 考古学研究会東京例会

東京都芝丸山古墳群第1号墳出土土師器甕 他 港区立郷土歴史館常設展示図録 港区立郷土歴史館

群馬県岩宿遺跡発掘調査風景 他 東国文化情報発信動画 群馬県文化振興課

杉原荘介氏写真 「探検！博物館ワンダーランド」 NHK BS4K/BS P

京都府深草遺跡出土石包丁 『サマー練成 中3社会』 学書

京都府深草遺跡出土石包丁 『カミングサマー中3 理社合本』学書

京都府深草遺跡出土石包丁 『カミングサマー中3 五科合本』学書

群馬県岩宿遺跡予備調査風景（A地点） 他 「探検！博物館ワンダーランド」 NHK BS4K/BS P

群馬県岩宿遺跡の予備調査風景（A地点） 岩宿博物館プロモーションビデオ 岩宿博物館

③ガウランド資料掲載協力

大英博物館所蔵のガウランド関連写真資料について、利用者から依頼を受け大英博物館お

よび日英共同研究グループ・Gowland Project 間との掲載手続きに協力した。

福岡県綾塚古墳石室測量図（BM-GowlandBox04-175） 『みやこ町内遺跡群Ⅻ』みやこ町文化財調査報告書第18集 みやこ町教育委員会

FR2247asue（福岡県豊津村採集須恵器坏蓋）(1) 『みやこ町内遺跡群Ⅻ』みやこ町文化財調査報告書第18集／みやこ町教育委員会『博物館だより』3月号№.172 みやこ町歴史民俗博物館

FR2247asue（福岡県豊津村採集須恵器坏蓋）(4) 『みやこ町内遺跡群Ⅻ』みやこ町文化財調査報告書第18集／みやこ町教育委員会『博物館だより』3月号№.172 みやこ町歴史民俗博物館／読売新聞福岡地域版（北九州地区）4月15日朝刊

FR2247asue（福岡県豊津村採集須恵器坏蓋）(4)の注記部分拡大 『みやこ町内遺跡群Ⅻ』みやこ町文化財調査報告書第18集 みやこ町教育委員会／『博物館だより』3月号№.172 みやこ町歴史民俗博物館／読売新聞福岡地域版（北九州地

区）朝刊

5. 図書

図書	全所蔵冊数	（冊）	127,681
	和	（冊）	95,819
	洋	（冊）	1,246
	製本雑誌	（冊）	30,616
雑誌	全所蔵冊数	（タイトル）	3,019
	和	（タイトル）	2,966
	洋	（タイトル）	53

(1) 蔵書数

(2) 購入・寄贈数

総受入冊数		（冊）	1,701	
図書受入冊数 <p>※製本雑誌を含む</p>	購入	和	（冊）	70
		洋	（冊）	1
	寄贈	和	（冊）	1,629
		洋	（冊）	1

①図書受入数

総受入種類数		（タイトル）	304
雑誌受入種数	和	（タイトル）	303
	洋	（タイトル）	1

②雑誌継続タイトル数

※2015年度統計より図書館蔵書システムからの出力による数値を使用。

V 統計・一覧・資料

1. 入館データ

(1) 入館状況

①開館日数・時間

ア 休館日

・4月1日～10月11日（新型コロナウイルス感染症（COVID-19）拡大防止による臨時休館措置）

・10月12日～の日曜・祝日（新型コロナウイルス感染症（COVID-19）拡大防止による措置）

※10月12日～11月10日：本学学生・教職員を対象とした施設利用制限の解除

※11月11日～：一般を対象とした入館制限の解除（常設・特別展示室の利用のみ）

・12月26日～1月7日（冬期休暇）

・2月16日（入学試験にともなう入構制限により臨時休館）

イ 開館時間 月曜～金曜：10:00～16:00，土曜：10:00～12:30（消毒作業のため時短開館）

ウ 月別開館日数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開館日数	0	0	0	0	0	0	17	24	22	19	21	26	129

エ 月別入館・利用者数

博物館	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
常設展	0	0	0	0	0	0	38	375	539	331	484	786	2,553
特別展	0	0	0	0	0	0	9	258	284	254	0	247	1,052
図書室	0	0	105	136	73	146	173	197	181	91	32	48	1,183
教室等利用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	0	0	105	136	73	146	220	830	1,004	676	516	1,081	4,788

《参考》年度別入館・利用者数

	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2004～2020
常設展示室	42,632	43,331	63,036	64,379	65,118	2,553	738,237
特別展示室	18,755	23,409	29,145	18,649	41,855	1,052	318,292
図書室	5,321	5,316	4,851	5,730	5,057	1,183	83,393
教室等利用	3,334	3,426	3,160	3,780	3,084	0	30,935
計	70,042	75,482	100,192	92,538	115,114	4,788	1,170,857

② 特別展入館者数

名称	期間	開館日数	入館者数
氷期の狩人は黒曜石の山をめざすー明治大学の黒曜石考古学ー	10月15日～1月27日	104日間	805名

③ 主催・共催展・その他の展覧会入館者数

名称	期間	開館日数	入館者数
新収蔵・収蔵資料展2020	6月6日～6月28日	中止	一名
因・伯・雲のやきもの	7月4日～8月2日	延期	一名
絵図が語る内藤藩の歴史	8月18日～9月17日	延期	一名
植村直己の原点を知る 明治大学山岳部入部から60年ここから冒険が始まった	4月28日～5月26日	中止	一名

(2) 団体見学

① 月別集計一覧

ア 学校団体

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
団体数	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
人数	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

イ 一般団体

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
団体数	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
人数	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

② 団体一覧

2020年度は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）拡大防止のため該当なし。

(3) 視察・研修受入

① 受入団体数・参加人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
団体数	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
人数	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

② 団体名一覧

2020年度は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）拡大防止のため該当なし。

(4) 図書閲覧サービス

① 図書開室時間

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）拡大防止のため、開室日を変更。

4月1日～6月2日：臨時休室

6月3日～7月22日：月・水・金曜日 11:00～13:00／14:00～16:00

7月23日～8月16日：臨時休室

8月17日～：月～金曜日10:00～13:00／13:30～16:30、土曜日10:00～12:30

② 閲覧者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
学部生・大学院生	—	—	99	135	68	135	162	189	156	86	20	37	1,089
明大教職員	—	—	6	0	4	8	8	5	16	3	6	7	63
友の会	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
リパティ アカデミー会員	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
聴講生	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
校友	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
他大学学生	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
一般	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
明大その他	—	—	0	1	1	3	3	4	9	2	6	2	31
合計	—	—	105	136	73	146	173	198	181	91	32	48	1,183
開室日数	—	—	12	10	11	23	26	24	22	19	21	26	194
1日平均 (人)	—	—	8.8	13.6	6.6	6.3	6.7	8.3	8.2	4.8	1.5	1.8	6.1

2. 組織・構成

(1) 博物館構成員

① 館長・副館長

役職	氏名	所属	専門
館長	千葉修身	商学部教授	会計学
副館長	長尾進	国際日本学部教授	身体教育学

任期：2020年4月1日～2022年3月31日

② 専任職員

役職	氏名	担当	専門
学術・社会連携部長	川口誠人	※1	
博物館事務長	市川園子	※2	
庶務担当	武井大貴	※3	
学芸員	外山徹	商品部門	博物館学／地域文化論
学芸員	島田和高	考古部門	考古学
学芸員	日比佳代子	刑事部門	日本近世史
学芸員	忽那敬三	考古部門	考古学

※1：4/1～9/31まで博物館事務局長兼務，※2：10/1付着任，※3：大学史資料センターと兼務

③非常勤職員

	氏名	担当
短期嘱託職員	織田潤	庶務部門担当
短期嘱託職員	久保田惟子	庶務（図書）部門担当
短期嘱託職員	林田真由子	商品部門担当
短期嘱託職員	勝見知世	刑事部門担当
短期嘱託職員	川嶋陶子	考古部門担当
短期嘱託職員	遠藤瞳子	
短期嘱託職員	杉本茉織	アーカイブ、広報担当

(2) 博物館運営委員会

①運営委員会

任期：2019年4月1日～2021年3月31日

委員長	千葉修身	館長／商学部教授
副委員長	長尾進	副館長／国際日本学部教授
	小林史明	法学部専任講師
	菊池一夫	商学部教授
	山内健治	政治経済学部教授
	駒見和夫	文学部教授
	野尻泰弘	文学部准教授
	若狭徹	文学部准教授
	本多貴之	理工学部准教授
	薩摩秀登	経営学部教授
	川島高峰	情報コミュニケーション学部准教授
	川口誠人	学術・社会連携部長
	外山徹	博物館学芸員
	島田和高	博物館学芸員
	日比佳代子	博物館学芸員
	忽那敬三	博物館学芸員

※2020年度運営委員会には、オブザーバーとして文学部落合弘樹教授が参加。

②資料評価分科会

任期：2019年6月20日～2021年3月31日

座長	野尻泰弘	文学部准教授
	菊池一夫	商学部教授
	若狭徹	文学部准教授
	薩摩秀登	経営学部教授
	外山 徹※	博物館事務室
	島田和高※	博物館事務室
	日比佳代子※	博物館事務室
	忽那敬三※	博物館事務室

※規定改正により任期は2020年11月～2021年3月

(3) 明治大学大久保忠和考古学振興基金運営委員会

任期：2020年4月1日～2022年3月31日

委員長	千葉修身	館長／商学部教授
	長尾進	副館長／国際日本学部教授
	阿部芳郎	文学部教授，考古学専攻主任
	石川日出志	文学部教授
	佐々木憲一	文学部教授
	藤山龍造	文学部教授
	若狭徹	文学部准教授
	熊野正也	元明治大学図書館事務部長
	小川直裕	東村山市教育委員会
	野口淳	明治大学博物館友の会会長
	琴野武	社会連携事務局長
	市川園子※	博物館事務局長

※年度途中着任のため任期は2021年10月1日～2022年3月31日

(4) 研究調査員

任期：2020年4月1日～2021年3月31日

高橋昭夫	商学部教授（商品学）
上原義子	商学部兼任講師 高千穂大学商学部准教授
牛米努	文学部兼任講師 税務大学校租税史料室研究調査員
金子智	株式会社乃村工藝社
山路直充	市立市川考古博物館学芸員

(5) 作業部会

①博物館・大学院商学研究科・商学部連携「伝統的工芸品の経営とマーケティング」プロジェクト推進部会

座長	高橋昭夫	商学部教授（商品学）
	菊池一夫	商学部教授（商業経営論）
	上原義子	商学部兼任講師 高千穂大学商学部准教授
	外山徹	博物館学芸員

(6) 明治大学博物館友の会2020年度役員

相談役	千葉修身	長尾進	
顧問	大塚初重	熊野正也	杉原重夫
会長	野口淳		
副会長	村井孝行 (会計兼務)	橋本秀夫 (行事兼務)	
理事	鈴木 弘	巖俊夫（総務）	新井正子 (総務)
	林信雄 (広報)	宮城正（総務）	
運営委員 (総務)	菅田路子		
〃（会計）	古沢芳枝		
〃（行事）	松村祐安		
〃（広報）	望月桂一郎		
〃（図書室 管理員副代表）	新井正子		
〃（展示解 説員副代表）	渡辺やす子		
図書室管理員 代表	木戸孝義		
展示解説員代表	林信雄		
監事	支倉紀代美	松本慶三	
分科会	古文書を読む会		高橋幸子
	平成内藤家文書研究会		中村光子
	工芸の会		平井孝雄
	旧石器・縄文文化研究会		杉山昭
	弥生文化研究会		岡本直和
	古文書の基礎を学ぶ会		平井孝雄
	東アジアの中の古代日本研究会		山本廣一
	前方後円墳研究会		磯辺隆信
	「倭国から大和」を学ぶ会		野崎征彦
古代東北アジアと日本研究会		遠藤典夫	
飛鳥・藤原を学ぶ会		荒木茂	

(7) 各種会議開催日

①博物館運営委員会

ア 第1回（メール審議形式）
7月21日付議（7月29日審議期限）

審議事項

- ・副委員長の選出について
- ・2021年度教育・研究に関する年度計画書等の提出 について

報告事項

- ・2020年度特別展の開催について

イ 第2回（遠隔会議形式）

10月21日

審議事項

- ・2021年度博物館予算について
- ・博物館運営委員会資料評価分科会に関する内規の制定について

報告事項

- ・2020年度教育・研究に関する年度計画書重点項目の進捗状況について

ウ 第3回（メール審議形式）

2021年2月15日付議（2月20日審議期限）

審議事項

- ・明治大学大久保忠和考古学振興基金の終了とそれに伴う同基金規程の廃止について

エ 第4回（遠隔会議形式）

2021年3月25日

審議事項

- ・2021年度研究調査員の委嘱について

報告事項

- ・2020年度事業報告
- ・2021年度事業計画

②大久保忠和考古学振興基金運営委員会

ア 第1回（メール審議形式）

2021年2月10日付議（2月15日審議期限）

審議事項

- ・明治大学大久保忠和考古学振興基金の終了とそれに伴う同基金規程の廃止について

③博物館運営委員会資料評価分科会

ア 上半期

7月16日付議（～23日審議期限）

イ 下半期

12月7日付議（～14日審議期限）

※いずれもメール審議により開催

④「伝統的工芸品の経営とマーケティング」推進部会

2021年2月24日 ※遠隔会議により開催

⑤博物館・友の会連絡会議

第1回：7月29日／第2回：9月25日／第3回：11月20日／第4回：2020年2月19日

※いずれも遠隔会議により開催

3. 予算・決算

(1) 2020年度事業費予算・決算

① 予算

科目	目的 博物館費	基金事業費	特定課題推進費				合計
			特別展	大学博物館 交流事業	伝統工芸 マーケティング	考古多視点的 アーカイブ	
兼務職員人件費	648,000	0	0	0	0	0	648,000
福利費	14,000	0	0	0	0	0	14,000
修繕費	50,000	0	0	0	0	0	50,000
旅費交通費	752,000	0	356,000	202,000	439,000	0	1,749,000
業務委託費	1,590,000	0	800,000	0	33,000	95,000	2,518,000
保険料	160,000	0	60,000	0	0	0	220,000
準備品	410,000	0	0	0	0	0	410,000
その他の消耗品費	1,391,000	0	100,000	10,000	0	1,230,000	2,731,000
印刷製本費	4,250,000	0	180,000	62,000	0	0	4,492,000
通信費	88,000	0	0	0	0	0	88,000
郵便費	22,000	0	0	0	0	0	22,000
運搬費	40,000	0	4,040,000	408,000	0	0	4,488,000
広告費	50,000	0	230,000	0	0	0	280,000
支払手数料	67,000	0	0	30,000	60,000	0	157,000
賃借料	0	0	0	0	0	0	0
会合費	96,000	0	0	0	0	0	96,000
公租公課	34,000	0	0	0	0	0	34,000
教) 雑費	0	0	0	0	0	0	0
教育研究用機器備品費	2,265,000	0	0	0	0	0	2,265,000
図書費	100,000	0	0	0	0	0	100,000
合計	12,027,000	0	5,766,000	712,000	532,000	1,325,000	20,362,000
前年度予算額	12,027,000	0	5,766,000	712,000	532,000	1,325,000	20,362,000
増・減(▲)	0	0	0	0	0	0	0

※金額は当初予算の額を入れており年度途中の予算振替は反映していない
※合計金額は博物館費と特定課題推進費の合計で基金事業費を含んでいない

② 決算

科目	目的 博物館費	基金事業費	特定課題推進費				合計
			特別展	大学博物館 交流事業	伝統工芸 マーケティング	考古多視点的 アーカイブ	
兼務職員人件費	105,346	0	0	0	0	0	105,346
福利費	0	0	0	0	0	0	0
修繕費	106,986	0	0	0	0	0	106,986
旅費交通費	1,012	0	26,310	0	0	0	27,322

業務委託費	2,475,297	0	628,100	0	0	0	3,103,397
保険料	141,450	0	6,290	0	0	0	147,740
準備品	285,318	0	0	0	0	0	285,318
その他の消耗品費	2,397,063	0	33,550	0	0	1,251,800	3,682,413
印刷製本費	2,259,730	0	1,121,230	0	0	0	3,380,960
通信費	87,120	0	0	0	0	0	87,120
郵便費	7,510	0	0	0	0	0	7,510
運搬費	27,377	0	429,550	0	0	0	456,927
広告費	0	0	0	0	0	0	0
支払手数料	268,708	0	9,900	24,530	0	0	303,138
賃借料	0	0	0	0	0	0	0
会合費	1,760	0	0	0	0	0	1,760
公租公課	30,000	0	0	0	0	0	30,000
教) 雑費	0	0	0	0	0	0	0
教育研究用機器備品費	2,140,150	0	0	0	0	0	2,140,150
図書費	0	0	0	0	0	0	0
合計	10,334,827	0	2,254,930	24,530	0	1,251,800	13,866,087
前年度決算額	10,803,398	0	5,004,482	505,388	240,231	1,338,984	17,892,483
増・減(▲)	▲ 468,571	0	▲ 2,749,552	▲ 480,858	▲ 240,231	▲ 87,184	▲ 4,026,396

※予算額を超える執行は年度途中で予算振替の措置を取っている
※合計金額は博物館費と特定課題推進費の合計で基金事業費を含んでいない

(2) 2020年度収入

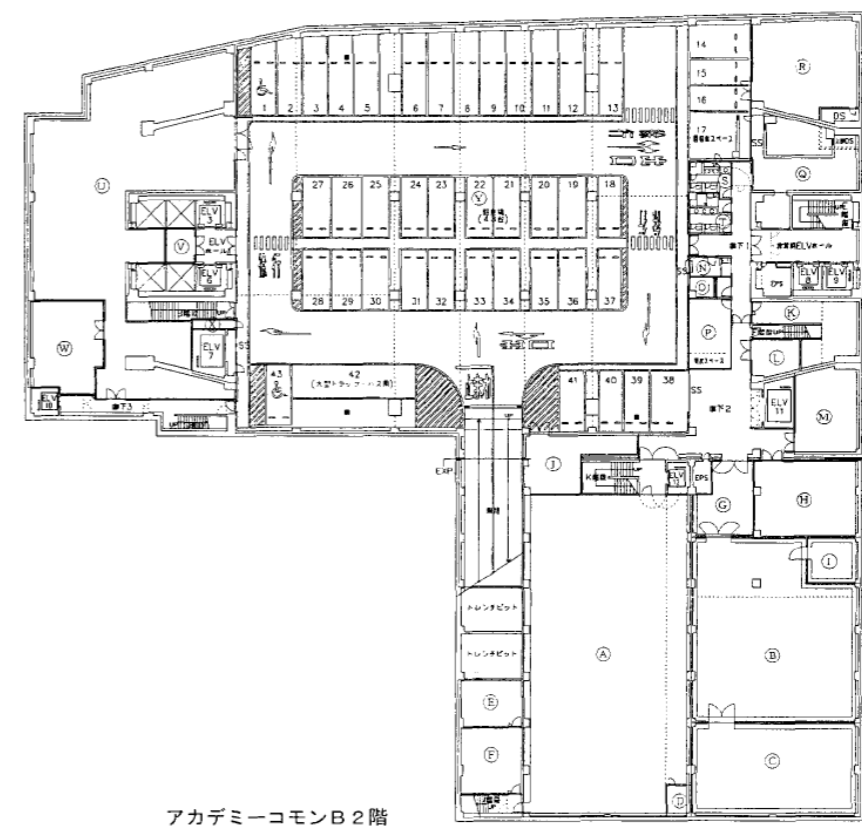
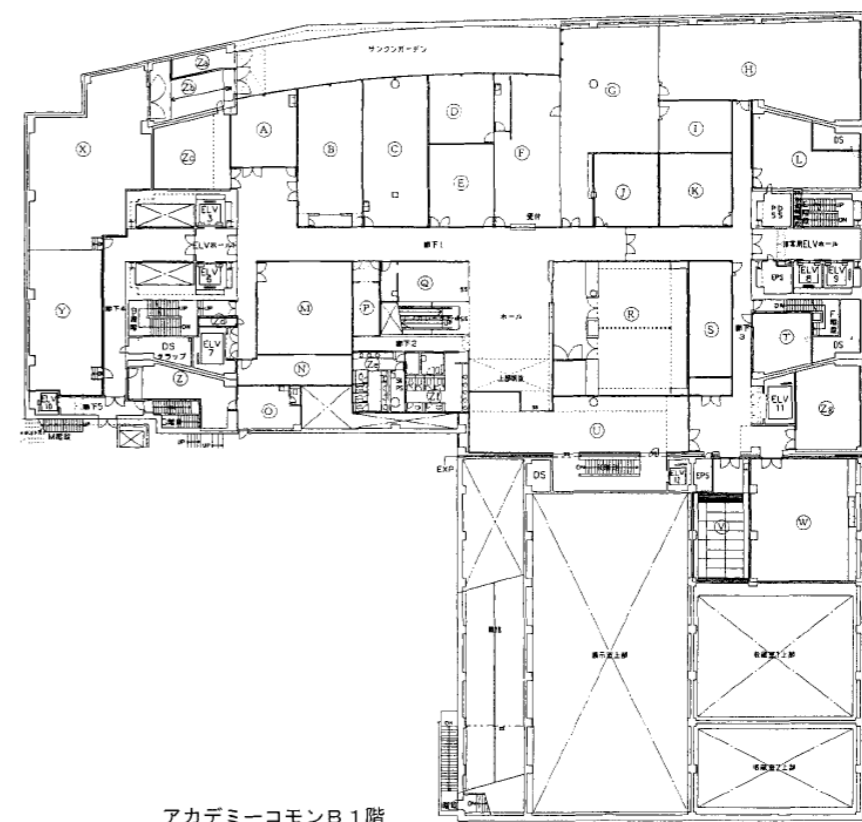
科目：その他の雑収入	予算額	決算額
博物館発行資料売上代	600,000	193,970
公開講座等受講料	0	0
文献複写・資料代	10,000	1,200
撮影・掲載料	200,000	743,600
スライド販売料	0	0
出品謝礼	0	0
特別展入場料	10,000	0
特別講演会資料代	0	0
ミュージアムグッズ売上	410,000	125,330
その他	50,000	11,463
合計	1,280,000	1,075,563
前年度予算決算額	1,280,000	2,622,952
増・減(▲)	0	▲ 1,547,389

4. 施設概要・見取り図

(1) 施設概要

		階	記号	面積	延べ面積
管理部門	館長室	B1	D	42.86㎡	243.90㎡
	事務室	B1	F	94.06㎡	
	会議室	B1	J	45.12㎡	
	倉庫	B1	L	61.86㎡	
教部門育普及	図書室	B1	G	145.04㎡	523.22㎡
	書庫	B1	H	176.03㎡	
	閲覧室	B1	I	35.95㎡	
	博物館教室	B1	B	87.94㎡	
	体験学習室	B1	A	44.31㎡	
	ミュージアムショップ	B1	Q	33.95㎡	
展示室	常設展示室	B2	A	497.19㎡	785.73㎡
	大学史展示室	B1	U	115.20㎡	
	特別展示室	B1	R	173.34㎡	
調査研究部門	学芸研究室	B1	C	92.03㎡	332.76㎡
	作業室1	B1	V	60.80㎡	
	作業室2	B1	W	129.70㎡	
	展示準備室	B1	K	50.23㎡	
収蔵部門	前室	B2	G	38.90㎡	649.11㎡
	一時保管室	B2	H	77.35㎡	
	収蔵室1	B2	B	271.46㎡	
	収蔵室2	B2	C	147.37㎡	
	特別収蔵室	B2	I	23.28㎡	
	写真保管室1	B1	S	56.68㎡	
	写真保管室2	B1	T	34.07㎡	
合計					2,534.72㎡

(2) 施設見取り図



5. 規程

明治大学博物館規程

1991年10月31日制定
1991年規程第2号

(趣旨)

第1条 この規程は、明治大学学則第64条第2項の規定に基づき、明治大学博物館（以下「博物館」という。）について、必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 博物館は、資料等の収集、整理、保存及び展示を行い、明治大学（以下「本大学」という。）の学生、教職員、校友及び一般公衆の利用に供し、教育・研究に資するための事業を行うことを目的とする。

(事業)

第3条 博物館は、前条に掲げる目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 考古、歴史、刑事及び商品に関する資料の収集、整理、保存、閲覧、貸借、交換及び展示
- (2) 前号に関する調査、研究及び開発
- (3) 資料の目録及び図録、資料集、年報、調査報告書、研究報告書等の作成、頒布及び公開
- (4) 資料に関する解説並びに講習会、研究会、講演会及び映写会等の実施
- (5) 寄託資料の整理、保存、閲覧及び展示
- (6) 本大学における教育・研究の成果を発信する展示会、講演会、シンポジウム等の開催
- (7) 学外の教育、学術又は文化に関する諸機関との連携・協力
- (8) 生涯教育の振興及び学習支援
- (9) 分館の設置及び運営
- (10) その他必要と認められる事業

(館長)

第4条 博物館に、館長1名を置く。

2 館長は、学長の命を受けて館務を総括し、博物館を代表する。

3 館長は、本大学専任教授の中から、学長の推薦により理事会が任命する。

4 館長の任期は、2年とする。ただし、補欠の館長の任期は、前任者の残任期間とする。

5 館長は、再任されることができる。

6 館長は、学部、大学院、付属学校又は付属機関の長を兼ねることができない。

(副館長)

第5条 博物館に、副館長1名を置く。

2 副館長は、館長を補佐し、館長に事故あるときは、その職務を代行する。

3 副館長は、館長が本大学専任教員の中から推薦し、学長の同意を得て、理事会が任命する。

4 副館長の任期は、2年とする。ただし、補欠の副館長の任期は、前任者の残任期間とする。

5 副館長は、再任されることができる。

(事務及び職員)

第6条 博物館に関する事務は、学術・社会連携部博物館事務室で行う。

2 学術・社会連携部博物館事務室に、事務管理職1名並びに学芸員及び職員若干名を置く。

3 学芸員は、第3条に規定する博物館の事業についての専門的事項をつかさどる。

(研究調査員)

第6条の2 博物館に、研究調査員若干名を置くことができる。

2 研究調査員は、本大学の教職員及び学外の有識者から、館長が次条に規定する博物館運営委員会の同意を得て委嘱する。

3 前項のほか、研究調査員に関し必要な事項は、別に定める。

(博物館運営委員会)

第7条 博物館の運営に関して、次に掲げる事項について審議するため、博物館に博物館運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

- (1) 第3条に掲げる事業及びその事業計画に関する事項
- (2) 博物館の管理・運営に関する事項
- (3) 予算及び決算に関する事項
- (4) その他委員会が必要と認めた事項

2 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 館長
- (2) 副館長
- (3) 博物館の運営に関して専門知識を有する専任教職員の中から館長が推薦する者若干名
- (4) 第6条第2項に規定する学芸員
- (5) 学術・社会連携部長

3 前項第3号の委員は、学長が委嘱する。

4 委員の任期は、職務上委員となる者を除き、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

5 委員は、再任されることができる。

6 委員会に、委員長及び副委員長各1名を置く。

7 委員長は、第2項第1号の委員をもって充て、副委員長は、委員の中から委員会の同意を得て、委員長が指名する。

8 委員長は、会務を総理し、委員会の議長となる。

9 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代行する。

(会議)

第7条の2 委員会は、必要に応じ、委員長が招集する。

2 委員会は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開き、議決することができない。

3 委員会の議事は、出席委員の過半数でこれを決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

4 委員会は、必要に応じ、委員以外の者を会議に出席させ、意見を求めることができる。

5 委員会には、必要に応じ、分科会を置くことができる。

6 分科会に関し必要な事項は、委員長が委員会の同意を得て、これを定める。

(規程の改廃)

第8条 この規程を改廃するときは、委員会の議を経なければならない。

(雑則)

第9条 この規程に定めるもののほか、博物館の管理・運営上必要な事項は、委員会の議を経た後、学長の承認を得て、別に定める。

附 則（1991年規程第2号）

(施行期日)

1 この規程は、1991年（平成3年）10月31日から施行する。

(明治大学刑事博物館規程等の廃止)

2 次に掲げる規程は、廃止する。

(1) 明治大学刑事博物館規程（昭和56年規程第72号）

(2) 明治大学商品陳列館規程（昭和56年規程第73号）

(3) 明治大学考古学博物館規程（昭和56年規程第74号）
(通達第669号)

附 則（1996年度規程第16号）

この規程は、1997年（平成9年）4月1日から施行する。

(通達第893号)（注 博物館協議会の設置に伴う改正）

附 則（2001年度規程第14号）

この規程は、2002年（平成14年）4月1日から施行する。

(通達第1143号)（注 商品陳列館を商品博物館に名称変更することに伴う当該条項の改正）

附 則（2003年度規程第8号）

(施行期日)

1 この規程は、2004年（平成16年）4月1日から施行する。

(改正前の規定による各博物館長の任期に関する特例)

2 改正前の明治大学博物館規程第6条第1項により選任された明治大学刑事博物館長、明治大学考古学博物館長及び明治大学商品博物館長の任期は、同規程第8条第1項の規定にかかわらず、2004年（平成16年）3月31日をもって満了するものとする。

(通達第1232号)（注 刑事博物館、考古学博物館及び商品博物館の統合に伴う改正）

附 則（2006年度規程第13号）

この規程は、2006年（平成18年）11月16日から施行する。

(通達第1490号)（注 事業に「分館の設置及び運営」を加えること、研究調査員の設置等に伴う改正）

附 則（2007年度規程第21号）

この規程は、2007年（平成19年）9月10日から施行する。

(通達第1562号)（注 事務機構改革の実施による部署名称等の変更に伴う改正）

附 則（2008年度規程第4号）

この規程は、2008年（平成20年）5月20日から施行する。

(通達第1689号)（注 研究調査員の対象者に学外の有識者及び若手研究者を加えることに伴う改正）

附 則（2009年度規程第7号）

この規程は、2009年（平成21年）6月10日から施行し、改正後の規定は、同年4月22日から適用する。

(通達第1807号)（注 事務機構第二次見直しによる部署名称等の変更に伴う改正）

附 則（2017年度規程第3号）

(施行期日)

1 この規程は、2017年（平成29年）4月20日から施行する。

(委員の任期の特例)

2 この規程の施行後、改正後の第7条第2項第3号の規定により最初に委嘱される委員の任期は、同条第4項本文の規定にかかわらず、2019年（平成31年）3月31日までとする。

(通達第2462号)（注 博物館の事業の追加、博物館協議会の博物館運営委員会への改組等に伴う改正）

博物館所蔵資料等の撮影及び掲載に関する要綱

1994年9月26日制定

1994年度例規第7号

(趣旨)

第1条 この要綱は、明治大学博物館規程（1991年規程第2号）第9条の規定に基づき、博物館の資料、遺物及び商品（以下「資料等」という。）の撮影及び掲載に関し、必要な事項を定めるものとする。

(定義)

第2条 この要綱において、次の各号に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。

- (1) 撮影 資料等の写真又は動画の撮影を行うことをいう。
- (2) 熟覧 営利上の目的又は創造的意思をもって、資料等の形状、紋様若しくは色彩又はこれらの結合にかかわる利用を行うことをいう。

(申請)

第3条 資料等の撮影及び掲載（以下「撮影・掲載」という。）を希望する者（以下「申請者」という。）は、所定の資料撮影・掲載申請書（以下「申請書」という。）を、学術・社会連携部博物館事務室を経て、博物館長（以下「館長」という。）に提出し、許可を受けなければならない。

(許可)

第4条 館長は、撮影・掲載を許可する場合は、資料撮影・掲載許可書を、申請者に交付する。

2 前項の場合においては、必要に応じ、次に掲げる事項を付帯条件とするものとする。

- (1) 撮影をするときは、学芸員等の指示に従うこと。
- (2) 掲載をするときは、明治大学博物館の名称及びその所蔵である旨を明記すること。
- (3) 撮影により生じた著作物は、申請書記載の目的以外には使用しないこと。
- (4) 撮影は、館長が指定し、又は許可した業者が行うこと。
- (5) 前各号のほか、資料等の保全上、館長が特に必要と認めたこと。

3 博物館が所有する資料等の写真フィルム原版、デジタル写真、動画、デジタルコンテンツ若しくはそれらの複製物又は博物館の刊行物を利用して、目的を達成することができるものと明らかに認められる場合は、掲載のみを許可する。

(撮影・掲載を許可しない場合)

第5条 次の各号のいずれかに該当する場合は、撮影・掲載を許可しない。

- (1) 撮影により資料等の保存に悪影響が生ずると認められる場合
- (2) 撮影・掲載が好ましくない用途に供するために行われると認められる場合
- (3) 撮影により博物館の事務処理に支障が生ずると認められる場合
- (4) 博物館の所蔵でなく、又はほかに著作権者がある資料について、所有者又は著作権者から、同意を得ていない場合
- (5) 前各号のほか、撮影・掲載を許可することが適当でないと認められる場合

(料金)

第6条 申請者は、撮影・掲載を許可された場合は、別

- 表第1に定める料金を、速やかに、学術・社会連携部博物館事務室に納付しなければならない。
- 2 料金は、資料等1点当たりの金額とする。
 - 3 いったん納付された料金は、原則として、還付しない。

(料金の免除)

第7条 前条第1項の規定にかかわらず、次の各号のいずれかに該当する場合は、料金を全額免除する。

- (1) 国又は地方公共団体が行う教育、学術又は文化に関する事業（次号において「教育等事業」という。）の用途に供することを目的とするとき。
 - (2) 教育等事業の普及に特に役立つと認められる用途に供することを目的とするとき。
 - (3) 私立の学校又は研究所の教育若しくは研究の用途に供することを目的とするとき。
 - (4) 博物館法（昭和26年法律第285号）に規定する博物館等の行う事業の用途に供することを目的とするとき。
 - (5) 専ら学術研究の用途に供することを目的とするとき。
 - (6) 専ら報道の用途に供することを目的とするとき。
 - (7) 前各号のほか、館長が全額免除すべき特別の理由があると認めたとき。
- 2 前項の規定により料金を全額免除された者は、撮影・掲載により生じた著作物を、1部以上、無償で博物館に納入しなければならない。ただし、館長が特に認めたときは、この限りでない。

(準用規定)

第8条 資料等の熟覧並びに写真フィルム原版、デジタル写真、動画、デジタルコンテンツ又はそれらの複製物の利用による掲載及び転載（以下「貸出掲載・転載」という。）については、第3条から前条までの規定を準用する。

- 2 前項の場合において、第6条第1項中「別表第1に定める料金を」とあるのは、「熟覧にあつては別表第2に定める料金を、貸出掲載・転載にあつては別表第3に定める料金を」と読み替えるものとする。

(その他の諸経費)

第9条 この要綱に定める料金のほか、撮影・掲載に伴う諸経費は、申請者の負担とする。

(意匠使用)

第10条 資料等の意匠使用に関し必要な事項については、館長が、その都度、関係部署の長及び申請者と協議して定めるものとする。

- 2 申請者は、前項の規定による決定事項を遵守しなければならない。

(申請者の責務等)

第11条 申請者は、資料等に損傷を与えた場合は、その損害を弁償しなければならない。

- 2 申請者は、撮影・掲載により著作権法にかかわる問題が生じた場合は、すべてその責任を負うものとする。

(許可の取消し等)

第12条 館長は、申請者が撮影・掲載の許可条件に従わない場合は、当該許可の取消し又は撮影・掲載の中止をすることができる。

- 2 前項の規定により、撮影・掲載の許可の取消し又は撮影・掲載の中止をされた申請者に対しては、以後の撮影・掲載を許可しないことがある。

(雑則)

第13条 この要綱に定めのない事項については、館長が博物館運営委員会に諮り、学長の承認を得て、別に定めることができる。

附 則（1994年度例規第7号）

この要綱は、1994年（平成6年）9月27日から施行する。

附 則（1997年度例規第7号）

この要綱は、1997年（平成9年）12月16日から施行し、改正後の第1条及び第13条の規定は、同年4月1日から適用する。

(通達第922号)（注 博物館規程の改正に伴う根拠規定等の改正）

附 則（2004年度例規第7号）

この要綱は、2004年（平成16年）10月1日から施行する。

(通達第1312号)（注 博物館規程の改正に伴う根拠規定等の改正並びにフィルム及び紙焼の貸出掲載料金の改定に伴う改正）

附 則（2007年度例規第9号）

この要綱は、2007年（平成19年）9月10日から施行する。

(通達第1563号)（注 事務機構改革の実施による部署名称等の変更に伴う改正）

附 則（2009年度例規第9号）

この要綱は、2009年（平成21年）6月10日から施行し、改正後の規定は、同年4月22日から適用する。

(通達第1808号)（注 事務機構第二次見直しによる部署名称等の変更に伴う改正）

附 則（2015年度例規第13号）

この要綱は、2016年（平成28年）4月1日から施行する。

(通達第2363号)（注 デジタル化に即した規定に改めること及び撮影・掲載料金等の改定に伴う改正）

附 則

この要綱は、2017年（平成29年）4月26日から施行する。

別表第1（第6条関係）

写真・動画	10,000
-------	--------

撮影・掲載料金（消費税は含まない。）

別表第2（第8条関係）

熟覧	5,000
----	-------

熟覧料金（消費税は含まない。）

別表第3（第8条関係）

貸出掲載・転載料金（消費税は含まない。）

サイズ	4×5 (インチ)	6×8(c m) 6×6(c m)	35mm
カラー	7,500	6,000	2,000
モノクローム	5,000	2,000	1,000

1 写真フィルム原版

(単位：円)

カラー・モノクローム	4,000
------------	-------

2 デジタル写真

(単位：円)

動画及びデジタルコンテンツ	20,000
---------------	--------

3 動画及びデジタルコンテンツ

(単位：円)

明治大学博物館特別展示室の利用に関する取扱要綱

2005年10月4日制定

2005年度例規第7号

(趣旨)

第1条 この要綱は、学校法人明治大学固定資産・物品管理規程（昭和46年規程第38号）第1条第3項の規定に基づき、明治大学博物館（以下「博物館」という。）内の特別展示室Ⅰ・Ⅱ（以下「特別展示室」という。）の利用等に関し、必要な事項を定めるものとする。

(管理責任者)

第2条 特別展示室の管理責任者は、博物館長とする。

(利用範囲)

第3条 特別展示室は、博物館が実施する特別展等（以下「特別展等」という。）に利用するものとし、特別展等に利用しない期間については、次の各号のいずれかに該当する場合に利用を許可するものとする。

- (1) 学内関係機関による展示活動
- (2) クラス、ゼミナール等による授業にかかわる展示活動
- (3) 本学公認サークルによる展示活動
- (4) 本学の専任教職員が第5条に規定する申請者となっている団体等による展示活動
- (5) 本学の校友が第5条に規定する申請者となっている団体等による展示活動
- (6) その他特に管理責任者が許可した展示活動

(利用日及び利用時間)

第4条 特別展示室の利用を許可する日は、博物館の開館日とする。

- 2 利用時間は、午前10時から午後4時30分までとする。

- 3 利用期間は、原則として2週間を限度とする。ただし、前条第1号及び第2号に該当する場合は、この限りでない。

(利用申込み)

第5条 特別展示室の利用を希望する者は、所定の利用申請書を利用開始日の6週間前までに、管理責任者に提出しなければならない。

(利用許可)

第6条 管理責任者は、前条の規定により申請を受け、申請内容が適当であると認められたときは、利用開始日の3週間前までに利用を許可するものとする。ただし、次の各号のいずれかに該当すると認められる場合は、利用を許可しない。

- (1) 特別展示室の管理・運営に支障が生ずるおそれがある場合
 - (2) 付属設備及び備品を破損するおそれがある場合
 - (3) その他利用が不適当と認められる場合
- 2 前項により、管理責任者は、利用を許可したときは、利用許可書を申請者に交付する。

(利用の中止)

第7条 利用者の都合により利用を中止する場合は、利用開始日の2週間前までに管理責任者に申し出て、交付された利用許可書を返却しなければならない。

(利用の取消し等)

第8条 次の各号のいずれかに該当するときは、事前に、又は利用期間中において利用の取消し又は利用期間の変更をすることができる。

- (1) 本学の業務遂行上緊急やむを得ない事情が生じたとき。
- (2) 利用申請書に虚偽の記載があったとき。
- (3) 特別展示室の管理・運営に支障が生じたとき。
- (4) その他特別展示室の利用が不適当と管理責任者が認めたとき。

- 2 前項により、利用者に損害が生じても、本学は、その責を負わないものとする。

(遵守事項)

第9条 利用者は、特別展示室の利用に際し、管理責任者の指示を遵守しなければならない。

(利用料等)

第10条 利用者は、特別展示室の利用を許可されたときは、所定の方法により、2週間前までに利用料を納入しなければならない。

- 2 前項の規定にかかわらず、第3条第1号、第2号及び第3号に該当する場合は、特別展示室の利用料を徴収しない。

- 3 第3条第4号及び第5号に該当する場合の利用料は、1日につき2,700円（消費税を含む。特別展示室Ⅰ及び特別展示室Ⅱともに同額）とする。

- 4 第3条第6号に該当する場合の利用料は、1日につき5,400円（消費税を含む。特別展示室Ⅰ及び特別展示室Ⅱともに同額）とする。

- 5 いったん納入された利用料は、第7条の規定による特別展示室に係る利用の中止又は第8条第1項第1号の規定による利用の取消しの場合を除き、これを返還しない。

(権利の譲渡及び転貸の禁止)

第11条 利用者は、特別展示室の利用の権利を譲渡し、又は転貸をしてはならない。

(損害賠償)

第12条 利用者は、特別展示室の利用に際し、その付属設備及び備品を破損し、紛失し、又は汚損したときは、直ちに主管部署に届け出て、その指示を受けなければならない。

- 2 前項の場合において生じた損害については、利用者が損害に相当する額を弁償しなければならない。ただし、やむを得ない事由があると認められるときは、これを減免することができる。

- 3 盗難、火災等により利用者が搬入した展示物等に損害が生じても、本学は、その責を負わないものとする。

(主管部署)

第13条 特別展示室の利用に関する事務は、学術・社会連携部博物館事務室が行う。

(要綱の改廃)

第14条 この要綱を改廃するときは、博物館運営委員会の議を経なければならない。

附 則（2005年度例規第8号）

この要綱は、2005年（平成17年）10月5日から施行する。

(通達第1397号)

附 則（２００７年度例規第９号）
この要綱は、２００７年（平成１９年）９月１０日から施行する。
（通達第１５６３号）（注 事務機構改革の実施による部署名称等の変更に伴う改正）
附 則（２００９年度例規第９号）
この要綱は、２００９年（平成２１年）６月１０日から施行し、改正後の規定は、同年４月２２日から適用する。
（通達第１８０８号）（注 事務機構第二次見直しによる部署名称等の変更に伴う改正）
附 則
この要綱は、２０１７年（平成２９年）４月２６日から施行する。

明治大学大久保忠和考古学振興基金規程

１９９５年５月８日制定
１９９５年度規程第２号

（設定）
第１条 明治大学（以下「本大学」という。）に、本大学文学部史学地理学科（考古学専攻）の卒業生である大久保忠和氏の遺志を生かすため遺族から寄せられた指定寄付金５、０００万円をもって、明治大学大久保忠和考古学振興基金（以下「基金」という。）を設定する。
（目的）
第２条 基金は、考古学及び明治大学博物館（以下「博物館」という。）にかかわる調査・研究（以下単に「調査・研究」という。）を奨励することにより、本大学における考古学の振興及び博物館の発展に寄与することを目的とする。
（資産）
第３条 基金は、次に掲げる資産をもってこれに充てる。
（１）第１条の指定寄付金
（２）基金の目的に賛同してなされた別記様式記載の指定寄付金
（３）第７条の規定により基金の元本に繰り入れられた資産
（基金の運用等）
第４条 基金の資産は、資金の運用に関する規則（２００９年度規則第２０号）に基づいて運用する。
２ 前項の規定により生じた果実は、基金の事業費に充てるものとする。
３ 基金は、第６条に規定する基金運営委員会の議を経た上で、その一部を取り崩し、事業費に充てることができるものとする。
（事業）
第５条 基金による事業は、次のとおりとする。
（１）調査・研究に対する助成
（２）調査・研究によって得られた成果に対する顕彰
（３）前２号のほか、第２条の目的達成に必要な事業
２ 前項の事業を行うために必要な事項は、次条に規定する基金運営委員会の議を経て、別に定めることができる。
（基金運営委員会）
第６条 基金の運用等及び前条第１項の事業に関する事項を審議するため、基金運営委員会（以下「運営委

員会」という。）を置く。
２ 運営委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。
（１）明治大学博物館長 １名
（２）文学部史学地理学科考古学専攻主任（次号において「主任」という。）１名
（３）文学部史学地理学科考古学専攻の専任教員のうちから主任が推薦する者 若干名
（４）学術・社会連携部博物館事務長及び社会連携事務長 ２名
（５）考古学に関し高度の学識経験を有する者 若干名
３ 前項第３号及び第５号の委員は、委員長が委嘱する。
４ 委員の任期は、職務上委員となる者を除き、２年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
５ 第２項第３号及び第５号の委員は、再任されることができる。
６ 運営委員会に、委員長を置き、第２項第１号の委員をもって充てる。
７ 委員長に事故あるときは、第２項第２号の委員が、その職務を代行する。
８ 委員長は、会務を総理する。
９ 委員長は、会議を招集し、その議長となる。
１０ 運営委員会は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開き、議決することができない。
１１ 運営委員会の議事は、出席委員の過半数でこれを決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。
１２ 運営委員会は、必要に応じ、遺族及び委員以外の者の会議への出席を求め、意見を徴することができる。
（収支残額の処理）
第７条 毎年度の決算において基金の収支計算を行い、収支残額が生じた場合は、運営委員会の議を経て、これを基金の元本に繰り入れるものとする。
（事務）
第８条 基金の事務は、学術・社会連携部博物館事務室が行う。
（規程の改廃）
第９条 この規程の改廃は、運営委員会の議を経て、理事会が行う。
（雑則）
第１０条 この規程の施行に必要な事項は、委員長が、運営委員会及び理事会の同意を得て、これを定める。
附 則（１９９５年度規程第２号）
（施行期日）
１ この規程は、１９９５年（平成７年）５月９日から施行する。
（委員の任期の特例）
２ この規程の施行後、最初に任命される第６条第２項第３号及び第５号の委員の任期は、同条第４項本文の規定にかかわらず、１９９７年（平成９年）３月３１日までとする。
（通達第８０６号）
附 則（２００３年度規程第３５号）
この規程は、２００４年（平成１６年）４月１日から施行する。
（通達第１２８２号）（注 考古学博物館が明治大学

博物館として統合されることによる運営委員会に係る委員構成の変更に伴う改正）
附 則（２００７年度規程第４０号）
この規程は、２００７年（平成１９年）１１月８日から施行する。
（通達第１６０４号）（注 事務機構改革による基金運営委員会の委員構成及び事務部署名の変更に伴う改正）
附 則（２００９年度規程第７号）
この規程は、２００９年（平成２１年）６月１０日から施行し、改正後の規定は、同年４月２２日から適用する。
（通達第１８０７号）（注 事務機構第二次見直しによる部署名称等の変更に伴う改正）
附 則（２０１０年度規程第６号）
この規程は、２０１０年（平成２２年）５月２６日から施行し、改正後の規定は、同年３月３０日から適用する。
（通達第１９１１号）（注 資金の運用に関する規則の制定に伴う改正）
明治大学博物館友の会会則
１９８８年６月２５日制定
１９９３年４月１日改訂
２００６年４月１日改訂
２０１０年４月１日改訂
２０１４年４月１日改訂
（名称）
第１条 本会は、明治大学博物館友の会という。
（事務所）
第２条 本会は、事務所を東京都千代田区神田駿河台1-1 明治大学（以下「大学」という）に所在する明治大学博物館（以下「博物館」という）内に置く。
（目的）
第３条 本会は、博物館設置の趣旨に賛同し、会員による自主運営を旨とし、会員相互の知識と親睦を深め合い、もって博物館の活動に寄与することを目的とする。
（事業）
第４条 本会は、前条に掲げる目的を達成するため、次の事業を行う。
①講演会・研修会・見学会などの開催
②会報、ニュース、図書の発行
③会員による自主研究分科会活動
④博物館事業への協力活動
⑤その他目的達成に必要と認められた事業
（入会）
第５条 本会に入会を希望する個人は、入会申込書に記入の上、所定の会費を添えて申し込まなければならない。なお、本会活動の趣旨に賛同後援する個人及び法人を賛助会員とする。
２ 会員には会員証を発行する。
（会員の特典）
第６条 会員には、次の特典がある。
①本会および博物館の行事などの情報提供
②大学並びに博物館主催行事への優待参加
③大学図書館の閲覧
（退会）
第７条 会員の資格は、次の場合に消滅する。

①退会の申し出があった場合
②死亡した場合
③会員証記載の有効期限が過ぎた場合
④本会の趣旨に违背した行為があったと認められる場合
（役員）
第８条 本会に、次の役員を置く。
① 会長 １名
② 副会長 ２名以内
③ 理事 ５名以内
④ 運営委員 若干名
⑤ 監事 ２名以内
（役員を選出）
第９条 役員は、次のとおり選出するものとする。
①会長および監事は、総会で選出する。
②副会長および理事は、会長が任命する。
③総務・会計・行事・広報を担当する運営委員は、理事会において選任し、会長が任命する。また、博物館図書室管理員・展示解説員からそれぞれ互選された運営委員を、会長が任命する。
④上記②、③について、会報で報告する。
⑤監事は、他の役員を兼務することが出来ない。
（役員の仕事）
第１０条 役員は、次の職務を誠実に執行するものとする。
①会長は、本会を代表し、会務を総理する。
②副会長は、会長を補佐し、会長がその職務を遂行出来ないときは、その職務を代行する。
③理事は、本会の総務、会計、広報、行事、企画などの会務を行う。
④運営委員は、理事と共に会務を行う。
⑤監事は、本会の財産会計業務を監査し、総会に報告するとともに、理事会および運営委員会に出席し、その職務に関し、意見を述べることが出来る。
（役員の仕事）
第１１条 役員の仕事は、２年とする。ただし、役員は再任を妨げない。
２ 補欠の役員の仕事は、前任者の残任期間とする。補欠の役員の仕事は、前任者の残任期間とする。
（相談役・顧問）
第１２条 本会に、相談役および顧問を置くことが出来る。
２ 相談役および顧問は、理事会の推薦により会長が委嘱する。
３ 相談役および顧問は、本会への必要な助言を行う。
（総会）
第１３条 本会は、年１回総会を開き、事業報告・会計報告を行い、事業計画・予算案を出席会員の過半数により議決する。なお、理事会の議決、又は会員過半数の要求があった場合は、会長は臨時総会を開催しなければならない。
（理事会）
第１４条 理事会は、会長、副会長、理事を以て構成し、会長が招集し、次の事項を審議・決定する。
①総会に付議する重要な事項。
②その他、本会の運営に関する重要な事項。なお、理事会構成員の過半数の要求があった場合、会長は理事会を開催しなければならない。
（運営委員会）
第１５条 運営委員会は、会長、副会長、理事、運営委員

を以て構成し、会長が招集し本会の業務運営を行う。

なお、運営委員会構成員の過半数の要求があった場合、会長は運営委員会を開催しなければならない。

(会費)

第16条 本会の年会費は、次のとおりとする。ただし、その年度の下半期入会者は、賛助会員を除き半額とする。なお、納められた年会費は返還しない。

- | | |
|-----------|---------------|
| ①一般会員 | 3,000円 |
| ②家族会員 | 1,500円(同居の家族) |
| ③学生 | 1,500円 |
| ④賛助会員(1口) | 10,000円 |

(経費)

第17条 本会の経費は、会費・事業収益・寄附金・その他をもって充てる。

(事業年度)

第18条 本会の事業年度は、4月1日より翌年3月31日までとする。

(会則の変更)

第19条 本会の会則は、総会の議決なくして変更することはできない。

(付則)

- 本会則は、改訂年4月1日から発効する。
- 本会の管理運営上必要と認められる細則は、理事会において審議し、別に定める。

(その他)

(その他)

(その他)

(その他)

6. 2020年度博物館長期・中期計画

1 理念・目的

グローバル化や情報化の進展にともなって多様化した人類的課題に対応できる高度な問題解決力をもった人材の育成や、学びを基軸とした新たなコミュニティの形成など、大学に対する社会の要請が近年ますます高まるなかで、教育・研究の成果を広く還元し、社会の発展に寄与することは、大学の使命の重要な一面である。博物館は、大学ブランドの社会的発信力を高め、本学の発展に貢献するための重要なインフラとして本学の特色ある教育・研究の一翼を担う。そして、博物館独自の展示や生涯学習の多様な機会の提供などをとおして社会に貢献する拠点的な役割を果たす。

<ミッション1：収蔵資料の保管、拡充および利活用の促進>

約45万点に及ぶ国内有数規模の各種収蔵資料を質・量ともに充実させ、調査・研究を進めるとともに、保存・管理及び学術情報公開の態勢を整備し、国際的な視野から教育・研究機会における利活用を促進する。

<ミッション2：学内共同利用機関としての機能拡充>
本学の戦略的な教育・研究推進計画に寄与するとともに、全学的なネットワークのもとで博物館として特色ある展示及び教育・研究事業を実現する。

<ミッション3：社会連携の推進と情報発信>

本学の教育・研究の成果を社会に還元するため、生涯学習の多様な機会の提供、及び地域の関係機関との交流を推進する。また、情報通信技術の活用によって、本学の教育・研究成果をより広範な人々に対して発信する役割を担う。

2. 内部質保証の方針

館長・副館長と専任職員による定例会議と、教員を中心に構成される博物館運営委員会により、内部での評価を行っている。外部からの評価は、一般社会人により組織されている博物館友の会との連絡会議の場で直接意見を
得る機会を設けているほか、企画展や常設展の来館者アンケートの意見を集計・分析し、問題点の改善に努めている。これらの内容は自己点検・評価に反映するとともに『博物館年報』としてまとめ、ホームページ上でも一般にも公開し評価を受けることが可能な形をとっている。

3 教育

【学部・研究科の枠組みを越えた教育に関する計画】

(1) 全学共通総合講座・国際日本学部講義の実施

博物館が関係する法・商・文学部以外の学生にも博物館に関する学びの機会を提供する。座学以外に土器や文書など実物資料に触れる講義を設定し、多様な学びとアクティブラーニングを実践する。合計40名程度。

(2) 特別講義の実施

伝統工芸品マーケティングにかかわる民間の外部講師を招聘し、商学部・商学研究科の学生対象に特別講義を開催する。150名程度。

(3) 全学部対象の博物館実習の実施

学芸員資格取得のための館務実習について、全学部から実習生を受け入れ、指導する。実務に即した実習を実施し自主的な学びを促す。50名程度。

【多様な学びの機会の提供】

(1) 他施設での展示活動の展開

中央図書館・生田図書館での出張展示や附属中学校での出張授業を行うことにより、博物館に普段かかわりの少ない学部学生・生田キャンパスの学生・明治大学付属明治中学校の生徒にも本学の学術リソースに触れる機会を設け、多様な学びへとつなげる。

4 学生支援

【学生が様々なことに挑戦することのできる支援に関する計画】

(1) 学内ワーク・スタディの検討

現在、博物館ならびに図書室で学生が従事している補助的アルバイト業務について、その一部について経済的支援の観点を含めた学内ワーク・スタディの導入を検討する。いずれの業務についても専門性が求められることから、学生の能力・興味関心を考慮する等、実現に向けた具体案を策定する。

5 研究

【共創・学際的研究を推進し、次代に本学の強みとなる研究拠点に関する計画】

(1) 南山大学人類学博物館との協定事業の実施

2010年度から継続し、4期目となる事業。双方の特色ある収蔵資料の交換展示と関連公開講座、学芸員資格課程履修生対象の特別講義を実施し、学生に多様な学びの機会を提供し、学術リソースの社会還元をおこなう。

(2) 学内外の研究者・機関と連携した共同研究や教育事

業の実施

商学部教員等と連携した伝統的工芸品産業（信楽焼）のマーケティング研究、学芸員による科研費採択事業の研究を実施する。また、学内教員・組織の企画展開催を積極的に支援する。

【本学の研究成果の社会還元・社会実装に関する計画】

(1) 学術リソースのデジタル化と情報発信の強化

博物館が有する膨大な考古資料の学術リソースをデジタル化してアーカイブとし、インターネット上で世界に発信し研究利用に供することで「明大考古学ブランド」をより一層高めていく。2021年度が4カ年計画の最終年度となる。

(2) 研究成果の社会還元

収蔵資料および関連研究の成果を特定テーマ別に編集して報告する『明治大学博物館研究報告書（仮題）』を刊行・公開する。

【研究の国際化や国内外の大学や企業とのネットワーク拡大に関する計画】

(1) 海外博物館との研究交流

2009年以来、資料の利活用や展示で研究交流の実績がある大英博物館をはじめとして、東アジア諸国や西欧諸国の博物館との国際交流の機会を増やし、学術交流を推進する。

(2) 国際学会における研究交流の実施

考古部門学芸員による科研費事業の一環として、国際学会で研究発表を行っていく。国際黒曜石会議（IOC）北海道遠軽大会2023の開催に協力する。

【収蔵資料・博物館学にかかわる調査・研究の推進】

(1) 調査・研究の推進

収蔵コレクションを対象とした調査・研究を多角的に推進する。各年度の中心的な事業となる特別展に関する調査研究を数年かけて取り組むほか、館を代表するコレクションの共同研究を行う。また、展示や保存環境に関する各地の博物館や関連機関・施設の調査を行い、収蔵資料に関連する学会に参加し、研究学術交流を積極的に推進する。科研費等研究の外部資金獲得を目指す。

6 社会連携・社会貢献

【持続可能な開発目標（SDGs）達成に資する取組みやプログラム】

(1) 生涯学習の機会の促進

「質の高い教育をみんなに」にあたる生涯学習の機会提供を継続して推進する。博物館常設展の観覧料は無料であり、全ての人々に公開されている。

企画展や、リバティアカデミーの博物館企画講座により、多くの人々に学びの機会を提供している。来館者数に直結するSNS発信、オンラインコンテンツの充実を重点的に進めていくとともに、インターネットに対応できない人々への対策も検討する。

【リカレント教育を含めた生涯学習の拠点に関する計画】

(1) 生涯学習・友の会の活動支援を柱とした拠点化の推進

30年の歴史をもつ公開講座をはじめ、一般社会人のニーズが高い博物館講座を継続して開講し、研究成果の積

累を促進

極的な社会還元に努める。また、職場体験や校外学習など高校生以下の層にも対応する。

会員数が550名を数える明治大学博物館友の会は、自主的な講演会開催や勉強会活動、ボランティアなど積極的な生涯学習活動を展開しており、博物館は共催事業などの連携等の面で多大な支援を行っている。これらを推進し、生涯学習の一大拠点化をさらに推進していく。

【本学のリソースを地域社会に還元する計画】

(1) 博物館主催特別展の開催

博物館単独または学内研究機関との調査・研究の成果を発信する特別展は、博物館の最重要事業に位置付けられており、数年の準備期間、予算、エフォートを十分に投入して実施する。2021年度は創立140周年にあわせ、大学史資料センターと共同企画で大学史の特別展を開催する。

(2) 学術リソースの展示・講座による還元

南山大学との協定事業ならびに館または学内外の機関主催の企画展や、生涯学習講座により、地域社会にリソースを還元する。

【自治体や産業界、地域住民、校友などを交えたネットワークの構築に関する計画】

(1) 原資料所在地等との連携事業の推進

当館で所蔵する資料と関連する自治体との共同・連携事業を推進する。

(2) 産業界との連携

(2) キャンパス所在地域との連携事業への参画

東京都が毎秋開催する文化財公開事業や、千代田区の企業・商店・公開施設が参加する地域スタンプラリー事業への参画を継続し、活動の周知をはかる。

【学術リソースの保全】

(1) 収蔵コレクションの保管と拡充

適切な保存環境を維持し、資料の保存処理・修復を行うことで45万点にのぼる貴重なコレクションの保全をほかり、研究ならびに展示への利活用を可能な状態とする。資料の購入や受贈を通じ、収蔵コレクションをさらに充実させる。一方で、約3800点の未排架資料が存在するなど、収蔵室の容量が逼迫しているため、関係部署に収蔵スペースの確保を求めていく。首都圏屈指の専門書を排架する博物館図書室の蔵書については、さらに内容を充実させる。

【学術リソースの多角的な活用】

(1) 学内外の教員・研究者に対するレファレンス体制の整備

学内外の教員・研究者に対し、研究を目的とした収蔵コレクションの利用を促進する。調査への対応、目録の作成・公開、インターネット上で情報の発信を継続する。

(2) 外部機関への資料貸し出しと広報誌・SNS等による一般への還元

実物資料ならびに写真等の資料貸し出しを積極的に行う。また、収蔵資料の情報について、広報誌やSNS等インターネット上で公開を推進し、社会に還元するほか、関連グッズを制作し幅広い層に対し興味関心を喚起する。

7 大学運営

【学費に依存しない収入の多様化に資する取組み】

(1) 「明治大学博物館振興基金（仮称）」の立ち上げ

博物館は独自の収入を得る手段が限られてきたが、来館者が10万人を超えるなど近年当館への関心が高まりつつあることから、博物館の活動に資する寄付基金の設立に取り組む。内容は「明治大学図書館振興基金」を参考とし、2020年より検討を始め、2022年度からの運用を目指す。

(2) 有料掲載画像の利用促進

収入の多様化に資するため、有料の資料掲載を促進する。SNSでの周知活動ならびにウェブサイトの利用案内を充実させる。

【各種申請・決済の効率化、情報環境の整備に関する計画】

(1) 事務室内決裁書類のオンライン化の推進

年間約200件にのぼる取材・掲載申請書類をはじめとする事務室内の承認書類について、在宅勤務期間中の実績を踏まえ、ウェブによる回覧と電子印鑑による押印を推進し決裁の迅速化をはかる。

【継続的な事業推進を目的とした学芸員の専門職化】

(1) 学芸員の専門職化

博物館運営の中心を担う学芸員について、現在は学長より委嘱されているのみであり、制度的な裏付けはなされていないのが現状である。今後も継続的に事業を推進していくため、専門的知識と技能を有する専門職としての正式な位置付けがなされるよう、関係部署に要請していく。

7. 2020年度単年度計画重点項目

1 博物館特別展「校友山脈―明治大学の教育と人材―」（仮題）の開催

創立140周年にあわせ、博物館と大学史資料センターの共同企画により、「顕著な業績を残した校友の群像」と校友を育んだ「明治大学の教育」という2つの視点を通して、本学が人材育成の面から近代社会に果たした役割を考える。主催：明治大学、テーマ：①明治大学の創立と

8. 明治大学博物館のあゆみ

1881（明治14）年	1月	明治法律学校開校
1929（昭和4）年	4月	刑事博物館を記念館5階に開設
1931（昭和6）年		大学創立50周年記念刑事展覧会開催
1933（昭和8）年	9月	刑事博物館初代館長に大谷美隆法学部教授が就任 『刑事博物図録』を刊行
1949（昭和24）年		（第2次世界大戦） 新制大学へ移行
1951（昭和26）年	4月	刑事博物館の運営を再開　館長に島田正郎法学部教授（後、明治大学総長） 林久吉商学部教授（初代商品陳列館長）らの商品研究所が資料室を開設
1952（昭和27）年		考古学陳列館が2号館4階に開館　初代館長に後藤守一文学部教授が就任
1954（昭和29）年	4月	刑事博物館が2号館4階へ移転　6月に一般公開開始
1955（昭和30）年	2月	刑事博物館が博物館相当施設に指定される（2004年3月廃館にともない指定解除）

教育、②校友山脈(司法・政界・財界・文化・芸能等各分野の校友の業績を紹介)、③明治大学の書き手たち・時代小説の系譜、④明大出身オリンピック。会場：博物館特別展示室(①②)、中央図書館ギャラリー(③)、岸本辰雄ホール(④)の3会場で開催。会期：2021　年7月～11月（95日間程度、創立記念日を含む）、入場無料（ドネーション方式）、会期中無休。

2 重要文化財を含む考古コレクションの多視点的アーカイブと国際発信

2021年度は4ヵ年計画の4ヵ年目。本重点項目では明大考古学の発足から蓄積された重要文化財を含む遺物・発掘記録を活用し、2D／3Dデジタル化等による多視点的かつ現在の研究視点からコレクションの学術評価を行っている。2021年度は、大判の紙媒体発掘記録や写真フィルムの業務委託によるデジタル化を推進し、公開用データベースへの登録を重点的に行う。また、構築済みのシステムを用い、考古遺物の3次元計測とCADデータへの変換を継続する。

3 明治大学博物館・南山大学人類学博物館交流事業(第4期)

博物館学の教育・研究活性化と、所蔵する特色ある資料やコンテンツの交換活用による交流事業（2010年度から実施）。第4期(2019～2021年度)の3年目においては、①双方の特色ある収蔵資料を交換した小規模展示とそれに関連する公開講座、②両館の運営実践ないし収蔵資料体系をテーマとする学芸員資格課程履修生を対象とする特別講義、③2017～2020年度開催のシンポジウムに関わる成果報告集（オンライン及び冊子体）の刊行、を実施する。

4 伝統的工芸品産業（信楽焼・滋賀県）のマーケティング研究

伝統的工芸品を収蔵・展示資料とする商品部門において、商学部教員等に研究調査員を委嘱して組織している研究推進部会のさらなる活性化を図る。信楽焼（滋賀県）を対象とする2019年度から3ヶ年計画の3年目。国指定伝統的工芸品をブランドイメージとして掲げつつも、内実として手工業の食器類から建築材料・住宅設備まで多様な製品を抱える信楽焼の、種目の別によって方法の異なる多様なマーケティング活動について、製造・流通の関係者を交えて検証する。

1957（昭和32）年	5月	商品陳列館が2号館4階に開館 （この頃には3館とも一般公開　3館共通の入館案内を作成）
1960（昭和35）年		考古学陳列館長に杉原荘介文学部教授が就任
1963（昭和38）年		譜代大名内藤家文書を和泉校舎図書館に収蔵、後、刑事博物館に移管
1966（昭和41）年	4月	小川町校舎へ移転(考古2階・刑事3階・商品4階)　商品陳列館長に三谷茂商学部教授が就任 （大学紛争）
1976（昭和51）年	4月	刑事博物館長に鍋田一法学部教授が就任
1977（昭和52）年	4月	商品陳列館が一般公開再開　同館「講演と映画の会」開催（年1回～2003）
1981（昭和56）年		1号館（刑事1階・考古3階）、11号館（商品4階）へ仮移転　商品陳列館長に刀根武晴商学部教授が就任
1983（昭和58）年	9月	考古学陳列館長に大塚初重文学部教授が就任
1985（昭和60）年	11月	3館大学会館へ移転（刑事・商品3階・考古4階）「考古学博物館」に名称変更
1987（昭和62）年	5月	公開講座「考古学ゼミナール」開講
1988（昭和63）年	6月	考古学博物館友の会結成
1991（平成3）年	4月	3博物館の事務所管部署一元化のため博物館事務室設置
	10月	「明治大学博物館規程」制定
1995（平成7）年	4月	考古学博物館長に戸沢充則文学部教授が就任　刑事博物館長に川端博法学部教授が就任
	10月	博物館入門講座を開講
1997（平成9）年	4月	刑事博物館にて「ヨーロッパ拷問展」開催（～12月）
2001（平成13）年	4月	刑事博物館が文部科学省「親しむ博物館づくり事業」受託
2002（平成14）年	4月	商品博物館に名称変更　商品博物館長に澤内隆志商学部教授が就任
2004（平成16）年	4月	「明治大学博物館」アカデミーコモン地階に開館　博物館長に小崎尚文学部教授が就任　「明治大学博物館規程」改正施行（刑事博物館・商品博物館・考古学博物館を統合）　国外から資料を借用しての特別展「韓国スヤンゲ遺跡と日本の旧石器時代」開催（～5月）
	10月	文部科学省委託事業「地域子ども教室」受託（～2005年3月）
2006（平成18）年	4月	博物館長に杉原重夫文学部教授が就任
	8月	文部科学省委託事業「地域子ども教室」受託（～2007年3月）
	10月	特別展「掘り出された子どもの歴史」にて国指定重要文化財を借用・展示
	11月	明治大学黒曜石研究センターが博物館分館となる（～2010年3月）
2007（平成19）年	10月	事務所管部署が学術・社会連携部社会連携事務室となる
2009（平成21）年	4月	事務所管部署が学術・社会連携部博物館事務室となる 巡回特別展「海のシルクロードの出発点“福建”」展開催　中国国家一級文物を展示（～5月）
		南山大学人類学博物館と交流協定締結
2010（平成22）年	3月	南山大学人類学博物館と交流協定締結
2012（平成24）年	4月	博物館長に風間信隆商学部教授が就任
2013（平成25）年	2月	ギロチンとニュルンベルクの鉄の処女が名古屋へ　南山大学人類学博物館・名古屋市博物館との合同特別展「驚きの博物館コレクション展」開催（～3月）
	3月	南山大学人類学博物館との合同シンポジウム成果刊行物『博物館資料の再生―自明性への問いとコレクションの文化資源化―』を岩田書院から刊行
	7月	岩宿遺跡出土石器（重文・29点）他記録類をはじめて海外へ出展（～9月）　韓国公州市石壮里博物館・群馬県岩宿博物館と共催で「日本旧石器の始まり“岩宿”」展開催（～2014年2月）
2014（平成26）年	5月	開館10年を記念して、これまでの来歴を検証し将来を展望した「明大博物館クロニクル」開催（～6月）
	7月	大船渡市と明治大学が結んだ震災復興支援の協定にもとづき、明治大学博物館のコレクションを紹介した「明治大学コレクションの世界：氷河期から昭和まで」を大船渡市立博物館で開催（～8月）
2016（平成28）年	3月	常設展示を改修、新装オープン　東京都教育庁から博物館相当施設に指定される
	4月	博物館長に村上一博法学部教授が就任
2017（平成29）年	4月	明治大学博物館規程の一部改正が承認され、博物館協議会を博物館運営委員会に改組
2018（平成30）年	3月	年度の入館・利用者数が初めて10万人を超える
	4月	博物館長に井上崇通商学部教授が就任
	8月	2004年の開館以来の入館・利用者数が100万人を超える
	10月	大英博物館資料を展示した特別展「ウィリアム・ガウランドと日本の古墳研究」開催（～12月）
2019（令和1）年	9月	特別展「見えているのに見えていない！立体錯視の最前線」が入場者2万人を超える
2020（令和2）年	2月	年度の入館・利用者数が初めて11万人を超える
	3月	COVID-19（新型コロナウイルス感染症）拡大防止のため臨時休館（～10月）
	4月	博物館長に千葉修身商学部教授が就任
	10月	COVID-19による各種の行動制限下、特別展「氷河期の狩人は黒曜石の山をめざす―明治大学の黒曜石考古学―」を開催

VI 2020年度協定事業シンポジウム 「今、博物館は何をするべきか」の実施

黒沢 浩*
忽那 敬三**

はじめに

明治大学博物館と南山大学人類学博物館は、2010年より連携協定事業を行っている。例年、特別講義と交換展示、そして博物館学に関するシンポジウムを実施しているが、2020年度は新型コロナウイルスの感染拡大により大きな影響を受けた。このうち、シンポジウムについては初めてオンラインによる開催となった。以下では、シンポジウムの概要とオンラインによる実施状況について報告する。なお、概要については『MUSEUM EYES vol.76』（明治大学博物館2021）に掲載された報告の再録である。（忽那）

1. シンポジウムの概要

(1) コロナ禍と博物館

明治大学博物館と南山大学人類学博物館の連携事業は、今年で10年目を迎えた。毎年、博物館研究をテーマとしたシンポジウムを開催していたが、今年新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて、この状況の中で博物館はどうしたらよいかを考える機会とすべく、12月7日にオンラインでのシンポジウム開催となった。

シンポジウムのテーマは、「今、博物館は何をするべきか—コロナ以降の持続可能性を考える—」とした。これは、現在の状況の中で、博物館自体が持続可能なのかどうか、あるいは持続可能なものにしていくためにはどういうことが必要なのか、について考えてみることを意図したのである。

実は、このシンポジウムの企画段階では、SDGsのような持続可能な世界の構築にいかにかかわる

か、ということ考えていた。同じテーマはすでにICOM日本委員会によるシンポジウム（2020年9月）で取り上げられていたが、このテーマを考えた理由は、地球や人類が持続しなければ、その産物である博物館が持続可能になるはずがない、ということであった。コロナウイルスをはじめとしたさまざまな感染症も、実は自然破壊によって野生動物と人間との距離が近くなったことが原因の一つとされている。そういう意味では、博物館が地球の持続可能



図1 シンポジウムの告知画像

* 南山大学人文学部

** 明治大学博物館考古部

性にどのようにコミットできるか、これが当初の企画だった。

(2) 博物館の危機と存在意義

しかし、今回のパネリストと打ち合わせを進める中で、その方向は次第に修正されていった。パネリストの一人である九州産業大学の緒方泉先生によれば、このコロナ禍によって、世界の博物館の13%が閉館する見通しであるという。そうなると、話は地球や人類の持続可能性を語る以前に、博物館自体の持続可能性を考えなければならない、ということになる。日本でも多くの博物館が経営的に危機的状況にあるといわれており、世界といってもけっして他人事ではない。

こうした問題を論じるにあたり、一つの軸を設けることにした。それは、博物館という存在がわれわれ（人類全体のという意味でのわれわれ）の社会にとって「必要な存在である」という認識をどうしたら高めていくことができるのか、ということである。これまで日本の博物館・博物館学では、博物館と社会とのかかわりというテーマについて、そう活発に議論されてきたわけではない。特に日本の場合、近代博物館の成立事情からみて、欧米に比べて社会が博物館をあるべきものとしてとらえることが少ないように思う。このことは、自治体の苦しい財政事情の中で、しわ寄せが必ず文化政策に来ることを見てもわかる。

このように言うと、博物館は社会という「実体」とは別に存在し、あたかも社会の外にあるかのようにイメージしているととらえられるかもしれないが、そうではなく、様々な人やモノが絡み合い、関連付けられる網の目として社会をとらえて、その中に博物館を位置づけよう、ということである。言い換えるならば、そうしたネットワークの中で、「われわれはここにいるよ！」という声を上げ、適切な場所に位置取りをしていく、そんなイメージだ。

(3) 報告と討議

今回のシンポジウムでは3名のパネリストに、博物館が社会とかがわりあうための手立てについてお話いただいた。

明治大学の井上由佳先生からは、英国でのコロナ禍の中での博物館の対応と学芸員教育での人材育成

について紹介してもらった。目指すのは、最近のはやりの言葉で言えば、こうした危機的状況に対応できるレジリエンスの能力を備えた人ということになるだろうか。

続いて、九産大の緒方先生には、医療と博物館についての先進的な事例と、それを実現していくための科学的な裏付け（エビデンス）の必要性について報告してもらった。日本でも回想法などの取り組みはあるが、ここではより幅広い医療との連携が展望されている。

3人目は国立民族学博物館の広瀬浩二郎先生で、周知のとおりユニバーサル・ミュージアム運動の中心人物である。コロナ禍で何かにさわることで自分が忌避される風潮があるが、博物館で資料にさわるといのは、ある意味で「濃厚接触」といえる。しかし、広瀬先生はコロナの拡大こそ濃厚接触のマナーを取り戻す好機だと言う。

3名のパネリストの報告は、いずれも博物館が社会と取り結ぶ方法について、思いもよらない実践を示してくれた。ただ、実践例だけでは、それぞれの館の活動には適合しない場合もあることも確かなので、今回は、個々の実践とともに、どのような方向性があるのかを視聴者がそれぞれで見定めていくヒントになることシンポジウムの目標に据えた。

3名のパネリストの報告後、討議にはいったが、そこでは一応のシナリオは用意したものの、それに拘泥することなく、視聴者からの意見を中心に据えることにした。これは緒方先生の提案によるもので、コロナ禍の閉塞感の中でできるだけ多くの意見交換をすることにしたのである。時には厳しい質問やコメントもいただいたが、全体としては非常に有益な場になったものと思う。

コロナ禍は危機的な状況をもたらしているが、このシンポジウムが災い転じて福となすささやかなきっかけになることを願っている。（黒澤）

2. Zoomによるオンライン開催の準備と実施

(1) Zoomウェビナーによる運営

7月の企画段階では南山大学での対面開催としていたが、夏休み以後も各大学ではオンライン授業が主体となり、状況の改善が見込めなかったことから、10月にオンライン開催を決定した。当初は業者への委託も検討されたが、高額の費用が見込まれ

たためシンポジウム開催限定のZoomアカウントを取得し学芸員が運用することとした。

また、実施にあたっては通常のミーティング形式ではなく、発表者・コーディネータ等事務局側で指定した人物のみが発言可能な「ウェビナー」機能を追加契約して実施した。この機能では、一般参加者の情報は主催者側のみ把握することができるため、一般参加者間でのプライバシーが確保されるほか、主催者側が許可操作を行わない限り一般参加者が発言できないため、不規則な発言やマイクの切り忘れによる雑音の混入を防ぐことができ、スムーズな進行が可能となる。

それまで当館ではウェビナーの使用経験は無かったが、数度のリハーサルを行い、また不測の事態に備えて当館に1名、南山大学側でも1名、計2名の予備操作担当者が待機し、万全の体制を取った。

Zoomの参加可能上限人数が100名であったため、定員90名でメールによる事前申し込み制としたが、開催前日までに88名に達した。開催当日は欠席があったため、最終的な参加者は76名を数え、過去10年の連携事業シンポジウムでは最多となった。学部生のほか、博物館学芸員、学芸員養成課程教員、展示企業職員、研究者、博士課程の大学院生など多様な層からの参加があり、地域も北海道から沖縄まで広範囲に及ぶなど、オンライン開催のメリットが大いに生かされたと言える。

接続不具合や操作の不慣れによるトラブルが懸念されるなど、事務局は相当なプレッシャーのもとで当日の操作にあたったが、一部発表中の動画が参加者の使用機種によっては再生されない等の問題があったものの目立ったトラブルはなく、概ねスムーズに実施できたことは幸いであった。

(2) 録画データの活用

オンライン開催の長所のひとつは、録画が容易な点である。今回は、南山大学側から録画データを講義で活用したいという要望があらかじめ寄せられていたため、公開を前提に安定した録画を行うため、事前に容量が大きいZoomのクラウドを別途契約してレコーディングを行った。

録画後、データを趣旨説明・各報告者分と討論



図2 YouTube に公開した動画タイトル

(前半・後半)の6ファイルに分割して編集し、12月15日から1か月間限定でYouTube上に公開した。目的外利用を防ぐため、明治大学博物館のホームページ上でURLを掲出する「限定公開」の形式とし、関心のある人のみが視聴可能とした。結果、公開終了時点で最もアクセスが多かった動画は224件の視聴があり、シンポジウム当日の参加者を大きく上回った。

録画データは直接質問できないなどのデメリットはあるが、日時を問わず視聴することができるため、シンポジウムの内容が開催後も長期にわたって多くの人々に対して活用されるという点では、対面にはない利点を有していると言える。

このように、オンラインによるシンポジウム開催は初めての試みであったが、対面開催にはないメリットが数多く見受けられた。特に、本協定事業のシンポジウムで扱うテーマは関心のある層が限定され、遠方からは参加が困難などの理由で、これまで参加者が少ない傾向にあった。つまり、環境さえ整っていれば地域を問わずに参加が可能なオンライン開催の方が、より多くのニーズに応えることができ、また録画の公開によりこれまでフォローできなかった当日に参加できなかった人々にも成果を周知できる。

こうしたことから、新型コロナウイルスの感染が沈静化し、以前のように対面開催ができる状況に戻ったとしても、オンラインとの併用が望ましいと思われる。撮影・配信方法などの技術的な問題や、ノウハウの蓄積などの課題はあるが、実施に向けて今後も検討していく必要がある。(忽那)

VII デジタルコンテンツ 『江戸の物価と世直し一揆』について

勝見 知世*

明治大学博物館では新型コロナウイルス感染症の影響のため2020年の3月1日から11月11日まで、一般公開を休止していた。その期間中、公開できない代わりにデジタルコンテンツを作成し、収蔵品を紹介した。刑事部門はデジタルコンテンツとして動画を5本、PDFを4本、塗り絵1本を投稿した。

今回、デジタルコンテンツの中から『江戸の物価と世直し一揆』について報告する。取り上げた資料は2点で『時世のぼり風』(錦絵549)、『寅日記』(『山口村文書』第24号冊-X-32)である。両者ともよく研究で使われている資料だ。

『時世のぼり風』は風揚げをしている庶民を描いた錦絵である。岡崎藩本多家に仕えた太地家が保持していた文書群の内の1点である。太地家文書にも登録されているが、普段は錦絵として収蔵されているため、利用される際は錦絵台帳の番号を使用していただきたい。

この資料はただ風揚げの様子を描いたものではなく、実は物価高騰を表現している。風には品物の名称が書かれ、上昇している風に書かれた品物ほど物価が高騰していることを示している。なぜこのような構成になっているかという点、浮世絵は当時の世論について描くことが禁止されているためである。このため、浮世絵師は露骨に物価高騰を描くことを避けて、風揚げの様子に仮託して描いたのだ。錦絵は『時世のぼり風』のように何か別の事柄に仮託して、当時の出来事や事件を描くことが多かった。

『寅日記』は出羽国村山郡山口村(現:山形県天童市内)の名主、伊藤義右衛門の日記である。1964年、当時の刑事博物館が購入した山口村文書の内の1点である。本品は、明治大学刑事博物館目録24号に登録されている。山口村文書は入手時

* 明治大学博物館刑事部門

期が3回に分かれるため、目録が20、24、41号の3冊に分かれているが、3号分を合冊した『出羽国村山郡山口村文書(別冊)』という目録があり、こちらですべてを一覧できるため、利用の際は別冊を確認していただきたい。

表題にある寅は慶応2年(1866年)の寅年を指し、この年に起こった出来事を記された日記である。デジタルコンテンツでは、この中から6月24日条に注目した。そこには、15日から18日にかけて桑折領内(現:福島県伊達郡桑折町)で物価高騰の原因に打ちこわしが起こったこと、打ちこわされた商家の名前やその被害などが書いている。

今回取り上げた『時世のぼり風』は、幕末の物価上昇を示す錦絵としてよく取り上げられる資料である。同年代の記録である『寅日記』を共に取り上げることで、物価高騰が庶民の生活に影響を与えたことを示した。

『時世のぼり風』の細部をじっくり見せ、『寅日記』の内容を分かりやすく説明するために、本コンテンツはPDF形式を採用した。さらに、本文内では、表や切り抜きを加えて、情報を効果的な提示も工夫している。

次のページに、実際に公開しているデジタルコンテンツ『江戸の物価と世直し一揆』を掲載した。掲載のために表を省略するなど、体裁を整えたが内容に変更はない。

参考文献

- 青木美智男(2004)『近世非領国地域の民衆運動と郡中議定』ゆまに書房
- 明治大学刑事博物館委員会編(1961)『明治大学刑事博物館目録』第20号
- 明治大学刑事博物館委員会編(1964)『明治大学刑事博物館目録』第24号
- 明治大学刑事博物館委員会編(1978)『明治大学刑事博物館目録』第48号

江戸の物価と世直し一揆



この絵は慶応二年（1866）に描かれた『時世のぼり屏』という錦絵です。当時流行していた屏あげの様子を描いています。よく見ると、屏に品物の名称が書かれています。下の画像の品物はどこに描かれているか探してみてください。



たび



ろうそく



米

たびは真ん中あたり、ろうそくは真ん中より少し上、米が一番上に描かれています。



実はこの絵、慶応二年の物価上昇について描いたもの。上方にある屏に書かれた品物ほど、物価が高騰していたことを示しています。一体どれぐらい物価が変わったのでしょうか？

物価の高騰を現代の値段に換算して確認するのが一番わかりやすいのですが、江戸時代と現代ではお金や品物の価値が違うため、正確には換算できません。今回は目安として、米価と比較して換算した金額で確認してみましょう。

幕末の金1両は現在だと約10000円と考えられます^{※1}。金1両は銀60匁なので、銀1匁は約170円となります。

○金1両=銀60=10000円、銀1匁=170円

また慶應二年（1866）秋、米1石（約150キロ）の値段は銀585匁です^{※2}。以上を踏まえて、お米の値段を確認してみましょう。江戸の米、150キロは現代では約99,450円になります。5キロにすると、約3315円です。現在のお米は5キロだいたい2000円です。なので、慶応期のお米は、現代のお米の約1.7倍で販売されていたことがわかります。

○江戸の米1石（150kg）=銀585匁=約99450円

○江戸の米は現代だと約3315円……だいたい1.7倍！

そこまで高くないようにも見えますが、慶應二年から十年前の安政三年（1856）時点から見ると約6倍の値段です。米の値段が高くなった、と庶民が感じてもおかしくないですね。

○安政三年秋…銀102匁

○慶應二年秋…銀585匁

慶應年間には飢饉や情勢不安などでさまざまな物の値段が上昇し、庶民の暮らしは圧迫されていきました。このような状況のなか、米の高騰によって食に困った者たちが、富を独占する商人や豪商層を攻撃する一揆が各地で起きています。出羽国村山郡山口村の名主の記した日記には、米価高騰が引き起こした一揆の様子が記されているので、少しご紹介しましょう。

慶應二年、村山郡一帯では米の高騰によって多くの貧農・小作層が米を買えないという事態が生じていました。そして、ついに六月二十五日、桑原領（福島県桑折町）で、家々が打ち壊される騒動が起きました。山口村の名主の日記には、打ち壊された人の名前や被害の大きさなど細かく記録されています。実際に読んでみましょう。

『(略)』

桑折領百姓騒立過ル十五日と十八日迄打毀候人別左之通

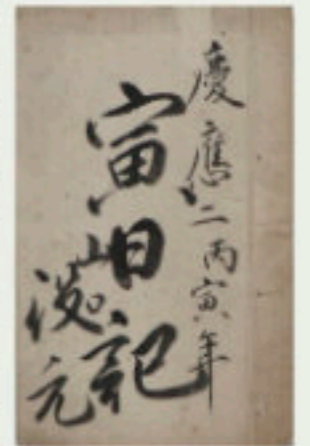
一人数凡老万人程

居宅土蔵不残打毀 岡村 阿部文右衛門

同断 同村 阿部忠左衛門

居宅其外不残焼立 中瀬村 完戸儀左衛門

居宅土蔵不残打毀 中瀬村 彦兵衛



VIII 刑事部門2020年度 購入・寄贈資料について

日比 佳代子*

不残打毀 栗坂村 長三
居宅其外不残打毀 栗坂村 宮原平次郎
右同断 桑折 平喜屋
右同断 板谷村 文七
同断 半田 早田伝之助』

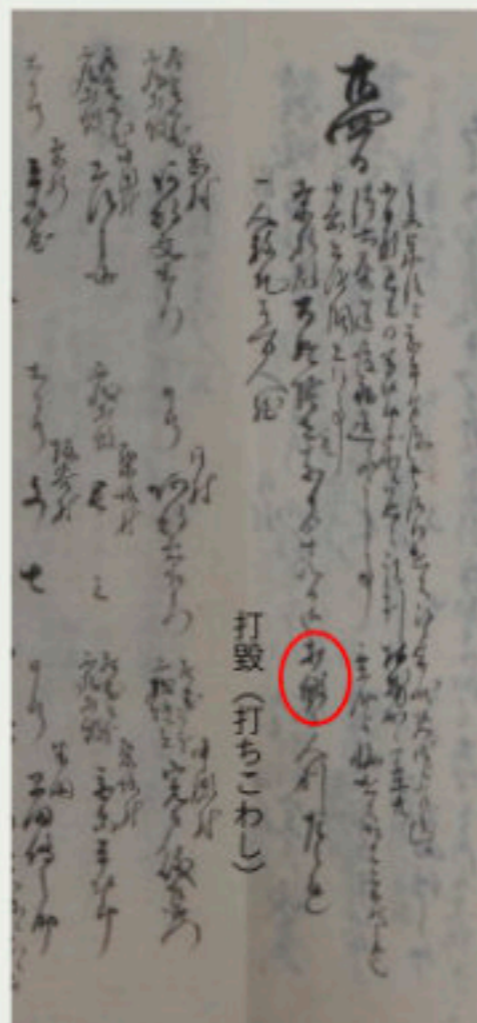
この文章を現代語訳すると以下のようになります。
『桑折領（福島県桑折町）の百姓が騒ぎ立てて、十五日から十八日までの間（家を）打ち毀された人は左の通りである。

居宅土蔵残らず焼き立ち 岡村 阿部文右衛門
同断 同村 阿部忠左衛門
居宅そのほか残らず焼き立ち 中瀬村 完戸儀左衛門
居宅土蔵残らず打ちこわし 中瀬村 彦兵衛
残らず打ちこわし 栗坂村 長三
居宅そのほか残らず打ちこわし 栗坂村 宮原平次郎
居宅土蔵残らず打ちこわし 桑折 平喜屋
残らず打ちこわし 板谷村 文七
同断 半田 早田伝之助』

多くの居宅や土蔵が打ち壊され、中には焼き払われているものもあります。時世のぼり風が刊行された時期とほぼ同じ時期、米の高騰に苦しめられた人々は、一揆という最後の手段に出ていたのです。

そもそも、江戸時代では、時事ネタを描く事は禁止されています。しかし、判じ物にして描くほどに、その情報は民衆から求められていました。物価高騰を描く一枚の錦絵は、混乱する社会の一面を描いてくれたのです。

（文責：勝見知世）



※1 日本銀行金融研究所貨幣博物館 HP お金の歴史に関する FAQ より
(<http://www.imes.boj.or.jp/cm/>)
※2 小野武雄『江戸物価辞典』展望社 2009 より

○参考文献
・青木美智男『近世非領国地域の民衆運動と郡中議定』ゆまに書房 2004
・国史大辞典編集委員会『国史大辞典 第二巻』古川弘文館 1980
・東根市史編集委員会『東根市史編集資料 第十号』東根市 1981

1929年(昭和4)に設立された旧刑事博物館は、当初、展示物として江戸～明治初期の拷問・刑罰具の復元品を製作し、行刑関係の古文書類を収集した。第2次大戦後の再興(1951年)にあたっては、学術資料の収集を主眼として近世法律文書および明治立法史関係文書を収集する方針を採用した。今日の博物館刑事部門においては、下記のような特色あるコレクション群が形成されている。

- 譜代大名内藤家文書をはじめとする近世・近代の古文書資料
- 近世・近代の錦絵など絵画資料
- 法制史関係の古典籍・古文書資料、高札および鑑札類
- 捕者道具および捕者術の絵画・文献資料
- 拷問・刑罰具の復元品および絵画・文献資料

2020年度は、収蔵品の内藤家文書に関連する錦絵や古地図、捕縛に関わる錦絵、刑罰に関わる古文書など、多彩な資料を収集し、捕縛関係の古文書の寄贈も受けた。刑事部門が2020年度に購入・寄贈した資料は表1の通りである。購入資料から、順に内容を示すこととする。

「外桜田永田町絵図」

尾張屋清七版、嘉永3年(1850)。江戸城西の丸の西南側、日比谷堀・桜田堀と溜池で挟まれた範囲を描く切絵図。虎ノ門脇には、内藤藩上屋敷が描かれている。内藤藩は延享4年(1747)までは陸奥国岩城平(現・福島県いわき市)を、それ以降は日向国延岡(現・宮崎県延岡市)を所領とした7万石の譜代大名である。当館ではこの内藤藩伝来の古文書一内藤家文書を収蔵している。内藤家は天正19年(1591)に徳川家康からこの屋敷地を拝領した。

* 明治大学博物館刑事部門

表1 刑事部門2020年度購入・寄贈資料

種別	資料名
1、購入資料	
古地図	外桜田永田町絵図
錦絵	江戸名所四十八景 葵坂 江戸名所道戯盡 虎の御門水の景 源頼信 平忠常 大椎城水攻之図 児雷也豪傑譚話 江戸名所百人美女 山王御宮 双筆五十三次 土山
古文書	諸国御仕置墨鑑
2、寄贈資料	
古文書	清心流御免状関係記録 8点 (清心流御免状 1点, 清心流御免状口傳録 1点, 目録他一紙もの 5点, 箱1点)

「江戸名所四十八景 葵坂」

二代歌川広重／画 文久1年(1861)。内藤家上屋敷と堀を挟む坂が葵坂で、溜池から堀に水が流れ落ちる堰のようすが描かれている。この溜池の関は、江戸名所の一つとして、幾つもの浮世絵で題材として取りあげられている。

「江戸名所道戯盡 虎の御門水の景」

歌川広景／画 安政6年(1859)。「江戸名所四

十八景 葵坂」と同じく、溜池の堰を描く。こちらは、葵坂の下で外出中のお侍とお供の中間に風が落ちて糸がからまり慌てているというユーモラスな絵柄。現在では、溜池や葵坂は土地整備でなくなっているが、江戸城を取り巻く外堀の一部は保存されており、地下鉄銀座線虎ノ門駅で見学することができる。

「源頼信 平忠常 大椎城水攻之図」

歌川貞秀／画 弘化期-嘉永期（1847-52）。長元元年（1028）に起こった平忠常の乱を題材に、源頼信による大椎城（現・千葉県千葉市）の水攻めを描く。ただし、大椎城水攻めは創作で史実ではなく、城の描写も平安時代中期の城を正確に描いたものではない点には注意が必要である。その点は踏まえたうえで、江戸時代に過去の戦闘をどのようにイメージしていたのかという観点で参考になる資料である。本図の中には、敵船を引き寄せるために使われる長柄の熊手も描かれており、この熊手は、館蔵品の長柄道具・竜吃(りゅうた)とよく似ており、長柄道具のルーツを考える上で興味深い。

「児雷也豪傑譚語」

三代目歌川豊国／画 嘉永5年（1852）。児雷也が山賊の高妙勇美之助と秘術の書かれた巻物を巡って立ち回りを演じる場面。勇美之助は「なえし」を手にする姿で描かれている。「なえし」は、十手と共に捕方が使用した打撃用の武器。

「江戸名所百人美女 山王御宮」

三代目歌川豊国・歌川国久／画 安政4年（1857）。日吉山王大権現社（現・日枝神社）の景色と同社祭礼における手古舞の女性を描く錦絵。手古舞の装束として、手に武器の一つである金棒を

もつ。

「双筆五十三次 土山」

歌川広重・三代目歌川豊国／画 安政3年（1856）。土山（現・滋賀県甲賀市）は、鈴鹿山地の西斜面に位置する東海道五十三次の四十九番目の宿場。本品では、暗い雨の山道で罪人を護送するようすと、罪人が駕籠から逃げ出そうとする姿が描かれている。

「諸国御仕置墨鑑」

作成者不明、19世紀初頭。江戸時代の刑罰では、主として盗犯に対して入墨が行われた。入墨は領主や支配地によって異なり、本品は江戸、大坂、京都やその他の幕府領だけではなく、大名家の入墨刑も描く珍しいものである。

続いて寄贈資料について内容を示す。

「清心流御免状関係記録」

内訳は、清心流御免状1点、清心流御免状口傳録1点、目録他一紙もの5点、箱1点である。清心流は荒木流の分派。荒木流は江戸時代に足軽向け捕手術などとして各藩に採用された武術の流派である。寄贈者の家に伝わったものだというが、寄贈者の家は江戸時代には武士ではなく商人だったという。江戸時代に商人に武術が受容されているようすが窺え興味深い伝来である。

「外桜田永田町絵図」、「江戸名所四十八景 葵坂」、「江戸名所道戯盡 虎の御門水の景」については、内藤家の上屋敷との関係について本館広報誌『ミュージアムアイズ』75号（2020年10月）で「内藤藩、江戸虎ノ門屋敷の風景」として詳細を分析した。購入資料の活用例の一つとして、合わせて次頁にこの紙面を掲載する。



江戸時代に佐貫、磐城平、延岡を所領とした内藤家は、三河譜代といわれるとおり徳川家の三河時代からの家臣である。天正18年（1590）に徳川家康が関東に移ると、内藤家長もこれに従い、家康から上総国天羽郡佐貫に2万石を与えられ、佐貫城主となった。家康は、領地以外にも譜代譜代に江戸での屋敷地を与えており、内藤家長の場合も、『寛政重修諸家譜』に「(天正一十一年)十九年櫻田にをいて東照宮御杖をもつて邸地を畫して家長にたまはる」とあり(注1)、天正19年に東照宮(家康)から桜田に屋敷地を拝領している。画像1は徳川家康入国以前の江戸を描いた「江戸往古之図」(部分)で、矢印の先が桜田村である。



画像1 「江戸往古之図」部分 (購入寄贈資料一冊1989-006)

秀吉の死後、徳川家の権力が確立する過程で、諸大名は服属の証に、妻子を人質として江戸に居住させ、国元から離れて江戸で一定期間将軍に仕える参勤を行う様になる。江戸での住居が必要になった諸大名に対し、幕府は屋敷を与えた。江戸の大名屋敷は、藩主やその家族が居住する場所であると共に、藩の江戸役所としての機能を持つことになる。幕府からあてがわれる武家屋敷の配置は、政治的な理由などで変更されることも多いが、虎ノ門の屋敷地は移動することなく、内藤家は明治4年（1871）までこれを持ち続けた(注2)。

画像2の「外桜田永田町絵図」は、江戸城の西丸の南側、日比谷堀・桜田堀と溜池で挟まれた範囲を描いた切絵図である。武家屋敷、神社仏閣、道路・橋、町家、川瀬池、山林土手・馬場・原・植樹などを色分けして詳細に描いている。続いて紹介する画像との関係で、東側が下に来るように回転させて掲載している。☆で示したのが外桜田門、★で示したのが虎ノ門であり、虎ノ門の脇にあるのが内藤藩の屋敷である。この切

画像2の「外桜田永田町絵図」は、江戸城の西丸の南側、日比谷堀・桜田堀と溜池で挟まれた範囲を描いた切絵図である。武家屋敷、神社仏閣、道路・橋、町家、川瀬池、山林土手・馬場・原・植樹などを色分けして詳細に描いている。続いて紹介する画像との関係で、東側が下に来るように回転させて掲載している。☆で示したのが外桜田門、★で示したのが虎ノ門であり、虎ノ門の脇にあるのが内藤藩の屋敷である。この切

画像2の「外桜田永田町絵図」は、江戸城の西丸の南側、日比谷堀・桜田堀と溜池で挟まれた範囲を描いた切絵図である。武家屋敷、神社仏閣、道路・橋、町家、川瀬池、山林土手・馬場・原・植樹などを色分けして詳細に描いている。続いて紹介する画像との関係で、東側が下に来るように回転させて掲載している。☆で示したのが外桜田門、★で示したのが虎ノ門であり、虎ノ門の脇にあるのが内藤藩の屋敷である。この切



画像2 「外桜田永田町絵図」 (2020年度新収資料)



画像3 「江戸上屋敷地区」 (内藤家文書政道氏家傳分1-6-3)

IX 館蔵の金銀緑松石象嵌青銅帶鉤について

川嶋 陶子*

絵図は嘉永3年（1850）版で、この時期の内藤藩の当主は内藤政義、官途は能登守、安政6年（1859）から右近将監である。嘉永3年版のこの切絵図は、もともとは「内藤能登守」と刷られているのだが、張り紙で「右近将監」と訂正がされている。この切絵図をみると、内藤藩の屋敷は、溜池の東端から虎ノ門まで、船に沿って建てられていることが分かるだろう。幕末期の内藤藩虎ノ門屋敷の面積は1万515坪余だった（注3）。

画像3は安永5年（1776）に内藤藩の虎ノ門屋敷を描いたもので、約1メートル四方もある大きな屋敷絵図である。屋敷の南東側は、堀と屋敷の間に「御槽台」（黒矢印）に向かう道がある。屋敷の正面入り口となる大御門（緑矢印）はこの道に面しており、通行は外堀御門（青矢印）で管理されていた。大御門に入って屋敷にいたるまでは石段があり、屋敷部分は道に対して、さらに高くなっている。

この屋敷絵図で、溜池と堀の境に石段の描き込みがあることに注目して貰いたい（画像3拡大図）。これは溜池から堀に水が流れ落ちる堰である。この堰の風景は、江戸名所の一つで、「江戸名所」を冠する複数の錦絵に描かれている。今回は、当館が所蔵する2点の錦絵を紹介しよう。

画像4「江戸名所四十八景 築堤」は、この堰と築堤を描いた錦絵である。画像3の緑色の矢印が築堤で、赤い○で囲った部分が錦絵で描かれた大体の範囲である。この錦絵では描かれていないが、絵の右手にある高い石垣の上に内藤藩

の屋敷が建っていたわけである（類似の構図で溜池の堰を描いた別の錦絵では、内藤藩の屋敷部分まで描いたものも存在する）。俯瞰ぎみに堀と築堤を描いているので、堰の向こうには水を溜えた溜池が見えている。向かって左側、築堤側の石段の上には草が生え、花が咲く様子も描かれている。小さく描かれた画面手前の人だかりは、丸亀藩の屋敷にある全比羅大権現詣での賑わいであろう。画像5「江戸名所道頓堀 虎の御門木の景」は、画像4よりもやや南側に立って水平気味に堀を見る構図である。築堤の下で外出中のお侍とお供の中間に風が落ちて糸がからまり攪まっているというユーモラスな絵柄である。

二つの錦絵をみていると、江戸名所の一つにあげられる溜池の堰があり、丸亀藩邸の全比羅権現の賑わいがありと、内藤藩虎ノ門屋敷の周囲の活気ある様子が伝わってくる。また、錦絵と画像3の屋敷図をみると、内藤藩虎ノ門屋敷は、北側以外は溜池と堀に囲まれ、堀に置いた高い石垣の上にあることがよく分かる。東南側の眺望は開けており、虎ノ門、そして江戸城の防衛上重要な位置にあったことも理解できよう。

ちなみに、築堤の上の草刈と掃除については、周囲の藩邸が担当していたようで、内藤藩は屋敷側の堰の草刈と掃除を担当していた。画像6は、内藤藩の担当部分を朱で線引した図面である。江戸名所の一つ、溜池の堰の光景に内藤藩も一役買っていたというわけである。

注1 「寛政重修諸家譜」13巻（総評書院定成会、1955年）
 注2 内藤藩虎ノ門屋敷は、明治4年に2300坪を下されて引き上げとなった。（『東京府志』内藤家文書3-20-461より）
 注3 内閣文庫所蔵史料書目14-16「徳川地方図書」(図書書院、1982年)より。本書は安政3年（1856）のものと考えられている。なお、内藤藩虎ノ門屋敷は、江戸時代の間に場所は変わらないが、土地の広さには変化がみられる。



画像4 「江戸名所四十八景 築堤」 (2020年度新収資料)
 画像5 「江戸名所道頓堀 虎の御門木の景」 (2020年度新収資料)
 画像6 「築堤上草刈並掃除場嘉永三戊午七月御儀有之絵図書」部分 (内藤家文書2-6-223)

はじめに

帯鉤（たいこう）とは、古代中国において着物の帯を留めるために用いられた金具のことである。古くは新石器時代の良渚文化の遺跡からその祖型と思われるものが出土しているが、本格的に発展するのは春秋時代後期から戦国・秦漢時代にかけてであり、様々な形態のものが作られるようになった。また玉、青銅、鉄、骨等多種の素材が用いられ、金銀や緑松石（トルコ石）による象嵌、鍍金の加飾技術もあった。

文献資料においても『史記』や『漢書』等及びその注釈に記載がみられ、権威ある者の身体を飾っていたことがうかがえる。

考古資料としての帯鉤は、墓の副葬品として出土するものが大半であるが、工芸品としての芸術性の高さから骨董品として収集され、世界各地の館蔵あるいは個人のコレクションとなっていることも少なくない。

当館所蔵の青銅帯鉤についても、1970年代以降に少しずつ収集してきたものである。中国本土の発掘調査による帯鉤の出土例が増加し、体系的な研究が求められる中、収蔵資料の詳細な報告を行うことにも少なからず意義のあることと考える。以下、帯鉤研究の概要を確認し、館蔵の青銅帯鉤を報告する。

1. 帯鉤の研究について

古代の帯鉤については宋・呂大臨の『考古図』に数点の帯鉤について図示があり、当時からその存在が知られていたことがわかる。また歴代の注釈家により帯鉤の形状や名称を考証する注釈も行われてい

たが、科学的な型式分類に基づいた本格的な研究は、1943年の長廣敏雄氏によるものが初めてであった¹⁾。氏は帯鉤の大きさや形態から9形態²⁾に大別し、各形態の型式変化と年代観、さらに装飾技法やモチーフについての分析を行った。その後しばらく体系的な研究が行われていなかったが、1985年には長廣論文発表後に増加した出土資料を盛り込む形で、王仁湘氏が分類研究を進展させた³⁾。長廣分類を部分的に取り入れながら、実情に合わせて8形態⁴⁾に構成し直し、形態ごとの出土分布範囲についても分析を行ったのである。さらに1999年になると、廣川守氏による中原出土帯鉤を中心とした分類研究が行われる⁵⁾。氏は王論文以後に出土した新資料を踏まえて6形態に分類し⁶⁾、各形態の型式変化をより詳細に分析した。その結果、型式ごとの年代観がより具体的に明らかになった。また、帯鉤の材質や技法、種類に対応する被葬者の階層に着目し、当時の社会変動についての考察を行っていることも、帯鉤研究の意義を深めるものとして重要な指摘であった。

このような先行研究により、帯鉤の研究は基礎ができつつあるが、これらの成果は常に最新の出土資料情報に合わせてアップデートされなければならない。同時に各地に収蔵される既存資料についても、形態や技法についてより具体的な報告が求められていると言えよう。

2. 明治大学博物館所蔵の青銅帯鉤について

明治大学博物館では7点の青銅帯鉤を収蔵している（2021年5月時点）。形態はすべて異なっており、古代中国における帯鉤の系統を理解するための好資料と言える。廣川氏の分類名称に従えば、琵琶形1点、棒形1点、匙形2点、獣形2点、鳥形が1点で

* 明治大学博物館考古部門

ある。最も大きいものは今回報告を行う琵琶形の金銀緑松石象嵌帯鉤（A-130）であり、長さは22.3cmを測る。この他、棒形の鍍金緑松石象嵌帯鉤（A-294）が19.1cmで比較的大ぶりなもので、匙形1点（A-150）と獣形2点（A-268, A-269）は7.3cm～11.5cm前後の中型、もう1点別の匙形（B-204）、鳥形（B-203）は5cm前後の小ぶりな帯鉤である（表1）。

表1 各資料の大きさと重さ

収蔵番号	形態	長径 (cm)	重量 (g)
A-130	琵琶形	22.3	264
A-150	匙形	7.3	90
A-268	獣形	11.5	133
A-269	獣形	9.7	76
A-294	棒形	19.1	75
B-203	鳥形	5.9	31
B-204	匙形	4.8	19

以下、本稿ではA-130の帯鉤について詳細を報告する。帯鉤の部分名称については図1を参照されたい。



図1 帯鉤の部分名称

3. 金銀緑松石象嵌青銅帯鉤（A-130）（図2）

当館収蔵の帯鉤のうち、ひとときわ細工の細かい資料である。最大径は22.3cm、最大幅は2.85cm（鉤面部分）、最小幅は0.85cm（鉤首部分）、重量は264gを測る。細長い柄を持ち、鉤首は鳥頭形を呈する。柄から徐々に幅が広くなり、鉤尾から2cmのところまで最大幅となる。柄から鉤尾にかけて並行に3面の面取りが確認でき、さらに縁の部分にも面取りが施されている。鉤尾の角は丸みを帯びている。鉤面の裏側は内側に沿って湾曲しているが、最も厚みのある部分は中央部で、縁部に近づくにつれ薄くなっていく。鈕は側面中央より鉤尾寄り（鉤尾から4.4cm～5.5cm）の位置に作られ、高さは0.6cmで

ある。器身長軸方向の反りが強く、特に中央部あたりでの湾曲が強い。柄から鉤尾にかけて、面取りされた3面には象嵌により加飾されているが、側面（縁の面取り部分）は無地である。

鉤面の文様は菱形文と円文から構成されており、線は金糸の象嵌により表される。柄から鉤尾にかけて6つの菱形が並び、鉤尾に近づくほど大きく描かれる。菱形の各角からは左右対称の渦文の線がのびている。6つの菱形のうち、鉤尾から数えて2つ目までの菱形については、鉤尾側の連結部分に太目の錯線で角張った渦文が描かれる。鉤尾から3つ目の連結部分にも同じような構図の文様が確認できるが、前述の2つに比べて細い線で描かれている。菱形の内外に表された円文は、金糸を渦状に巻いて円溝を埋めている状況が確認でき、さらにその外周は銀糸（酸化により黒く変色している）と金糸が交互に埋め込まれている。十数カ所ある円文の大きさは均一ではなく、菱形内の円文については鉤尾から数えて2つ目の円が最も大きく、この円から離れるにつれて小さくなっている。菱形の外側に配置された円文は、菱形内の円よりも小ぶりに描かれているが、やはり鉤尾から数えて2つ目のブロック内の円を最大として、ここから離れるにつれて小さくなっている。菱形文の内外には緑松石が象嵌されているが、すでに石が剥離し、溝だけが残る部分も目立つ。溝底が露出する部分は黄土色をしている部分もある。緑松石は不定形のものが多いが、溝の湾曲に合わせて整形され、表面は平研ぎされている。石質は黄色味を帯びるものと青味を帯びるものが混在しており、後者については後世の補修により埋め込まれた可能性が高い。

4. 年代についての考察

以上のような特徴に基づき、本資料に類似する型式の資料を探してみると、鄭州二里岡180号墓⁷⁾、鄭州崗杜111号墓⁸⁾等河南出土の青銅帯鉤がある。前者については、柄から鉤面にかけての幅の広がり方がほぼ直線である点、鈕の位置がやや中央寄りである点、鉤面の反りが少ない点等、本資料と異なる点があるが、鉤面の文様構成が近似している。最大径は17.6cm、最大幅は2.7cmであり、本資料と同様に大型の部類に入る。文様については、長軸中央線上に並ぶ菱形が4つで、その一部が変形して六角



図2 金銀緑松石象嵌青銅帯鉤（A-130）

形を呈している点が異なるが、菱形内角から延びる渦文の様子が本資料によく似ており、総合的に見て近い型式のものと考えられる。一方、鄭州崗杜111号墓出土の帯鉤については、柄から鉤面にかけての内湾した広がり方、やや鉤尾よりにつけられた鈕、鉤面の反り方等が本資料に近似する。最大径は19cm、最大幅は2.5cmである。鉤面の文様については、金銀錯、緑松石の象嵌が施されており、報告書の写真が不明瞭であるため細部の指摘は難しいが、長軸方向に並ぶ菱形が4個、円文が12個程度、隣り合う菱形の連結部分には角ばった渦文が確認できる。

上述した鄭州二里岡、鄭州崗杜出土の帯鉤については、墓から共伴する陶器等の判断材料が不足しているため、はっきりとした年代が報告されていない。しかし、廣川氏の分類によれば両者ともに琵琶形のⅢ d 式とされており、型式編年の結果戦国後期の型式と推定されている。本資料についても上記2点と同型式の帯鉤と考えられるので、年代についてもさほど差はないであろう。

おわりに

以上、館蔵の金銀緑松石象嵌青銅帯鉤について報告と考察を行った。先に述べたように、当館では本

資料の他、形態の異なる帯鉤をあと6点収蔵している。これらについても精査することで、形態ごとの鑄造方法や加飾技法、文様構成についても新しい知見が得られるであろう。引き続き調査を続けていきたい。

註

- 1) 長廣敏雄（1943）
- 2) 琴形、棒形、絡龍形、匙形、鳥形、琵琶形、虎形、小鉤、その他の9形態。長廣（1943）を参照。
- 3) 王仁湘（1985）
- 4) 水禽形、獸面形、耜形、曲棒形、琵琶形、長牌形、全獸形、異形の8形態。王（1985）を参照。
- 5) 廣川守（1999）、（2000）
- 6) 琵琶形、長牌形、棒形、匙形、獣形、鳥形の6形態。廣川（1999）を参照。
- 7) 中国科学院考古研究所（1959）図40-9
- 8) 河南文物工作隊第一隊（1955）挿図16

参考文献

長廣敏雄（1943）『帯鉤の研究』東方文化研究所
 河南文物工作隊第一隊（1955）「鄭州崗杜附近古墓葬発掘簡報」『文物参考資料』1955年第十期：3-24
 中国科学院考古研究所（1959）『鄭州二里岡』科学出版社
 王仁湘（1985）『帯鉤概論』『考古学報』1985年第三期：267-312
 廣川守（1999）「春秋戦国時代中原における帯鉤の編年とその使用形態（上）」『泉屋博古館紀要』第16巻：71-102
 廣川守（2000）「春秋戦国時代中原における帯鉤の編年とその使用形態（下）」『泉屋博古館紀要』第17巻：95-111
 中野徹・橋詰文之（2001）『江川コレクション 帯鉤と中国古代青銅器』和泉市久保惣記念美術館

X 精陶社関係資料について

外山 徹*

はじめに

2015～2020年度にかけてまとまった数の陶磁資料の寄贈を受けた。それらは、かつて銀座七丁目（現東京都中央区）に店舗を構えた精陶社が取り扱った商品の数々である。その構成は、櫛高台の付いた染付の鍋島焼や鍋島家の杏葉紋を窯印とする製品、第十二代酒井田柿右衛門による染錦手の作品及び「柿右衛門作」銘の食器類、柿右衛門焼合資会社製品でおおよそ半数近くを占める。それ以外に、真葛香山窯製の食器類、京焼、美濃焼などがあり、将来の陶磁史研究上貴重な資料となり得る品々が多数含まれている。本稿はその目録を掲載し、概略について述べるものである。

1. 精陶社について

精陶社に関する情報は少なく、インターネット上で情報を得ることはできなかった。受贈品の内何点かの社名を記した箱書や、商品のラッピング用包装紙の断片が数少ない手掛かりである。

包装紙は2枚の断片が残る内、幸いにも店名をはじめとする付帯情報が読みとれる（写真1・2）。一方は横書きで右から左の記載となっている。右からの表記は1946年（昭和21）頃まで残るが、紙の供給が逼迫していた終戦直後に包装紙を新たに印刷することは疑問なので、昭和戦前に使用されたものと推測される。その記載は以下の通りである。

包装紙記載A（横書き表記）

焼島鍋・島鍋絵色
所売直元窯焼島鍋
社 陶 精
二ノ七・座銀・京東

* 明治大学博物館商品部門

これにより、同社の所在地が銀座七丁目二番地であったことが判明する。また、受贈資料のかなりの部分を占める鍋島焼の東京における代理店となっていたことがわかる。

包装紙記載B（縦書き表記）

十二代柿右衛門作品
宮焼工芸品発売元
鷹巣陶園各種製品
陶匠松本佩山作品

第十二代酒井田柿右衛門による作品も受贈品の多くを占める。寄贈者によると窯焚きをおこなった全量を引取って販売していたとのことである。「宮焼工芸品」は不明。鷹巣陶園は現在の有田焼「肥前赤絵窯元鷹巣」のこととも推測されるが、受贈品の銘からは鷹巣陶園の製品と判明するものはなかった。松本佩山は第二次大戦中の統制経済下において有田唯一のマル芸作家である。マル芸作家とは、政府による公定価格の制定に当たり、芸術品として例



写真1 精陶社包装紙A



写真2 精陶社包装紙B

外的に自由価格が認められた製品に○に「芸」の表示を付したことによる。受贈品の中には佩山の作品は含まれていないが、佩山が関与したと思しき品がある。

精陶社の営業時期は、十二代柿右衛門作品の取り扱いを契機と仮定すれば、柿右衛門焼合資会社から独立する1928年（昭和3）以前にさかのぼることはなく、その年次よりは多少後となる時期の創業である。そして、資料群に柿右衛門様式（濁し手）の初期のものと思われる製品を含むことから1950年代後半の営業が裏付けられる。廃業の時期は寄贈者によれば1960年前後ということであるが、受贈品の運搬用梱包材に1960年（昭和35）9月付の朝日新聞があり、顧客へ販売する際の梱包ではありえないので販売用の木箱に入れられることなくそのままとなった可能性がある。窯元からの輸送にはオガ屑を緩衝材とした梱包がなされていたので、新聞紙の梱包は倉庫から店舗への移送にともなうか、店舗からの引き上げを意味するだろう。確証とまではゆかないがこうした資料の残存状況から、概ねその頃には営業を停止したものと判断できる。したがって、受贈品は一部に新しいものも混入しているが、精陶社取扱品としてはおおよそ1930年代～1950年代という時期の陶磁製品ということになる。

2. 主要資料の概要

鍋島焼

美術史上におけるいわゆる鍋島焼は17世紀の半ば以降に成立した将軍への献上品をはじめとする佐賀藩御用窯による製品で、染付の青に赤・緑・黄の

上絵をほどこしたものが色鍋島と呼ばれる。技法の流出を防ぐため外界から隔絶した大川内山（佐賀県伊万里市）に陶工を集めた1660年代に技術水準や製造量は最盛となる。享保改革の儉約令で色絵が禁じられ、さらに、10代将軍家治の時に献上品の絵柄が指定されるに至って、デザインの保守化が指摘される。

1871年（明治4）の廃藩置県によって佐賀藩窯は閉鎖。その技術は光武彦七・立石寛兵衛らによる精巧社設立（1877年・明治10）によって継承されたが、事業としては不振で市川重助が引き受けた。精巧社は鍋島侯爵家当主鍋島直大の支援を受けており、1921年（大正10）に直大が死去した頃までに廃業したことになるが¹⁾、同社が用いた高台裏の「松葉重ね」銘は精陶社包装紙の絵柄にも採り入れられており、事業自体は市川家の個人窯という形でその後も継承されていたことになる。

市川家は重助（1898年・明治31没）の子光之助が継承した。光之助の子孫はいくつか窯を分けるが、鍋島家から許されたという杏葉紋は光之助の子光春の家系である鍋島御庭焼（市川光春窯）が使用している（現在、重助から数えて五代目）。受贈した資料には杏葉紋の製品が多く含まれるが「松葉重ね」は少ない。管見のところインターネット上の情報では精巧社製品の銘は「松葉重ね」がほとんどである。杏葉紋の使用が何時から何を目的に始まったかは定かでない。包装紙の「鍋島焼窯元直売所」という表記は、精巧社ないしその廃業後に市川家が継承した窯以外にも鍋島様式を製造するメーカーを含むニュアンスもあるが、取扱商品として精巧社系以外を含むものは定かではない。

受贈品には櫛高台のついた典型的な鍋島様式の染付とともに、同じく染付で根引松を描いた食器類が目につく（写真3）。食器類には高台裏に鍋島家の杏葉紋がある。薄手の磁器で精巧なつくりである。根引松は包装紙の図柄にも採り入れられているので、精陶社の取扱品として定番の柄だったようだ。その他、市川光山銘の盃がある。

現在、色鍋島の後継としては、有田赤絵町で代々上絵付けに任じた今泉今右衛門家がよく知られる。染付生地を焼いた大川内山の精巧社だけに、受贈品は染付が中心となっているが、色絵を試みた製品も数点含まれている。



写真3 根引松文の蓋付飯碗

十二代酒井田柿右衛門作品

乳白色の素地に余白を大きく取りつつ、朱・緑・青の上絵付けにより左右非対称の花鳥画などを描いた柿右衛門様式は日本製陶磁の代表的デザインとして世界的に知られるが、江戸前期の輸出品のデザインとしては17世紀の内に衰退した。十二代柿右衛門は、後の十三代と親子でその復元を志し、1953年(昭和28)に乳白色の濁手素地の再現に成功した。1955年には「記録作成等の措置を講ずべき無形文化財」に選定され、1971年に重要無形文化財に指定された²⁾。

現在、柿右衛門と言えばこの濁手に赤絵のデザインであるが、昭和戦前の国定教科書に取り上げられた初代柿右衛門による赤絵開発の逸話によって知られるようになった頃の柿文の色は珊瑚色で、素地も青みのある染付磁器で濁手と色調は異なっていた。柿右衛門様式以前に十二代は染錦手の名手だった。

当初、経済的に苦境にあった十二代は、実業家小畑秀吉が「角福」の商標を時限的に譲り受け1919年(大正8)に設立した柿右衛門焼合資会社に技術指導者として迎えられた。しかし、普及品の量産を目指す小畑の方針とは意向が合わず、退役陸軍中將堀田正一ら後援者の出現を契機として1928年(昭和3)の退社に至った。翌年、堀田らは柿右衛門後援会を組織して会員対象の頒布会をおこない十二代を支えた³⁾。その後、ある時期から精陶社が代理店として作品を引き受けることになったことになるが、その時期は確定が難しい。

受贈品は染錦手がほとんどだが、コバルト絵具の下絵に赤絵その他の上絵を配色した絵柄は実に繊細・緻密である(写真4)。柿右衛門様式も数点(目録No. 2-2, 4, 16, 17, 26)含まれるが、濁手の素



写真4 染錦手の作品



写真5 胴の部分には染付の下絵がある

地にはやや鉄分の青味も見える。No. 2-4と絵柄の近似したNo. 2-25の絵付けは胴の部分にコバルトの下絵をほどこした染錦手であり、柿右衛門様式を志向しつつも完全なコピーには至っていない(写真5)。このような過渡的な様子も見られ、復元初期の作品と思われる。

柿右衛門焼合資会社

十二代酒井田柿右衛門を技術指導者に迎え、実業家小畑秀吉が1919年(大正8年)に設立した。事業家として普及品の量産を目指す小畑の方針に対し、芸術性の追求を志向する柿右衛門は退社して独自の道を歩むことになる。社名は「角福」銘の使用期限が切れる1969年(昭和44)まで存続し、陶磁史家小山富士夫の発案で「仁和窯」と改称して操業を継続した。しかし、その後は安価な転写プリントによる製品とも競合し、手描き製品による経営は続かず、1984年に作家活動に転じた。昭和戦後、柿右衛門様式の復興とともに同社においてもそのデザイ

ンが採用されたことが受贈品からわかる。したがって、それらの製品は1953年の復興以降のものとして、受贈品の取扱時期の指標ともなる。受贈品は絵付けの質に明らかな見劣りがあるが、仁和窯の頃には全くそんな色のない出来栄えのものが生産されていたので⁴⁾、精陶社営業の1950年代後半から1960年代初頭ということになる。

その他の北部九州製品

包装紙には松本佩山の名があったが、受贈品の中には佩山作のものは見出せない。唯一関連を指摘できるのは「年木庵喜三」銘の染付山水古器文蓋付碗(No. 4-3, 4)のみである。この銘は合本組織香蘭社にも所属した深海平左衛門と子の墨之介・竹治親子が幕末から明治初期にかけて用いたものだが、精陶社の営業時期とは年代が合わない。なぜこの品が入手されたかについて、松本佩山が深見竹治の娘婿であったという線が浮かぶ。だからと言って受贈品をそのまま深海親子の作とも断定はし難い。コバルトの発色は明治前期に見られる合成呉須よりは落ち着いた青色をしており、あるいは佩山による復元品の可能性もなくはないが、何れにしろ確証はない⁵⁾。

他に北部九州産の磁器では「三川内平戸産」銘の盃があり、数からすると商品としての仕入れ品である。それ以外にも産地を断定できない染付磁器類が多数あり、「有泉」という有田焼を想起させる銘の製品もある。数があるものは精陶社による取扱品と見てよいだろう。香蘭社製品も若干含まれるが、数は少なく同社との間に取引関係があったかは明らかでない。Made in occupied Japanの銘があるソーサー(No.4-6)はモダンな柄のティーカップ(No.4-7)とは残念ながら一対ではない。

横浜真葛窯の製品

2016年には初代宮川香山の没後100周年の記念展が盛んに開催され、明治の超絶技巧という謳い文句がブームの感を呈した。初代香山の出自は京焼で、窯の名は先代が築窯した真葛ヶ原に因むが、薩摩藩御用商人からの輸出陶磁業の誘いを受け横浜に移住して開窯した。維新直後、外国人に人気を博した白薩摩風から始め、やがて蟹の作品でよく知られるような小動物や鳥類の立体装飾をとまなう作品を手が

ける。それらの人気が一段落すると、釉薬の下に多彩な絵柄を付ける釉下彩の開発に成功する。

20世紀に入り、子の半之助が二代香山を継ぐ頃には、輸出の活況も沈静化し、国内向けに京焼や中国・朝鮮風のデザインによる茶道具、酒器、割烹食器を主に生産するようになった⁶⁾。受贈した品々はそれらに該当する。二代の長男葛之輔が三代を襲名した1940年(昭和15)以降は、戦局の悪化にともない窯の活動も停滞したというので、受贈品は二代の時期の可能性が高い。真葛窯は空襲によって工房が焼失し三代香山自身が犠牲となって実質的に製造所の歴史を終えた。したがって、製品自体は昭和戦前に生産された品々ということになるが、精陶社と真葛陶磁器製造所の取引については、戦後になって仕入れとは別のルートから個人の持ち物として入手された可能性もあり確定はできない。

京焼その他

大正から昭和の戦前・戦後期における高級陶磁としては、やはり京・清水焼がその地位にあり、現在でもそれに変わりはしない。江戸期には野々村仁清、尾形乾山をはじめ陶芸作家が活躍し、また、茶華道をはじめ多くの家元が集う文化の中心地において、京・清水焼は伝統陶磁の正統であり続けると言ってもよいだろう。受贈品の中には加藤利昌、馬場製陶(馬場京泉)、瑞豊窯(河合瑞豊)、森野喜光、井野祝峰窯、矢口窯(田中穂山)、前野光泉窯など銘から生産者の判明するものがあつた。

桃山時代には大名茶人古田織部の影響によって美濃窯(岐阜)の志野焼や織部焼も高く評価された。これら桃山の茶陶は昭和戦前における中国大陸進出という国策下、日本独自の美的感覚を探究する過程で再評価がなされ⁷⁾、抹茶碗や水指など茶道具以外に食器類の生産も促した。受贈品には加藤景秋作の志野釉の製品が含まれる。桃山の茶陶は織部焼が北大路魯山人の影響もありブームを呈するが、ブームとなった時期が外れるものか資料群に織部焼製品は含まれていない。

その外、個人作家による作品も含まれ「王人」銘の青釉の陶器作品は大物で目立つが残念ながら作家の詳細は不明である。ノベルティには原鐵牛の作品があり、和食器以外にもこうした作家作品を取り扱ったようである。なお、伊藤赤水(5代・無明異

焼), 中里隆(唐津焼), 今泉今右衛門, 有田焼の源右衛門窯, 十四代柿右衛門の製品や, 備前焼, 益子焼なども散見されるが, 精陶社の取扱いではない後日に混入した品物と考えられるものも含まれている。

むすびにかえて

明治後期以降の陶磁資料に関する研究は, 民藝運動の方面で一定の成果があるものの, それ以前の時代と比較すれば未だ端緒についたばかりと言える。しかし, 近年では陶磁器の「伝統」に対する評価が同時代の陶磁器製造に影響を及ぼすようになった時期が, 陶磁史上において一つの重要な時期として捉えられるようになったと言える。すなわち, ナショナルリズムの高揚に関わり日本的なデザインが探求された昭和戦前期から, 第2次大戦後の文化財保護行政の形成期に至る動向⁸⁾, また, 1974年の通商産業省による伝統的工芸品産業の振興に関する法律の制定に関わる動向などである。そうした, すでに前世紀のこととなった20世紀における陶磁史研究が今後進捗するものと考えながら, 本資料群が将来の研究において有為な資料として活用されることを期待したい。

註

- 1) 中島浩氣(1936)『肥前陶磁史考』:407-408(肥前陶磁史考刊行会, ※清瀬社から1985年に復刊), 『伊万里市史』陶磁器編古唐津・鍋島(2006):330-331
- 2) 南邦男(1979)「柿右衛門・濁手の復興とその技法」岡田讓編『人間国宝シリーズ39柿右衛門[濁手]』:34-40, 講談社
- 3) 当館蔵「柿右衛門後援会々則」(1929年)
- 4) 当館では仁和窯製品(GB465一輪挿し他7点)を収蔵している。
- 5) 林田真由子(2021)「『年木庵喜三製』の染付蓋付碗」『ミュージアムアイズ』76, 明治大学博物館
- 6) 岡田直子編(2013)『真葛香山』:11-12, 吉兆庵美術館
- 7) 木田拓也(2014)『工芸とナショナルリズムの近代』:91-112, 吉川弘文館
- 8) 前掲註7) 木田著書:152-201。「伝統工芸」の成立を昭和戦後期に位置付ける木田の視点は, 今後の美術工芸史において一つのエポックメイキングたり得ると考える。

附編 2020年度商品部門購入・受贈資料

柿右衛門後援会々則 1929年(昭和4)

第十二代柿右衛門が人間国宝に指定される江戸期の濁し手作品(柿右衛門様式)の再現に成功するのは1953年(昭和28)のことで, 翌々年には文化庁による「記録作成等の措置を講ずべき無形文化財」に選

定されることになるが, それ以前においては長く不遇の時代を過ごしていた。経済的に困窮していた十二代は, 実業家小畑秀吉が「角福」の商標を時限的に譲り受け1919年(大正8)に設立した柿右衛門焼合資会社に技術指導者として迎えられた。しかし, 普及品の量産を目指す小畑の方針と, 芸術性を志向する十二代とは意向が合わず, 後援者の獲得を契機とし1928年(昭和3年)に退社に至った。本資料からは十二代の柿右衛門焼合資会社からの独立の経緯を知ることができる。



東京染小紋 柄見本

小紋染とは伊勢形紙を用いて絹縮緬の生地に捺染する染色技法である。生地に形紙を置き, 上から防染糊を押し着けると形紙に穿たれた“窓”の部分に付着する。その上から地色を入れて水洗いすると, 糊が落ちて白い絵柄が現れる仕組み。1998年度に館蔵伊勢形紙を用いて, 糊置工程及び完成品の染色をいただいた, 小紋染作家故樋口 實氏が所持していた柄見本をご遺族よりお譲りいただいた。1点は尺幅に形紙で2回分の糊置をした程度の短い生地を一反ほどの長さに継いだもので, もう1点は五寸幅で同様に作成したもの。

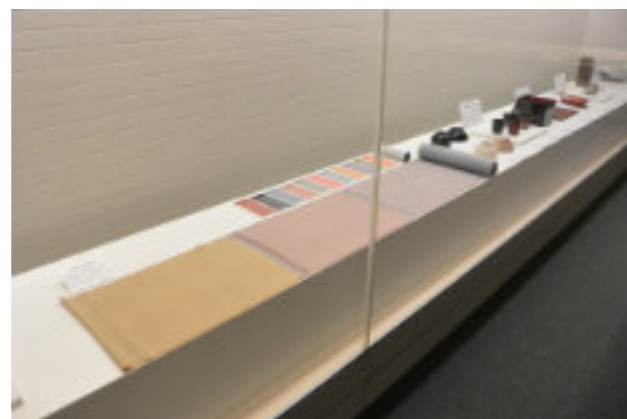


表1 精陶社関係陶磁資料目録(鍋島焼窯元)

番号	資料名	作者(製造者)	点数	内訳	高さ(cm)	口径(cm)	長さ(cm)	摘要	資料番号
1	染付花卉車文皿	(鍋島焼)	1		5.7	20			GB627
2	染付雲龍文煎茶器揃	(精巧社もしくは市川光春窯)	6	急須1 茶碗5	7.9 5.8	6.5	11.6		GB628
3	染付根引松文盃(小)	(精巧社もしくは市川光春窯)	48		3	5.7			GB649
4	染付根引松文盃(中)	(精巧社もしくは市川光春窯)	23		3.4	5.5			GB650
5	染付根引松文盃(大)	(精巧社もしくは市川光春窯)	24		3.7	7.2			GB651
6	染付根引松文飯碗	(精巧社もしくは市川光春窯)	5		8	10.8			GB652
7	染付楼閣文角平鉢	(精巧社もしくは市川光春窯)	10		3.5		14		GB653
8	①染付桐花文茶壺 ②染付麒麟文茶壺 ③染付菊花文茶壺	(精巧社もしくは市川光春窯)	3		9.9 11.5 12.5	9.2 10.6 10.6			GB654
9	染付花卉文盃	(精巧社もしくは市川光春窯)	1		3.3	6.3			GB655
10	染錦万年青文盃	(精巧社もしくは市川光春窯)	1		4	6			GB656
11	染錦万年青文盃	(精巧社もしくは市川光春窯)	1		3	6			GB657
12	染付牡丹文皿	(鍋島焼)	1		6	20.5			GB683
13	色絵葡萄文皿	(精巧社もしくは市川光春窯)	10	大皿5 中皿5	4.8 3.9	15.4 12.5			GB684
14	染付帆波文皿	(鍋島焼)	5		6	20.5			GB685
15	色絵万年青文皿	(鍋島焼)	6		3.9	13.2			GB686
16	色絵万年青文盃	(精巧社もしくは市川光春窯)	25		5.9	6			GB738
17	染錦桐花文盃	市川光山	1		5.8	6.8			GB739
18	色絵狸々文大鉢	(精巧社もしくは市川光春窯)	1		10.1	27.1			GB742
19	染付山水楼閣尺大平鉢	(鍋島焼)	1		12	34			GB743
20	染付双鶴文筆立て	(鍋島焼)	1		17.7	16.3			GB744
21	染付水車文皿	(鍋島焼)	5		4.3	15.3			GB745
22	色絵三瓢文皿	(精巧社もしくは市川光春窯)	5		4.4	15.1			GB746
23	染付連弁文ひだ皿	(鍋島焼)	5		3.3	15			GB747
24	染付紅葉文皿	(鍋島焼)	5		6	20.8			GB748
25	染付熨斗文皿	(鍋島焼)	2		5.5	21			GB749
26	染付牡丹文皿	(鍋島焼)	1		6	20.4			GB750
27	染付菘流水文皿	(鍋島焼)	2		5.5	21			GB751
28	染付牡丹文皿	(鍋島焼)	1		6.5	21			GB752
29	染付桜御所車文皿	(鍋島焼)	1		6	20			GB753
30	色絵花卉文盃	(精巧社もしくは市川光春窯)	9		3.1	4.8			GB754
31	染付根引松文盃	(精巧社もしくは市川光春窯)	3	大 中 小	3.6 3.3 3.3	7.8 7.1 5.9			GB755
32	染付根引松文蓋付碗	(精巧社もしくは市川光春窯)	23		8	10.7		1点柄違い	GB756
33	色絵万年青文土瓶	(精巧社もしくは市川光春窯)	1		9.8		13		GB757
34	染錦桐花文盃	市川光山	14	大5 小9	5.5 5	7 6			GB758
35	染錦桐花文盃	市川光山	19		5.2	5.5			GB759

註 無銘で鍋島様式の作品は(鍋島焼)と表記した

表2 精陶社関係陶磁資料目録（柿右衛門窯）

番号	資料名	作者（製造者）	点数	内訳	高さ(cm)	口径(cm)	長さ(cm)	摘要	資料番号
1	染錦蓮龍鳳文湯呑	酒井田柿右衛門	1		11.6	9.2			GB623
2	色絵柘榴文皿	酒井田柿右衛門	5		2	12		濁し手	GB624
3	染錦龍文香合	酒井田柿右衛門	1		3	7			GB625
4	色絵花鳥文八寸皿	酒井田柿右衛門	1		2.7	22		濁し手	GB665
5	染錦花菱帯文酒器揃	酒井田柿右衛門	7	徳利2 盃5	13.6 3.5	7 4.6			GB666
6	雀蜂香合	12代酒井田柿右衛門	1		4.5	5.7			GB667
7	染錦唐人文湯冷まし	酒井田柿右衛門	1		4.5		10		GB668
8	色絵花鳥丸文瓜形皿	酒井田柿右衛門	4		2.8		20.7		GB670
9	色絵牡丹丸文瓜形小皿	酒井田柿右衛門	2		2.4		10.7		GB671
10	染錦花卉文小皿	12代酒井田柿右衛門	5		2.5	9			GB672
11	染錦花卉文銘々皿	酒井田柿右衛門	5		3	12.5			GB673
12	色絵牡丹孔雀文角小皿	酒井田柿右衛門	8		3		10		GB674
13	染錦手花鳥文皿	酒井田柿右衛門	5		3	18.5			GB675
14	陶人形「狸々」	酒井田柿右衛門	1		12.1		20.4		GB676
15	染錦六瓢文茶器揃	酒井田柿右衛門	6	急須1 湯呑5	12 5.5	8.5	15.5		GB677
16	色絵柘榴文蒸碗	12代酒井田柿右衛門	5		9.9	10.2		濁し手	GB678
17	色絵柘榴文盃	酒井田柿右衛門	10	盃5 小皿5	3.3 1.5	5.3 7.7		濁し手	GB679
18	染錦柿文五寸皿	酒井田柿右衛門	12		2.9	15.4			GB680
19	染錦電風柘榴間取文八角鉢	12代酒井田柿右衛門	1		11.3		21.2		GB681
20	染錦柿文飯碗	酒井田柿右衛門	11		8.5	10.5			GB682
21	色絵柿文銚子	酒井田柿右衛門	2		13.7	7.5			GB760
22	染錦花菱帯文酒器揃	酒井田柿右衛門	6	銚子1 盃5	13.5 3.5	7 4.5			GB761
23	染錦葡萄文灰皿	酒井田柿右衛門	1		5	16.5			GB762
24	色絵唐人文蓋付碗	酒井田柿右衛門	5		5.8	10.3			GB763
25	染錦花鳥文六寸平鉢	酒井田柿右衛門	1		4.8	17.8			GB764
26	色絵柘榴文盃受け皿	酒井田柿右衛門	10		1.5	7.9		濁し手	GB765
27	染錦唐花七宝繫文三段九重	酒井田柿右衛門	1		12.2	10.3			GB766
28	染錦唐花鳳文皿	酒井田柿右衛門	5		3.5	14			GB767
29	染錦松竹梅花弁捻り文輪花皿	酒井田柿右衛門	6		3.5	14.5			GB768
30	色絵撫子文皿	14代酒井田柿右衛門	5		2.4	15.2		濁し手	GB769

註 「柿右衛門作」銘の作品は酒井田柿右衛門、精陶社の木箱に「十二代柿右衛門」の箱書きがあるものを12代酒井田柿右衛門と表記した

表3 精陶社関係陶磁資料目録（柿右衛門焼合資会社）

番号	資料名	作者（製造者）	点数	内訳	高さ(cm)	口径(cm)	長さ(cm)	摘要	資料番号
1	色絵花卉文輪花皿	柿右衛門焼合資会社	5		3.5	12.4			GB626
2	色絵花卉文輪花皿	柿右衛門焼合資会社	5		3.5	12			GB658
3	色絵花卉文輪花皿	柿右衛門焼合資会社	5		4	12			GB659
4	色絵花卉文輪花皿	柿右衛門焼合資会社	3		3.5	12			GB660

表4 精陶社関係陶磁資料目録（北部九州関係）

番号	資料名	作者（製造者）	点数	内訳	高さ(cm)	口径(cm)	長さ(cm)	摘要	資料番号
1	白磁裸婦像ノベルティ	原鐵牛	1		19		13	有田	GB634
2	白磁ノベルティ「ラグビーの男」	原鐵牛	1		17.8		17	有田	GB794
3	染付山水古器文蓋付碗	年木庵喜三	2		8	10.5		有田	GB664
4	染付山水古器文蓋付碗	年木庵喜三	8	大1 小7	8 7.7	10.5 10.7		有田	GB789
5	色絵葉桜楯文深皿	今泉今右衛門	1		4.5	15		有田	GB687
6	色絵散花文紅茶碗	香蘭社	1		4.5		12.9	有田	GB790
7	色絵散花文紅茶皿	香蘭社	1		2	10.9		有田	GB790
8	色絵双鱼花卉文小井	香蘭社	3		7.5	16		有田	GB791
9	色絵双鱼花卉文小井	香蘭社	2		7.5	15.9		有田	GB792
10	古染風桜紋中方皿	源右衛門窯	1		3.5		15.5	有田	GB793
11	染付唐人文盃	三川内平戸産	50		4	6		三川内	GB737
12	染付唐人文盃	三川内平戸産	10		3.9	6.1		三川内	GB795

表5 精陶社関係陶磁資料目録（横浜真葛窯）

番号	資料名	作者（製造者）	点数	内訳	高さ(cm)	口径(cm)	長さ(cm)	摘要	資料番号
1	染錦電魚文 香合	真葛香山	1		3	10			GB631
2	青磁小鉢	真葛（真葛香山）	5		5.5	12			GB645
3	赤絵花鳥文菓子鉢	真葛（真葛香山）	1		10	22.5			GB646
4	赤絵魚鳥文刺身鉢	真葛（真葛香山）	10	鉢5 醬油皿5	6 3		12.5 7		GB647
5	鉄絵山路文卷子形角皿	真葛（真葛香山）	10		6.5		20		GB648
6	古染付獅子牡丹文香合	真葛（真葛香山）	1		2	9			GB663
7	呉洲赤絵玉取獅子鳳菊魚文夫婦鉢	真葛（真葛香山）	2	大1 小1	9.5 8	21.5 17.5			GB770

表6 精陶社関係陶磁資料目録（京焼）

番号	資料名	作者（製造者）	点数	内訳	高さ(cm)	口径(cm)	長さ(cm)	摘要	資料番号
1	染付間取文湯呑揃	平安光泉（前野光泉窯）	6		7.9	5.4			GB637
2	染付丸紋銚子	平安光泉（前野光泉窯）	3		11.5	6.5			GB786
3	染付祥瑞文銚子	平安光泉（前野光泉窯）	15		11.7	6.2			GB787
4	染付祥瑞文酒器揃	平安光泉（前野光泉窯）	4	銚子小1 銚子大3 盃7	12 12.5 4	5.5 6 5			GB819
5	色絵紅葉文井鉢	高橋道八窯	1		9.7	18.3			GB644
6	染付筋面茶器揃	平安京泉（馬場製陶）	3	急須1 湯呑2	8.2 9.5		13.6 7		GB688
7	染付松竹梅文汲出	平安京泉（馬場製陶）	6		8	9			GB773
8	染付捻文煎茶器揃	利昌（加藤利昌）	7	宝瓶1 汲出し1 湯呑5	5.1 4.5 4.5		10.1 8		GB689
9	染付捻文煎茶器揃	利昌（加藤利昌）	7	宝瓶1 湯冷し1 碗5	5 4.5 4.5		10.5 8.5		GB777
10	染付蓮花唐草文盃	利昌（加藤利昌）	40		2.5	4.8			GB778
11	染付連葉文盃	利昌（加藤利昌）	3		3.5	5.3			GB779
12	染付連葉文盃	利昌（加藤利昌）	1		2.6	4.6			GB780

表6 (つづき)

13	染付丸紋盃	利昌(加藤利昌)	1		3.5	5.3			GB781
14	鉄呉須絵草花文八寸鉢	陶泉	1		10.5	25			GB771
15	染付分楽銘盃	陶泉	1		3.7	5.6			GB772
16	片口小猪口	(瑞豊・河合瑞豊)	20		4.7	7.5			GB774
17	白釉汲出	瑞豊(河合瑞豊)	5		6	8.4			GB775
18	青交趾葉皿	喜光(森野喜光)	5		2.5		18.2		GB776
19	染付松竹梅文盃	紫峰(伊藤紫峰)	6		4	5.1			GB782
20	色絵竹林文デミタスコーヒー碗皿	祝峰(井野祝峰窯)	5		6.5	12			GB783
21	染付輪繫文皿	祝峰(井野祝峰窯)	9		3	16			GB784
22	染付網目文皿	祝峰(井野祝峰窯)	3		2	16.5			GB822
23	色絵木賊文デミタスコーヒー碗皿	祝峰(井野祝峰窯)	4		6	11.9			GB848
24	染付捻文輪花碗	穂山(矢口窯田中穂山)	5		7	11.8			GB785
25	赤絵草花文銘々角皿	たち吉	5		3		14		GB788

表7 精陶社関係陶磁資料目録(その他)

番号	資料名	作者(製造者)	点数	内訳	高さ(cm)	口径(cm)	長さ(cm)	摘要	資料番号
1	志野釉汲出	加藤景秋	5		5.5	7.6			GB632
2	志野釉汲出	加藤景秋	8		6	7.4		美濃	GB796
3	志野釉汲出	加藤景秋	3		5.9	7.4		美濃 胎土赤	GB797
4	志野釉汲出	加藤景秋	2		5.9	7.4		美濃 胎土白	GB798
5	白磁甕子像ノベルティ	伊藤伊平	1		22.6		7.8	瀬戸	GB635
6	薬釉酒呑	中里隆	1		3	7		班唐津	GB661
7	灰釉梅花文盃揃	伊藤赤水(5代)	5	① ② ③ ④ ⑤	2.1 2.9 3.1 3.4 5.3	5 5 5.4 5 4.1			GB662
8	青釉洋酒器揃	王人	7	注器1 盃6	24.7 6	3.5	12		GB643
9	青釉花瓶	王人	1		24.2	13			GB801
10	青釉花器	王人	1		20		30		GB802
11	緑釉ひひ像	(王人)	1		26		17.5		GB803
12	緑鉄釉掻き落とし唐花文花器	王人	1		24	27.5			GB804
13	青釉水盤	(王人)	1		6.4		32.3		GB805
14	金唐草文外青汲出茶碗	宗金	19		5.3	9.2			GB641
15	色絵陶人形「背負い唐子」	陶山	1		25		11.6		GB690
16	無釉焼締花瓶	大山	1		18.9		6.3	備前焼	GB799
17	鉄絵草花文飾り皿	清	1		5	27.9		益子焼	GB800
18	染付月見人物文香合	春峰	1		3.4		6		GB810
19	染付梅菊菖蒲文八寸鉢	源六	1		10.2	24			GB811
20	白磁金彩卵立て	SEIHO	4		5.5	7			GB815
21	染付花卉文八角小皿	銀峯	5		2		12		GB821
22	染付蓮弁文小鉢	銀峯	5		4	10.5			GB826
23	染付蓮弁文蓋付碗	銀峯	1		7.9	10.2			GB827
24	染付蓮弁文八寸皿	銀峯	1		4.1	24.4			GB828
25	染付蓮弁文七寸平鉢	銀峯	1		6	21			GB829

表7 (つづき)

26	染付秋草文急須	有泉	2		12.3		11.3		GB824
27	染付秋草文蓋付湯呑	有泉	1		11.8	7.1			GB825
28	染付秋草文盃	有泉	12		3	5			GB831
29	染付秋草文盃	有泉	1		3.5	6.5			GB833
30	染付百葉長也銘盃	栖鳳	1		5.4	4.3			GB836
31	染付丸紋盃	陶寿	1		3.5	5.5			GB847
32	赤絵花鳥文井鉢		1		8.3	18.5			GB638
33	鉄薬灰釉湯呑		6		7	10			GB633
34	土人形「馬乗り大黒」		1		20.5		25		GB636
35	染付菊花文蒸茶器揃		7	急須1 湯冷し1 湯呑5	6.8 6.3 4.8		12.2 12.1		GB639
36	染付菊花文陸揃		4	飯碗大 飯碗小 湯呑大 湯呑小	7.7 7.1 10.5 9	12 11.3 8.2 7.3			GB640
37	染付笹唐花文ポット		1		19		27		GB642
38	染錦唐人文湯冷まし		1		4.5		8.5		GB669
39	無釉緋襷文土瓶蒸し		5		13		14		GB806
40	無釉緋襷文皿		5		2.1	12.3			GB807
41	無釉イッチン松葉文土瓶蒸し		1		9.6		15.1		GB808,809
42	青磁双鱼文七寸平鉢		1		6.1	22.5			GB812
43	染付熨斗形箸置き		21		1.5		7.8		GB813
44	染付網目文蓮華置き		4		2.6		9.5		GB814
45	染付桐花文碗		10		7	10			GB816
46	染付角受け皿		2		2.5		7.5	「唐子」銘	GB817
47	鉄薬灰釉碗		9		6.5	9.6			GB818
48	灰釉白流し盃		3		3.5	5			GB820
49	染付碁打人物山水文皿		4		2.5	15.5		「寅」銘	GB823
50	色絵こけし文盃		12		3.7	5.5			GB830
51	染付花鳥文盃		5		4	4.7			GB832
52	染付七面大明神銘盃		1		5.6	4.2			GB834
53	染付盃		1		3.2	6.2			GB835
54	鉄釉盃		1		2.5	6.3			GB837
55	染付鋸文盃		1		3.6	5			GB838
56	鉄釉搦鉢		1		4.5	9.5			GB839
57	灰釉緑鉄皿		1		2.3	15.8			GB840
58	色絵三瓢文蓋		1		2.5	9.5			GB841
59	染付花卉文蓋		1		2.9	8.4			GB842
60	染付網目文蓋		1		2.2	10.4			GB843
61	緑蛇の目文蓋		1		2	11.3			GB844
62	染錦山水文蓋		1		2.5	8.3			GB845
63	染付網目文鉢		1		3.4	7.7			GB846

明治大学博物館年報 2020年度

2021年7月 20日 発行

編集・発行 明治大学学術・社会連携部 博物館事務室

〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台1-1

電話 03-3296-4448 FAX 03-3296-4365

URL <http://www.meiji.ac.jp/museum/>
